令和4年 第2回

宿毛市議会定例会会議録

令和4年6月7日開会

令和4年6月22日閉会

宿毛市議会事務局

令和4年第2回宿毛市議会定例会会議録

目 次

第 1 日 (令和4年6月 7日 火曜日)	
議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
出席議員	1
欠席議員	2
事務局職員出席者	2
出席要求による出席者	2
開 会 (午前10時01分)	
○日程第1 会議録署名議員の指名	3
○日程第2 会期の決定	3
(諸般の報告)	
○日程第3 議案第1号から議案第11号まで	4
(提案理由の説明)	
市 長	4
散 会 (午前10時15分)	
----- . . . -----	
第 2 日 (令和4年6月 8日 水曜日) 休会	
----- . . . -----	
第 3 日 (令和4年6月 9日 木曜日) 休会	
----- . . . -----	
第 4 日 (令和4年6月10日 金曜日) 休会	
----- . . . -----	
第 5 日 (令和4年6月11日 土曜日) 休会	
----- . . . -----	
第 6 日 (令和4年6月12日 日曜日) 休会	
----- . . . -----	
第 7 日 (令和4年6月13日 月曜日)	
議事日程	7
本日の会議に付した事件	7
出席議員	7
欠席議員	7
事務局職員出席者	7
出席要求による出席者	7

開 議 (午前 10 時 00 分)

○日程第 1 一般質問	9
1 松浦英夫議員	9
市 長	9
松浦英夫議員	9
市 長	9
松浦英夫議員	9
企画課長	10
松浦英夫議員	10
市 長	10
松浦英夫議員	10
市 長	11
松浦英夫議員	11
市 長	11
松浦英夫議員	11
環境課長	12
松浦英夫議員	12
環境課長	12
松浦英夫議員	12
環境課長	13
松浦英夫議員	13
環境課長	13
松浦英夫議員	13
環境課長	13
松浦英夫議員	13
市 長	14
松浦英夫議員	14
環境課長	14
松浦英夫議員	14
市 長	14
松浦英夫議員	15
教 育 長	16
松浦英夫議員	16
教 育 長	16
松浦英夫議員	16
2 野々下昌文議員	17
学校給食センター所長	17

野々下昌文議員	1 8
福祉事務所長	1 8
野々下昌文議員	1 9
福祉事務所長	1 9
野々下昌文議員	1 9
福祉事務所長	1 9
野々下昌文議員	1 9
福祉事務所長	1 9
野々下昌文議員	1 9
福祉事務所長	2 0
野々下昌文議員	2 0
市 長	2 0
野々下昌文議員	2 1
市 長	2 1
野々下昌文議員	2 1
商工観光課長	2 2
野々下昌文議員	2 2
商工観光課長	2 3
野々下昌文議員	2 3
商工観光課長	2 3
野々下昌文議員	2 3
市民課長	2 4
野々下昌文議員	2 4
企画課長	2 4
野々下昌文議員	2 5
健康推進課長	2 5
野々下昌文議員	2 6
健康推進課長	2 7
野々下昌文議員	2 7
3 高倉真弓議員	2 8
総務課長	2 8
高倉真弓議員	2 8
総務課長	2 8
高倉真弓議員	2 8
総務課長	2 9
高倉真弓議員	2 9
総務課長	2 9

高倉真弓議員	29
福祉事務所長	30
高倉真弓議員	30
総務課長	30
高倉真弓議員	30
市長	31
高倉真弓議員	31
市長	32
高倉真弓議員	32
産業振興課長	33
生涯学習課長兼宿毛文教センター所長	33
高倉真弓議員	34
税務課長	34
高倉真弓議員	35
税務課長	35
高倉真弓議員	35
4 三木健正議員	35
商工観光課長	35
三木健正議員	36
商工観光課長	36
三木健正議員	36
商工観光課長	36
三木健正議員	37
市長	37
三木健正議員	38
市長	38
三木健正議員	38
市長	39
三木健正議員	39
市長	39
三木健正議員	40
市長	40
三木健正議員	40
市長	41
三木健正議員	41
企画課長	42
三木健正議員	42

企画課長	4 2
三木健正議員	4 3
企画課長	4 3
三木健正議員	4 3
企画課長	4 3
三木健正議員	4 4
延 会（午後2時25分）	

----- . . ----- . . -----

第 8 日（令和4年6月14日 火曜日）

議事日程	4 5
本日の会議に付した事件	4 5
出席議員	4 5
欠席議員	4 5
事務局職員出席者	4 5
出席要求による出席者	4 5

開 議（午前10時01分）

○日程第1 一般質問	4 7
1 今城 隆議員	4 7
危機管理課長	4 7
今城 隆議員	4 7
危機管理課長	4 8
今城 隆議員	4 8
危機管理課長	4 8
今城 隆議員	4 8
危機管理課長	4 9
今城 隆議員	4 9
危機管理課長	5 0
今城 隆議員	5 0
危機管理課長	5 1
今城 隆議員	5 1
危機管理課長	5 1
今城 隆議員	5 1
危機管理課長	5 2
今城 隆議員	5 2
危機管理課長	5 3
今城 隆議員	5 3
危機管理課長	5 4

今城 隆議員	5 4
市 長	5 4
今城 隆議員	5 5
市 長	5 5
今城 隆議員	5 5
生涯学習課長兼宿毛文教センター所長	5 6
今城 隆議員	5 6
教 育 長	5 6
今城 隆議員	5 6
教 育 長	5 6
今城 隆議員	5 6
教 育 長	5 6
今城 隆議員	5 6
教 育 長	5 7
今城 隆議員	5 7
教 育 長	5 7
今城 隆議員	5 7
総務課長	5 8
今城 隆議員	5 8
総務課長	5 9
今城 隆議員	5 9
福祉事務所長	6 0
今城 隆議員	6 0
福祉事務所長	6 0
今城 隆議員	6 0
市 長	6 0
今城 隆議員	6 1
2 岡崎利久議員	6 2
企画課長	6 2
岡崎利久議員	6 2
企画課長	6 2
岡崎利久議員	6 2
企画課長	6 3
岡崎利久議員	6 3
産業振興課長	6 3
岡崎利久議員	6 4
産業振興課長	6 4

岡崎利久議員	6 4
産業振興課長	6 4
岡崎利久議員	6 5
産業振興課長	6 5
岡崎利久議員	6 5
市 長	6 5
岡崎利久議員	6 6
危機管理課長	6 6
岡崎利久議員	6 7
危機管理課長	6 7
岡崎利久議員	6 7
危機管理課長	6 7
岡崎利久議員	6 8
市 長	6 8
岡崎利久議員	6 8
市 長	6 8
岡崎利久議員	6 9
3 川田栄子議員	7 0
健康推進課長	7 1
川田栄子議員	7 2
健康推進課長	7 2
川田栄子議員	7 2
健康推進課長	7 3
川田栄子議員	7 3
健康推進課長	7 3
川田栄子議員	7 3
健康推進課長	7 3
川田栄子議員	7 3
健康推進課長	7 4
川田栄子議員	7 4
健康推進課長	7 4
川田栄子議員	7 4
健康推進課長	7 5
川田栄子議員	7 5
健康推進課長	7 5
川田栄子議員	7 5
健康推進課長	7 6

川田栄子議員	7 6
教育次長兼学校教育課長	7 6
川田栄子議員	7 6
市 長	7 6
川田栄子議員	7 7
健康推進課長	7 7
川田栄子議員	7 7
健康推進課長	7 7
川田栄子議員	7 7
健康推進課長	7 8
川田栄子議員	7 8
健康推進課長	7 8
川田栄子議員	7 8
健康推進課長	7 8
川田栄子議員	7 9
総務課長	7 9
川田栄子議員	7 9
健康推進課長	7 9
川田栄子議員	8 0
健康推進課長	8 0
川田栄子議員	8 0
健康推進課長	8 1
川田栄子議員	8 1
教育次長兼学校教育課長	8 1
川田栄子議員	8 2
教育次長兼学校教育課長	8 2
川田栄子議員	8 2
市 長	8 2
川田栄子議員	8 2
市 長	8 3
教育次長兼学校教育課長	8 3
川田栄子議員	8 3
教育次長兼学校教育課長	8 3
川田栄子議員	8 3
教 育 長	8 4
川田栄子議員	8 5
教 育 長	8 6

川田栄子議員	8 6
市 長	8 7
川田栄子議員	8 7
土木課長	8 7
川田栄子議員	8 8
商工観光課長	8 8
川田栄子議員	8 8
商工観光課長	8 8
川田栄子議員	8 9
4 堀 景議員	8 9
環境課長	9 0
堀 景議員	9 0
環境課長	9 0
堀 景議員	9 0
環境課長	9 0
堀 景議員	9 0
市 長	9 1
堀 景議員	9 1
土木課長	9 2
堀 景議員	9 2
土木課長	9 2
堀 景議員	9 2
土木課長	9 3
堀 景議員	9 3
環境課長	9 4
堀 景議員	9 4
環境課長	9 4
堀 景議員	9 4
環境課長	9 5
堀 景議員	9 5
生涯学習課長兼宿毛文教センター所長	9 5
堀 景議員	9 5
生涯学習課長兼宿毛文教センター所長	9 5
堀 景議員	9 6
生涯学習課長兼宿毛文教センター所長	9 6
堀 景議員	9 6
市 長	9 7

堀 景議員	97
市 長	97
堀 景議員	97
土木課長	98
堀 景議員	98
市 長	98
堀 景議員	99
市 長	99
堀 景議員	99
危機管理課長	100
堀 景議員	100
危機管理課長	100
堀 景議員	100
散 会 (午後5時36分)	

----- . . ----- . . -----

第 9 日 (令和4年6月15日 水曜日)

議事日程	101
本日の会議に付した事件	101
出席議員	101
欠席議員	101
事務局職員出席者	101
出席要求による出席者	101
開 議 (午前10時01分)	
○日程第1 議案第1号から議案第11号まで	103
質疑	103
1 川村三千代議員	103
総務課長	103
川村三千代議員	104
人権推進課長	104
川村三千代議員	104
総務課長	104
川村三千代議員	104
長寿政策課長	105
川村三千代議員	105
長寿政策課長	105
川村三千代議員	106
人権推進課長	106

川村三千代議員	106
人権推進課長	106
川村三千代議員	107
健康推進課長	107
川村三千代議員	108
健康推進課長	108
川村三千代議員	108
商工観光課長	109
川村三千代議員	109
商工観光課長	109
川村三千代議員	109
委員会付託省略（議案第1号から議案第4号まで）	110
委員会付託（議案第5号から議案第11号まで）	110
散 会（午前10時33分）	
議案付託表	111

----- . . ----- . . -----

第10日（令和4年6月16日 木曜日） 休会

----- . . ----- . . -----

第11日（令和4年6月17日 金曜日） 休会

----- . . ----- . . -----

第12日（令和4年6月18日 土曜日） 休会

----- . . ----- . . -----

第13日（令和4年6月19日 日曜日） 休会

----- . . ----- . . -----

第14日（令和4年6月20日 月曜日） 休会

----- . . ----- . . -----

第15日（令和4年6月21日 火曜日） 休会

----- . . ----- . . -----

第16日（令和4年6月22日 水曜日）

議事日程	113
本日の会議に付した事件	113
出席議員	113
欠席議員	113
事務局職員出席者	113
出席要求による出席者	113

開 議（午前10時01分）

○日程第1 議案第1号から議案第11号まで	115
-----------------------	-----

(議案第1号)	
討論・表決	115
(議案第2号)	
討論・表決	115
(議案第3号)	
討論・表決	115
(議案第4号)	
討論・表決	115
(議案第5号から議案第11号まで)	
委員長報告	
予算決算常任委員会副委員長	115
総務文教常任委員長	119
産業厚生常任委員長	120
質疑	120
(議案第5号)	
討論	120
川田栄子議員(反対)	120
岡崎利久議員(賛成)	125
表決	125
(議案第6号から議案第11号まで)	
討論・表決	126
○日程第2 委員会調査について	126
継続調査	126
(閉会挨拶)	
市長	126
閉会(午前11時29分)	
委員会審査報告書	128
閉会中の継続調査申出書	131

-----・-----
付 録

一般質問通告表	付一 1
議決結果一覧表	付一 7
議案	付一 7

令和4年
第2回宿毛市議会定例会会議録第1号

1 議事日程

第1日（令和4年6月7日 火曜日）

午前10時 開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 会期の決定

○諸般の報告

第3 議案第1号から議案第11号まで

議案第 1号 固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて

議案第 2号 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議案第 3号 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議案第 4号 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議案第 5号 令和4年度宿毛市一般会計補正予算について

議案第 6号 令和4年度宿毛市国民健康保険事業特別会計補正予算について

議案第 7号 令和4年度宿毛市特別養護老人ホーム特別会計補正予算について

議案第 8号 令和4年度宿毛市学校給食事業特別会計補正予算について

議案第 9号 宿毛市津波避難タワーの設置及び管理に関する条例の制定について

議案第10号 宿毛市国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

議案第11号 宿毛市介護保険条例の一部を改正する条例について

2 本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 議案第1号から議案第11号まで

3 出席議員（13名）

1番	今 城 隆 君	2番	堀 景 君
3番	三 木 健 正 君	4番	川 田 栄 子 君
5番	川 村 三 千 代 君	7番	高 倉 真 弓 君
8番	山 上 庄 一 君	9番	山 戸 寛 君
10番	岡 崎 利 久 君	11番	野々下 昌 文 君
12番	松 浦 英 夫 君	13番	寺 田 公 一 君

1 4 番 濱 田 陸 紀 君

----- . . ----- . . -----

4 欠席議員

な し

----- . . ----- . . -----

5 事務局職員出席者

事務局 長	黒 田 厚 君
次長兼庶務係長 兼調査係長	奈 良 和 美 君
議事係 長	桑 原 美 穂 君

----- . . ----- . . -----

6 出席要求による出席者

市 長	中 平 富 宏 君
副 市 長	岩 本 昌 彦 君
企 画 課 長	上 村 秀 生 君
総務課長兼 選挙管理委員会事務局長	桑 原 一 君
危機管理課長	有 田 巧 史 君
市 民 課 長	岡 本 武 君
税 務 課 長	山 岡 敏 樹 君
会計管理者兼 会 計 課 長	佐 藤 恵 介 君
健康推進課長	松 田 まなみ 君
長寿政策課長	谷 本 裕 子 君
環 境 課 長	谷 本 和 哉 君
人権推進課長	川 村 志 保 君
産業振興課長	岩 本 敬 二 君
商工観光課長	長 山 敏 昭 君
土 木 課 長	澤 田 英 典 君
都市建設課長	小 島 裕 史 君
福祉事務所長	朝比奈 淳 司 君
水 道 課 長	川 島 義 之 君
教 育 長	鎌 田 勇 人 君
教育次長兼 学校教育課長	和 田 克 哉 君
生涯学習課長 兼宿毛文教 センター所長	中 平 成 也 君
学 校 給 食 センター所長	平 井 建 一 君

----- . . . ----- . . . -----

午前10時01分 開会

○議長（寺田公一君） これより、令和4年第2回宿毛市議会定例会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

日程第1「会議録署名議員の指名」を行います。

会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において三木健正君及び川田栄子君を指名いたします。

日程第2「会期の決定」を議題といたします。お諮りいたします。

今期定例会の会期は、本日から6月22日までの16日間といたしたいと思っております。

これに御異議ありませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 御異議なしと認めます。

よって、今期定例会の会期は、本日から6月22日までの16日間と決定いたしました。

この際「諸般の報告」をいたします。

去る5月25日に開催されました第98回全国市議会議長会定期総会において、岡崎利久君、松浦英夫君が議員15年以上の一般表彰を受けられました。

本席から、多年にわたり地方議会に貢献されましたこの功績と名誉に対し、衷心よりお祝いを申し上げます。

市長から、地方自治法第243条の3第2項の規定に基づき、5月31日付をもって、令和3年度宿毛市清掃公社事業実績報告書及び決算書並びに監査報告書、令和4年度宿毛市清掃公社事業計画及び予算書が提出されましたので、お手元に配付いたしました。

会議規則第62条第2項の規定により、一般質問の通告の期限を本日後3時と定めますので、質問者は期間内にその要旨を文書で通告してください。

なお、閉会中の議員派遣及び事務的な報告書につきましては、お手元に配付いたしました文書のとおりでありますので、これにより御了承願います。

市長から報告事項がありますので、発言を許します。

市長。

○市長（中平富宏君） 皆様、おはようございます。

本日は、令和4年第2回宿毛市議会定例会に御参集いただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど、議長からも報告がありましたように、全国市議会議長会定期総会におきまして、岡崎利久議員、松浦英夫君が議員15年以上の一般表彰を受けられました。この榮譽に対しまして、心からお祝いを申し上げますと共に、ますますの御活躍を御祈念申し上げます。

誠にめでたうございます。

それでは、報告事項につきまして、御説明申し上げます。

報告第1号から第5号までは、令和3年度予算の繰越明許費の報告についてでございます。順を追って御説明いたします。

報告第1号は、令和3年度宿毛市一般会計予算繰越明許費としまして、市庁舎改修事業ほか42事業、総額22億2,770万3,000円を、報告第2号は、令和3年度宿毛市特別養護老人ホーム特別会計予算繰越明許費としまして、施設改修事業1,409万1,000円を、報告第3号は、令和3年度宿毛市学校給食事業特別会計予算繰越明許費としまして、給食センター改築実施設計委託事業2,669万3,000円を、報告第4号は、令和3年度宿毛市下水道事業特別会計予算繰越明許費としまして、ストックマネジメント事業ほか1事業、総額4,584万5,000円を、報告第5号は、令和

3年度宿毛市国民宿舎運営事業特別会計予算繰越明許費としまして、国民宿舎空調改修事業、295万9,000円を、それぞれ繰越計算書のとおり、令和4年度に繰越しましたので、地方自治法施行令第146条第2項の規定により、御報告申し上げるものでございます。

報告第6号は、令和3年度宿毛市水道事業会計予算繰越の報告でございます。

関係機関との工期調整に不測の日数を要したため、市道大深浦線配水管布設替え工事、3,124万円を、令和4年度に繰越しましたので、地方公営企業法第26条第3項の規定により、報告するものでございます。

報告第7号は、令和3年度宿毛市一般会計予算事故繰越の報告についてでございます。

令和2年度から令和3年度へ繰越しておりました道路新設改良事業ほか2事業につきまして、移転補償や用地取得に伴う調整、災害復旧工事の急増による資材不足、及び周辺地区との調整などに不測の日数を要したため、総額1億3,126万1,000円を繰越計算書のとおり、令和4年度に事故繰越しましたので、地方自治法施行令第150条第3項の規定により、御報告申し上げるものでございます。

次に、令和3年度の各会計の決算状況につきまして、お手元に配付しております資料をもとに、その概要を御説明申し上げます。

一般会計では、実質収支は、約7億8,316万円の黒字決算となり、剰余金のうち、4億円を財政調整基金に積立てをいたしました。

特別会計では、介護保険事業、後期高齢者医療の2会計が黒字決算となっております。今後も給食センターなど、大型の建設事業が控えておりますので、引き続き、適正で効率的な行財政運営を推進してまいります。

議員の皆様方におかれましては、今後とも、より一層の御支援御協力を賜りますようお願い

申し上げます。報告事項の説明とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

○議長（寺田公一君） 以上で、諸般の報告を終わります。

日程第3「議案第1号から議案第11号まで」の11議案を一括議題といたします。

この際、提案理由の説明を求めます。

市長。

○市長（中平富宏君） 引き続きまして、御提案申し上げました議案につきまして、提案理由の説明をいたします。

議案第1号は、固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについてでございます。

固定資産評価審査委員会委員3名のうち、1名の委員が任期満了となりますので、現委員の山本卓助氏を引き続き選任することについて、地方税法第423条第3項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

議案第2号から第4号までは、令和4年9月30日をもって任期満了となる3名の人権擁護委員につきまして、現委員の1名の方と新たに2名の方を人権擁護委員候補者として推薦するにあたり、人権擁護委員法第6条第3項の規定に基づき、議会の議決を求めるものでございます。

議案第5号は、令和4年度宿毛市一般会計補正予算についてでございます。

総額で4億1,326万3,000円を追加しようとするものです。

歳入で増額する主なものは、国庫支出金7,300万2,000円、基金繰入金2億6,704万9,000円となっております。

一方、歳出で増額する主なものは、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業として、商工費でコロナ対策地

域振興券事業1億1,311万9,000円を計上しております。

また、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金と、デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用して、行政のデジタルサービスを市民にナビゲートするアプリの導入と、医療介護情報連携システム「はたまるねっと」との連携による健康増進施策の推進を図るデジタル・ヘルスケアによる安心して暮らせるまちづくり事業9,377万円を計上しております。

また、衛生費においては、脱炭素化に向けて再生可能エネルギーを活用するための計画作成費として、再生可能エネルギー導入に関する調査分析事業1,980万円を計上しております。

議案第6号は、令和4年度宿毛市国民健康保険事業特別会計補正予算についてでございます。総額で50万円を増額しようとするもので、内容としましては、新型コロナウイルスに感染し、または感染が疑われる被保険者への傷病手当金に対する国の財政支援の適用期間が、昨年度末から今年9月末まで延長となったため、引き続き傷病手当金を支給しようとするものです。

議案第7号は、令和4年度宿毛市特別養護老人ホーム特別会計補正予算についてでございます。総額で107万円を増額しようとするもので、内容としましては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、入浴介助用リフト等を導入しようとするものです。

議案第8号は、令和4年度宿毛市学校給食事業特別会計補正予算についてでございます。総額で2,734万1,000円を増額しようとするもので、内容としましては、新型コロナウイルス感染症の長期化などによって、食材費などが高騰していることから、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、給食費の負担軽減を図ろうとするものです。議案第9号は、宿毛市津波避難タワーの設置及

び管理に関する条例の制定についてでございます。

内容につきましては、中央五丁目及び駅前町二丁目に整備している2基の津波避難タワーの設置及び管理に関する条例を、地方自治法第244条の2第1項に基づき制定しようとするものです。

議案第10号は、宿毛市国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてでございます。

内容につきましては、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、一定程度収入が減少した被保険者に対して国民健康保険税の減免を行うために、本条例の一部を改正しようとするものです。

議案第11号は、宿毛市介護保険条例の一部を改正する条例についてでございます。

内容につきましては、議案第10号と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により一定程度収入が減少した被保険者に対して介護保険料の減免を行うために、本条例の一部を改正しようとするものです。

以上が、御提案申し上げました議案の内容でございます。

どうかよろしく御審議の上、適切な御決定をいただきますようお願い申し上げます。提案理由の説明とさせていただきます。

○議長（寺田公一君） これにて、提案理由の説明は終わりました。

お諮りいたします。

議事の都合により、6月8日から6月10日まで休会いたしたいと思っております。

これに御異議ありませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 御異議なしと認めます。

よって、6月8日から6月10日まで休会することに決しました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

6月8日から6月12日までの5日間休会し、
6月13日午前10時より再開いたします。

本日は、これにて散会いたします。

午前10時15分散会

令和4年
第2回宿毛市議会定例会会議録第2号

1 議事日程

第7日（令和4年6月13日 月曜日）

午前10時 開議

第1 一般質問

----- . . . -----

2 本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

----- . . . -----

3 出席議員（13名）

1番 今 城 隆 君	2番 堀 景 君
3番 三 木 健 正 君	4番 川 田 栄 子 君
5番 川 村 三千代 君	7番 高 倉 真 弓 君
8番 山 上 庄 一 君	9番 山 戸 寛 君
10番 岡 崎 利 久 君	11番 野々下 昌 文 君
12番 松 浦 英 夫 君	13番 寺 田 公 一 君
14番 濱 田 陸 紀 君	

----- . . . -----

4 欠席議員

な し

----- . . . -----

5 事務局職員出席者

事務局 長	黒 田 厚 君
次長兼庶務係長 兼調査係長	奈 良 和 美 君
議事係長	桑 原 美 穂 君

----- . . . -----

6 出席要求による出席者

市 長	中 平 富 宏 君
副 市 長	岩 本 昌 彦 君
企 画 課 長	上 村 秀 生 君
総 務 課 長 兼 選挙管理委員会事務局長	桑 原 一 君
危機管理課長	有 田 巧 史 君
市 民 課 長	岡 本 武 君
税 務 課 長	山 岡 敏 樹 君

会計管理者兼 会計課長	佐藤 恵介 君
健康推進課長	松田 まなみ 君
長寿政策課長	谷本 裕子 君
環境課長	谷本 和哉 君
人権推進課長	川村 志保 君
産業振興課長	岩本 敬二 君
商工観光課長	長山 敏昭 君
土木課長	澤田 英典 君
都市建設課長	小島 裕史 君
福祉事務所長	朝比奈 淳司 君
水道課長	川島 義之 君
教育長	鎌田 勇人 君
教育次長兼 学校教育課長	和田 克哉 君
生涯学習課長 兼 宿毛文教 センター所長	中平 成也 君
学校給食 センター所長	平井 建一 君

----- . . . ----- . . . -----

午前10時00分 開議

○議長（寺田公一君） これより本日の会議を開きます。

日程第1、「一般質問」を行います。

順次発言を許します。

12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） 皆さん、おはようございます。12番、松浦でございます。ただいまより通告しております内容について、市長並びに教育長に対し、一般質問を行います。

この議場で初めてのことであり、そしてまた、久しぶりの一番バッターということで、大変緊張しておりますけれども、よろしく願いいたします。

世界を見ても、今なおロシアは、ウクライナへ強力な軍事力を持って侵攻が続いておりまして、世界中の各地からロシアへの非難と、即時停戦と平和を求める声が上がっていることが大きく報道されております。

私たち社民党は、平和憲法を守るとの立場であり、今回のロシアによるウクライナ侵攻は、到底容認することができません。

また、いかなる理由があるにせよ、全ての国による戦争にも反対であります。そうした立場を明確にしておきたいと思っております。

今回、私が質問する内容は、2点についてでありまして、市長の憲法についての認識と、それに基づく中山間地域の対策、そして教育長に対し、鶴来島戦争遺跡調査活動の感想と、今後の取組について、私なりに伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、まずはじめは、市長の中山間地域対策について伺いたいと思います。

まず、初めは、国民の生存権についてうたった憲法25条についてであります。その条文では、すべて国民は、健康で文化的な最低限度

の生活を営む権利を有する。

また、第2号では、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならないとあります。

この条文について、市長としてどのように考えているのか、その認識について、まず伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） 松浦議員の一般質問にお答えをさせていただきます。

日本国憲法第25条は、先ほど議員からもおっしゃられましたが、全ての国民が健康で文化的な最低限度の生活を営む権利と、国家の社会的責務に関して規定しているとの認識をしておるところでございます。

以上です。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） 次の質問に移りますが、この条文にあります、健康で文化的な最低限度の生活ということについては、どのように理解をしているのか、市長としての所見をお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをいたします。

健康で文化的な最低限度の生活につきまして、憲法には、その明確な基準は示されておられません。

健康で文化的な最低限度の生活という表現につきましては、極めて抽象的で、総体的な概念でありまして、その具体的内容については、経済や社会的条件、一般的な国民生活の状況など、その時代背景との相関関係において判断されるものと理解しておるところでございます。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） これから本題に入るわけですが、中山間地域対策。

昨年12月議会の中で、集落の実態調査に

ついて、宿毛市独自の実態調査について質問した経過がありますが、宿毛市独自の調査については、市長は否定をされました。

しかし、市長は、私への答弁の中で、宿毛市でも65か所での調査があったとのことですが、宿毛市での対象となった集落はどこであるのか、主な所で構いませんので、お示しをいただきたいと思えます。

○議長（寺田公一君） 企画課長。

○企画課長（上村秀生君） 企画課長、松浦議員の一般質問にお答えいたします。

議員からの御質問にありましたとおり、昨年度、高知県により県内のおおむね50世帯未満の集落を対象に、10年ぶりに集落実態調査が実施されました。

本市におきましては、当初、65の集落が調査対象となりましたが、集落との調整がつかない等の理由により、結果的に59の集落に対して調査が行われております。

調査対象となった具体的な集落名につきましては、特に人口の少ない集落では、公開することにより個人が特定される恐れがあるため、非公開とすることが、調査の実施主体である高知県より求められておることから、お示しすることはできないこととなっております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） 個人情報という部分があるということで、法は法で、遵守しなければならないということでありまして、特定できる集落もあり得る可能性が、全てではないと思えます。

けれども、それでもこの実態調査の中間報告を出すことによって、集落名を出すことによって、その集落が特定できる。個人情報に該当する。分かりました。

今、答弁ありましたように、高知県は県下の

集落の実態調査を、昨年6月から本年の1月にかけて行ってまいりました。その調査結果をもとにして、今後の高知県の中山間地域の対策に生かそうと考えております。

このほど、その調査結果についての中間報告という形ではありますが、報告があったとのことでもあります。

新聞報道によりますと、県下の集落において、10年前と比べて高齢化が進む等大きく衰退しているとの報告がなされました。高知県が行った調査についての中間報告について、どのような内容であるのか、そしてどのように受け止めておることなのか、市長の所見をお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをいたします。

今回の集落実態調査の結果を見ますと、人口減少や高齢化のため、地域としての機能が低下をし、主要産業が衰退している状況、また、集落の今後については、現在より衰退しているであろうと考える人が7割を超えるなど、集落を取り巻く厳しい現状が、改めて明らかになったところでございます。

その一方で、多くの方が集落への愛着や誇りを感じ、8割近くの方が今の集落に、これからも住み続けたいと答えるなど、それぞれの集落に対する変わらない思いなども再認識をすることができました。

また、集落の活性化のために必要とする取組や、今後、取り組みたいことの回答といたしまして、移住者の受入れに関することや、近隣集落との連携を挙げる方が多くいらっしゃいましたので、この結果を参考に今後の施策に生かしていきたい、そのように考えているところでございます。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） 私としては、この調査結果の中間報告を受けて、今後の宿毛市にお

いても、行政施策と言いますか、中山間地域の対策に反映すべきであると考えます。

先ほども触れましたが、高知県はこの調査結果を基にして、今後の高知県における中山間地域の対策に生かそうと考えているようであります。

先ほど、市長の答弁があったと思いますけれども、宿毛市として、今回の中間報告を受けて、行政施策として、どのように反映しようと考えているのか。今後の取組み方について、お伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをいたします。

集落实態調査を実施をしました高知県としては、集落活動センターのこれまでの取組や、今回の調査結果から見えてきた課題といたしまして、センターがカバーしていない地域への支援が必要であることを挙げ、今後はセンターの構成集落に入っていない、小さな集落に活力を生み出す取組を実施することとしているところでございます。

本市におきましても、住民の方が、それぞれの集落で暮らし続けることができるよう、集落を維持するために、今回、明らかになった集落の活性化に対する住民の思いを参考にしながら、高知県と連携し、調査結果により浮かび上がってきた様々な課題の解決に向けて、取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） ということは、具体的には、まだこういう事業を行いたいとかいう部分についての案というか、考え方というか、それはないわけですね。

その点を伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

非常にこの問題に関しましては、多岐にわたって、いろいろな原因であるとか、また、いろいろなことが作用しているというふうに考えているところでございます。

アンケート結果、出たばかりでございますので、そちらのほう、しっかりと分析をしながら、また高知県のほうとも連携をしながら、取組をしていきたいと考えております。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） しっかり高知県と協議をして、宿毛市における中山間地域対策、全力で取り組んでいただきたいということを申し上げて、次の質問に移ります。

御案内のとおり、沖の島は高知県唯一の有人の離島であります。宿毛市の産業や観光行政を考えると、沖の島はなくてはならない重要な位置づけではないかと思えます。

私としては、何事を見ても、離島という厳しい生活環境であるがゆえに、街区で生活している方には当たり前であっても、当たり前に行われていない、非常に残念でなりません。

早急な対策を講じるべきであると考えます。

先ほど、生存権をうたった憲法25条について質問いたしましたが、どこで生活しても、皆同じく生活ができるように、早急に準備をしなければなりません。

中山間地域の対策と言いますか、離島対策の一つであり、早急に対策を講じなければならない課題の一つとして挙げられるのは、離島や地理的に便利の悪い地区のし尿処理問題であります。

特に離島である沖の島で生活される方にとって、日常の生活を営む上で、大変重要な課題ではないでしょうか。

この問題については、この3月議会において、同僚である市民クラブの山戸議員が質問した経緯があります。この質問を通じて、宿毛市の行

政としての責務等については、多くは明らかになりましたが、なお関連する問題について、以下、質問をいたします。

この問題を解決していくことは、宿毛市にとっても頭の痛い課題であると思います。

しかし、早急に取り組まなければならない重要な課題でもあると思います。具体的にどのような取組をしなければならないと考えているのか、今後の取組についてお伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） 環境課長、松浦議員の質問にお答えいたします。

沖の島・鵜来島のし尿処理に関しましては、起重機船を使用しまして、バキュームカーを島まで海上輸送した上で、幡西衛生業組合に収集業務を依頼しており、平成24年度から現在の方法で実施しております。

起重機船を使用して、バキュームカーを海上輸送することから、収集実施日の数カ月前には島民の方々に要望調査を実施しまして、希望者リストと地図作成を担当課で行うため、当日の急な収集依頼には対応できず、また希望者が多い場合には、バキュームカーのタンクの容量の関係で収集ができないといった状況も発生するなど、島民の皆様には御迷惑をおかけしております。

市としましては、収集回数を増やすなどして、希望者全員の収集が可能となるよう、取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） 今回の答弁は、3月議会で山戸議員に対して答えた部分と重複すると言いますか、重なり合う部分であろうかと思えますけれども。

次の質問に移ります。

先日、沖の島開発促進協議会の役員会に参加

させていただきました。

沖の島開発促進協議会から、毎年、宿毛市に陳情活動がなされておりまして、その陳情項目には、必ずこの問題が含まれております。

毎年行っています沖の島開発促進協議会からの陳情に対し、宿毛市の答弁書を拝見いたしました。

その中で宿毛市は、今後もよい方法を模索していくが、今のところ現状の方法で継続していくとのことであります。

促進協議会から陳情された内容について、どのように検討しているのか、まずお伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） 環境課長、お答えいたします。

陳情の内容につきましては、島民の方々の高齢化が進み、現在の延長ホースを使用した収集方法では、延長ホースの設置や片づけが大変で、いつまで続けられるのか不安であるため、別の方法を検討していただきたいというもので、担当課としましては、他自治体の取組事例など情報収集を行い、現在の延長ホースでの収集方法と比較検討を行っているところでございます。

一例で申しますと、市で軽自動車バキュームカーを用意し、島内の方に収集業務を依頼する方法や、陳情内容にもあります塩ビパイプを設置する方法などが挙げられますが、設置費用や経費負担の問題など、それぞれ一長一短あり、現在の延長ホースを設置する方法で収集業務を行うことが、最も安定的に収集業務を継続実施できるものと判断したものでございます。

以上です。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） 次の質問に入る内容の答弁に、今の部分、含まれると思えますけれども、現在の方法である延長ホースの設置によ

る収集業務についても、どの山間部でも同じでありますように、高知県が行った集落の実態調査でも明らかにされましたように、ますます高齢者が増えて、このままでは将来的に現在の延長ホースの設置による収集業務についても、事業を継続していくことに対して難しく、皆さんが大変不安に思っておるところでございます。どうしても行政の強力な取組が求められます。

今日、この状況について、実態をどのように把握されておられるのか、まずお伺いたします。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） お答えいたします。

沖の島・鵜来島でのし尿の収集業務を行う際には、環境課職員も島に同行しまして、作業内容の確認を行っておりますので、島の人口減少や高齢化などにより、延長ホースの設置作業が困難となりつつある状況、また島民の方々が大変御苦労されている状況に関しましては、少なからず承知しておるところでございます。

延長ホースの設置作業員の確保に関しましては、鵜来島地区では渡船業者の御理解のもと、設置作業を御協力をいただくことで、設置作業や収集業務が実施できております。

今後も地元の方々から情報をいただく中で、延長ホース設置作業に御協力いただける方の掘り起こしを行ってまいりたいと考えております。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） 平成24年に始まったこういう事業、10年以上経過しておるわけですが、それでも対応を任せっきりということでもありますけれども、これについては、どう理解しておりますか。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） 環境課長、お答えいたします。

延長ホースの設置作業につきましては、島民の方に御協力いただいておりますけれども、

沖の島の支所の職員の方に設置作業、前日にスケジュール調整しながら、併せて設置作業を行っておりますので、任せっきりというような認識はなくて、市としては、現状ではやれるところで、設置作業を含めて実施しているというふうには判断しているところでございます。

以上です。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） 先ほど質問したように、住民の皆さんの高齢化の問題、少子高齢化の問題。平成24年に始まって今日まで、同じ人が同じ作業に従事を、ボランティアという形でされておるわけですが、人口の増える可能性は全くないという状況の中で、10年以上も、同じ作業を続けておるとい、見通しどうか、甘さというか、どこか何か対策を早急に考えなければならない問題であろうと思っておりますけれども、これについての答弁を求めます。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） 環境課長、お答えいたします。

鵜来島地区での説明でもありましたように、渡船業者であったり、それから地元の方々に、移住者であったりというふうには、松浦議員は、人口、増えてはいないというお話でしたけれども、若い方々がいるという話は、担当課では把握はできておるつもりですので、先ほどの答弁にもなりますけれども、延長ホース設置作業に御協力いただける方の掘り起こしを、今後、担当課としては実施していく予定でございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） ぜひ強力な取組を求めておきたいと思っております。

今後の取組について、協議をする場合には、何よりも収集業者である幡西衛生業組合の皆さんや、地元の方々の理解と協力が必要であると

考えます。

よって、今後の取組について、宿毛市はもちろんのこと、地元の住民の代表や幡西衛生業組合の方々を含めた協議の場の設置を提案したいと思いますが、このことについて市長の所見をお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

島のし尿収集業務に関しましては、毎年、幡西衛生業組合や、台船業者と日程調整に始まりまして、悪天時の中止の際の連絡体制の確保、島で効率的に収集業務を実施するための打ち合わせなど、準備等に相当な時間を費やしているところでございまして、また収集作業終了後には、改善点などを抽出するための反省会も開催をしているところでございます。

地元からの意見や要望につきましても、先ほど来、議員おっしゃられます沖の島開発促進協議会や、そしてまた支所、区長を通じて、いろいろと言っていただける体制を整えておりますので、御意見を聞くことができているというふうに感じているところでございます。

し尿の収集に特化した、そういった協議会の設置については、現時点ではそういったこともありまして、考えていないといった状況でございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） 協議会の設置は考えていないということでございます。

先の3月議会での山戸議員に対して、住民負担に対する補助制度や、収集業者に対する損失補填策に関しても、他市町村の取組を参考にしながら、しっかりと宿毛市としても検討してまいりたいと、市長の誠意ある答弁がありました。

このように、多くある課題の解決に向けて、

どのような取組をしてきたのか、その状況についてお示しをいただきたいと思っております。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） 環境課長、お答えいたします。

他市町村の補助制度や、事業内容に関しましては、参考事例も含めまして、随時、情報収集を行っているところです。

その中で、本市において、導入効果が高いと考えられる事例や補助制度に関しましては、担当職員が補助金の利用状況や実績額、予算額等について問い合わせるなどの作業を行っているところです。

得られた情報等を基に、今後、事業実施の可能性について検討してまいります。そのような状況でございます。

以上です。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） 御苦労さまです。

市長、今後も宿毛市として検討してまいりたいと、誠意ある温かい答弁をいただいたということでもありますけれども、市長としてはどのように考えていますか。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

非常に、問題になっているというふうに理解しています。

先ほど、松浦議員から10年以上といったことでやっているのに、何も変化がないというようなどころでございました。

10年ほど前、自分も少し記憶しているのですが、その時はたしかホースを補助金というか、買うに当たって、うちの議会の予算通っていると思います。そのときのお話を、今回の質問に対して思い起こしたわけですが、当時、島の方々、そういった形の中で、ホースを独自に引

くと予算もかかるという形の中で、できるだけ負担を減らそうということで、市がそういった補助をして、島の方々が自分たちで引くからということで、協力をいただきながらやった事業というふうに理解をしております。

島のみならず、いろんなところで生活をされている方々がおられて、その場所場所によって、いろいろな形で、ほかの地域よりも負担がかかったり、また大変な思いをされて、生活をされているということについては、自分自身も承知をしているところでございます。

そういった形の中で、先ほど来、お話に出ております、最低限の人間らしい生活をするために、やはりこの問題、しっかりと取り組まないといけないと思っておりますので、台船の準備であるとか、本当に予算も人も時間もかかっているところではございまして、決して協議をせずに、宿毛市の職員が関わらずに、ほおっているような事業、そういった状況ではございません。

これからも環境課の職員、しっかりと対応していただいて、これからも対応をしながら、どういうふうな形で進めていくのがベストなのか考えていきたい。

そして、そういったことを協議している最中だというふうに、御理解願いたいと思います。以上でございます。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） 私自身も、平成19年6月議会からずっと訴え続けてきた事案でございます。その結果、平成24年から延長ホース、県の補助金をいただく中で延長ホース、高齢化による事業、幡西衛生業組合の皆さんの提言を受けながら、そういう形で、現在の方向で進んでおる。

年間約800万円近く、750万円、10年、7,500万円の予算を投入してでも、この問題を取り組まなければならないと考える宿毛市

の行政、理解をいたしますけれども、この10年経過する中で、先ほど、私が質問したように、憲法25条にうたわれている生存権の問題、すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有するとうたわれておりますけれども、これが誠に、そのとおりになってない。非常に強い怒りを覚えるわけでございます。

先ほど質問したように、市長は3月議会で、こういう検討をしてみたい、今、検討中ということでございます。ぜひこの3月議会で、山戸議員に対して答弁した部分を、具体的に進めていただきたいと思っております。

ほかの市町村のことは関係ないと思うんです。宿毛市はどうしたいんだ。この問題については、どうするんだという、考え方を示すべきではないかなというふうに思います。よろしくお願ひします。

次に、文化財の保護行政について、教育長にお伺いいたします。

教育長は、令和3年6月議会において、私の文化財保護行政についての質問の中で、私も折を見て現地を視察してみたいとの答弁をされました。昨年も何回か調査活動を行いました。これまで教育長自身の健康問題があり、参加できませんでしたけれども、この4月9日に行った12回目となる調査活動に参加をしていただきました。

施設の建設から約80年経過し、山頂付近や山頂近くの兵舎跡は大木に覆われていますが、このほど、環境省から大木の伐採についての答弁をいただきました。

鶴来島は御案内のとおり、足摺宇和海国立公園の一角に占めております。簡単に切れるものではないということが分かったわけでございまして、これについて、環境省から許可をいただきました。

これを受けて、これからの調査活動には弾み

がつくものと思います。

これまで、過去11回の調査活動には、県内外の方々をはじめ、地元である鶴来島地区の有志をはじめ、鶴来島を守る会の皆さん等、多くの皆さんに御協力いただきました。心から感謝を申し上げます。

教育長におかれましては、初めてということでもあり、慣れない作業等で大変お疲れさまでした。本当にありがとうございます。また御苦労さまでございます。

そこで、早速お伺いいたしますが、初めて現地の調査活動に参加されて、どのような感想を持たれたのか、まず教育長の所見をお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 教育長。

○教育長（鎌田勇人君） お答えいたします。

令和3年6月議会の答弁の後、私自身は7月30日に初めて龍頭山の戦争遺跡を視察し、当時の逼迫した戦争状況を実感したことでした。

その後、本年4月9日、松浦議員からの調査活動のお誘いに、十四、五名のボランティアの方々と参加させていただきました。

私は、調査というよりは、環境整備をするということで、砲台跡周辺の草刈りや、弾薬庫跡にたまった泥の撤去などを、主に行いをいたしました。

戦時中に整備された軍道を山頂の砲台跡までたどったわけですがけれども、道中は相当に険しく、また実際の作業も正直に言って手作業のため、大変労力のいる作業でございました。

砲台などの軍施設の建設には、大変な労苦があっただろうと痛感したことでした。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） おつかれでした。1点だけお伺いしますけれども、宿毛市教育委員会として、今後、この鶴来島にある戦争遺跡に

ついて、どのような取組が必要であると考えておられるのか、お伺いいたします。

宿毛市としての今後の取組、並びに教育長としての所見をお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 教育長。

○教育長（鎌田勇人君） お答えいたします。

鶴来島の戦争遺跡への取組につきましては、令和元年12月議会及び令和3年6月議会でも、高知県が取り組んでいる旧陸軍歩兵第44連隊跡地の保存活用の推移を注視していく旨の答弁を行いました。

関連しまして、本年の高知県2月議会におきまして、濱田知事より、この跡地につきましては、県の所有化が完了し、保存活用の検討を進めているところで、併せて県下30か所の戦争遺跡の調査を行い、市町村と保存の在り方を協議する予定との発言がございました。

沖の島の基地跡も、この30か所に含まれておりますので、今後、全県下的な保存の在り方の議論に、私も加わっていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 12番松浦英夫君。

○12番（松浦英夫君） どうしても財政的な面からしても、高知県の力を借りる、行政としての力を借りる、これはまた大変必要なことであると思います。

ぜひ、私としては、貴重なものであるという認識はいたしておりますので、宿毛市教育委員会としても、そこら辺りを踏まえて、対応をしっかりとさせていただきたいということを申し上げて、私の質問を終わります。

前段申し上げました、離島におけるし尿処理の対策の問題、これも、行政としては喫緊の課題であるというふうに思いますので、それについても、しっかりとした対応をお願い申し上げます、私の質問を終わります。

ありがとうございます。

○議長（寺田公一君） この際、10分間休憩いたします。

午前10時39分 休憩

午前10時51分 再開

○議長（寺田公一君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 皆さん、おはようございます。公明党の野々下でございます。ただいま、議長よりお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問を行ってまいります。

まず初めに、今年2月24日に始まったロシアによるウクライナへの侵攻は、本日で3カ月と20日、第2次世界大戦以降で最大の武力紛争となる様相を呈してまいりました。

この紛争による犠牲者は、民間人を含めて、双方で数万人規模となり、ウクライナで家を追われた人は1,400万人を超えるとの報道もあります。

亡くなられた皆様に心から哀悼の意をささげるとともに、1,400万人も家を追われ、また日本にも1,000人を超える方たちが避難をしてきております。その皆様に心からお見舞いを申し上げる次第でございます。

一般質問に入ります。

この紛争により、世界経済の秩序は乱れ、日本経済にも大きな影響が現れてきております。この侵攻を背景に、サプライチェーン（原材料から製品が消費者の手に届くまでの一連の流れ）の逼迫を招き、また円安や資源高を受けて、国内では既に素原材料から中間材への価格転嫁が進んでおり、建設資材の高騰や品不足により、建設現場の計画や工期に影響を及ぼしてきております。

本市においても、5月30日の臨時会で、こ

れから着工を控えた道の駅すくもサニーサイドパークの工事費用は、建設資材の高騰等により、予算不足となり追加補正となっております。

そこで、これから本市においては、年度内に着工し、令和6年度供用開始を予定をしております学校給食センター建設事業が控えておる次第でございます。

ロシアのウクライナ侵攻も長期化すると予測もあり、さらなる資源、資材の高騰が予想されており、この現状の中で、実施設計、着工となるわけではありますが、予算、工期等、どのように考えておられるのか、お伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 学校給食センター所長。

○学校給食センター所長（平井建一君） 学校給食センター所長、お答えいたします。

質問内容にもありました新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の影響を受け、原油の高騰をはじめ、あらゆる物の価格が高騰しており、議員の懸念される、給食センター建設に当たりましては、建設資材の高騰についても承知しているところです。

現在、給食センターの設計業務につきましては、3月に基本設計を終えましたが、資材高騰の影響から、基本設計時点の建設事業費は、計画当初の約2倍で提示をされました。このことから、4月、5月の2カ月をかけ、建物のダウンサイジングや、資材のグレードダウンを図り、約1.6倍までの事業費の圧縮に取り組んでまいりました。

今後の資材価格の状況としましては、なかなか予測困難でありますので、5月末時点で実施設計に移行し、詳細図の作成を行っているところであります。

委託業務の完了は、本年の12月を予定しており、建設工事の発注につきましては、貴重な財源を有効に使うため、また高騰する建設資材

の推移を見据え、適切な工事着手のタイミングを慎重に判断してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 答弁ございました、予算としては、基本設計の段階で2倍の提示をされた。しかし、建物も少し小さくしたり、グレードを落としたりということで、1.6倍まで圧縮してきたというお話でございました。

工期は、5月から実施設計に入っておるということで、12月までで完了すると。

その後、発注していくということですが、資材の価格の推移を見ながら、判断していくということでありますが、現給食センターの状況も見据えながらということになってくると思います。

給食センター、この一、二年は、本当に綱渡りの状況でできているわけでありますので、何十年もこれから使用していくセンターになるわけでありますので、安かろう、悪かろうでは困りますので、そこは的確な判断をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

続いて、原油価格・物価高騰など、総合緊急対策についてお伺いいたします。

次に、今国会で4月26日に決定をされた、コロナ禍における原油価格・物価価格高騰など、総合緊急対策として国費6.2兆円を充てることが決められており、その中に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が拡充され、コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分1兆円が創設をされております。

これにより、地方自治体を実施する生活に困窮する方々の生活支援や学校給食等の負担軽減など、子育て世帯の支援、また農林水産業者や運輸、交通分野をはじめとする中小企業者等の支援といった取組を、しっかりと後押しするこ

とが、総合緊急対策に明記をされております。

主な対策といたしまして、原油価格高騰対策、エネルギー・原材料・食料等安定供給対策、新たな価格体系への適応の円滑化に向けた中小企業対策、コロナ禍において物価高騰等に直面する生活困窮者等への支援など、大きく5項目など示されておるところでございます。

その中で、生活困窮者支援についてお伺いをいたします。

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、食費等の物価高騰等に直面する低所得の子育て世帯に対し、その実情を踏まえた生活の支援を行う観点から、低所得の子育て世帯に対する給付金、児童1人当たり5万円のプッシュ型給付があります。

対象人数は、本市で何人おられるのか。併せてひとり親世帯分についてもお伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（朝比奈淳司君） 野々下議員の一般質問にお答えをいたします。

低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の対象者につきましては、令和4年4月分の児童手当、または特別児童扶養手当を受給している方、及び18歳年度末までの児童の養育者のうち、令和4年度の住民税が非課税の方等となっており、児童数で241人を見込んでおります。

また、ひとり親世帯分につきましては、令和4年4月分の児童扶養手当の受給資格者、及び家計急変により収入の見込額が児童扶養手当受給対象の額となる方を対象としており、児童数で368人を見込んでおり、両対象者合わせまして609人となっております。

なお、令和4年4月分の児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当の受給者につきましては、議員おっしゃられるように、申請不要のプ

ツッシュ型給付で支給することとしています。

以上です。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 再質問をさせていただきます。

令和4年4月分の児童手当、特別児童扶養手当を受給しており、住民税均等割が非課税の方等の児童が241名、ひとり親世帯では、児童扶養手当受給者と、家計急変によって収入の見込みが児童手当対象者の額となる方の児童数が368人で、計609人ということですが、国の方針では、6月末までに支給が完了となると示されておりますが、本市では、皆様に届くのはいつ頃になるのか、支給時期についてお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（朝比奈淳司君） お答えいたします。

支給時期につきましては、ひとり親世帯分を6月14日に、その他世帯分を7月初旬に支給する予定としております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 丁寧な支給をお願いいたします。

続いて、住民税非課税世帯等に対する給付金の未申請世帯への令和4年度の課税情報を活用した給付金、それぞれ対象者についてお伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（朝比奈淳司君） お答えいたします。

住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金につきましては、令和3年分といたしまして、6月7日現在で3,346世帯に給付を行っています。

御質問いただいた令和4年度課税において、

新たに住民税非課税世帯となり、支給対象となる世帯数は613世帯を見込んでおります。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 再質問をさせていただきます。

令和3年度分が、6月7日時点で3,346世帯に給付を行ったということで、新たに令和4年度課税において、住民税非課税世帯となり、支給対象となる世帯は、新たに613世帯を見込んでいるということですが、同じく支給時期についてお伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（朝比奈淳司君） お答えいたします。

住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金の給付時期につきましては、システムの改修、それから内容の精査等、ちょっと時間をいただきまして、8月上旬を予定しております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 皆さんの手元に届くのは8月上旬ということですのでけれども、いろいろな事情があることだと思います。

ちなみに、令和3年度の本市の住民税非課税世帯は4,021世帯、令和4年度は4,254世帯が見込まれる状況にあるということで、本市の全世帯数が6月1日時点で9,967世帯、約4割強の方々がコロナ禍の追打もあり、生活困窮に追い込まれておられる状況となっております。

どこかの町みたいに、慌てなくてよろしいですので、しかし、対象となる方が一人も漏れないように、丁寧な対応をお願いをしておきたいと思っております。

再質問を行いたいと思っております。

このほかにも、総合緊急対策では、緊急小口

資金などの特例貸付や、生活困窮者自立支援金、住居確保給付金の特例措置の申請期限が6月であったのが、8月末まで延期をされております。

また、新型コロナウイルスの影響や、物価高騰で生活に困窮する方に対して、住宅、生活、就労、職業訓練の相談支援をワンストップで行う窓口が、全てのハローワークに設置されたことなど、きめ細かい情報提供を行うべきと考えますが、所見をお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（朝比奈淳司君） お答えいたします。

今回の総合緊急対策におきましては、生活困窮者自立支援金や、特例貸付等の生活困窮者に対する様々な支援策についても拡充されておりますが、家計的な自立こそが生活困窮に対する不安解消の第一歩であると考えておりますので、就労に向けた職業訓練の受講や、職業相談窓口の案内など、自立支援に向けた総合的なサポート窓口であるハローワークの取組を御活用していただけるよう、関係機関と連携を図りながら、より一層の周知を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 窓口に来られた方に対しては、しっかりと丁寧に対応していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

続いて、地方創生臨時交付金の活用について、お伺いをいたします。

コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分が創設され、高知県の市町村対応分として、36億7,256万1,000円が充てられ、宿毛市は1億3,208万6,000円が交付をされております。この交付金は、各自治体の判断で、様々な事業に活用することができること

になっておりますが、本市においては、この6月議会の補正予算で、宿毛市コロナ対策地域振興券事業、1億1,311万9,000円。また、給食材料費（食糧費高騰対応分）として、2,699万円として、この2つの事業が計上されております。

本市には、市内には燃料高騰、また物価高騰で大変な事業経営されている方たちも多くおられます。

そういう中で、この2つの事業に充てた理由、またそれぞれの事業内容について、お伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） 野々下議員の一般質問にお答えをさせていただきます。

今回、拡充されました地方創生臨時交付金は、コロナ禍におきまして、原油価格や電気・ガス料金を含む物価の高騰の影響を受けた生活者や、事業者の負担の軽減を、地域の実情に応じまして、きめ細やかに実施できるようにとの趣旨で、創設をされているところでございます。

このような交付金の趣旨に基づきまして、本市では、宿毛市コロナ対策地域振興券事業と、給食材料費高騰対応分等に交付金を充当することとして、今議会に提案をしているところでございます。

宿毛市コロナ対策地域振興券事業は、昨今の物価高騰の影響は、全ての市民を直撃しているという認識のもと、全ての市民の負担を軽減し、かつ地域経済の活性化を図ることを目的として、計画しております。

事業内容につきましては、一人当たり5,000円の地域振興券を全市民に配付をし、宿毛市内の店舗限定で消費に充ててもらおうとするものであります。

次に、給食材料費高騰対応分といたしまして、給食材料費に交付金を充てた理由といたしまし

ては、御質問にもありましたコロナ感染症の長期化に加えまして、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の影響を受け、化石燃料関係、鉱物、食材料の価格が高騰し、これに付随して農作物の肥料、飼料に至るまで、高騰しているといった現状でございます。

このような状況の中、宿毛市の給食材料でも、生鮮野菜をはじめ、副食原材料となる魚や肉の価格が高騰しており、献立の作成を行う栄養教諭も、材料費の節約に創意工夫を重ねておりますが、材料の質や提供する量、児童生徒の好む副食、これはおかずですが、こちらに添えていくことは困難となっております、やむを得ず、学校給食費の値上げを検討せざるを得ないといった状況を迎えました。

しかしながら、コロナ禍で疲弊した経済状況下、子育て世帯の負担増は避けるべきだと考えまして、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、子育て世帯の負担軽減、児童生徒の喜ぶ副食、デザートなどの充実を図りまして、また地場産、県内産にこだわった材料を使用できる範囲の予算を計上したいということにしたところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 今、丁寧な御答弁ありましたが、市長の答弁の中にもありました、今回のコロナ対策の予算の趣旨として、物価高騰等でダメージを受けた家計基盤を支えるということでは、限られた予算の中で、特定の事業ということではなく、市民全体に5,000円分の地域振興券を配付して、市内で使っていただくということですので、市内の一定の活性化があるのではないかと思います。

先ほどの数字にもあったように、4割を超える方たちが、大変な思いの生活を余儀なくされていると考えると、この2つの事業も、良であ

ろうかと思えます。

続いて、この交付金を給食に充てる期間について、お伺いをいたします。

また、コロナの収束状況、ロシア侵攻もどうなるか分からない中で、今後も物価高騰が続く可能性は十分にあります。そうなった場合、この給食費はどのように考えておられるのか。この給付金を充てても、次、1年後、これからどうなっていくのかということをお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをいたします。

コロナ対応地方創生臨時交付金の対象期間が終わる令和5年3月31日ですが、これ以降、給食材料の高騰が続く場合に、給食費の値上げをするのかという趣旨の質問になろうかと思えます。

実際のところ、新型コロナの感染状況や、ロシアの軍事侵攻がいつ収束するのか。また、日本経済への悪影響がいつ改善するのか分からないというのが、正直なところでございます。

長期化することが想定されるというのが、一般的な見解と思うところでございます。

このことから、現時点で、令和5年3月31日までの交付金措置ではありますが、国内の経済状況に改善が見られなければ、政府は改めて何らかの経済対策を打つものと思われますので、本市といたしましては、国の動向に注視しつつ、経済の回復が見られない段階で、子育て世帯の負担増は、できる限り避けてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 市長の答弁もございました。経済の回復が見られない中で、子育て世帯の負担増は、できる限り避けていきたいということで、一安心をしているところでござ

います。

続いて、マイナポイント第2弾について、お伺いをいたします。

マイナポイント事業は、マイナンバーカードの普及と消費喚起の目的で、2020年9月から2021年12月まで第1弾が行われ、本市の交付率は本年の5月1日現在で、区分別交付枚数率上位10団体の全国第4位で、71.7%という驚異の数字となっております。

この取組に敬意を表したいと思います。

さらに6月30日から、マイナポイント第2弾が完全実施されるということですが、その事業内容と、ポイントをもろうためには何をすればいいのか、お伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 商工観光課長。

○商工観光課長（長山敏昭君） 商工観光課長、野々下議員の一般質問にお答えをいたします。

マイナポイント第2弾の事業説明の御質問でございますが、まずはマイナポイント事業を御説明をさせていただきます。

マイナポイント事業とは、マイナンバーカードを利用して取得したポイント、いわゆるマイナポイントを活用する事業でございます。このポイントの活用により、消費の活性化、またマイナンバーカードの普及促進、官民キャッシュレス決済基盤の構築を目的としております。

その上で、マイナポイント第2弾は、3つのキャンペーンで構成をされております。

キャンペーン1は、マイナンバーカードを取得された方のうち、マイナポイント第1弾に申し込んでいない方に対して、キャッシュレス決済サービスでチャージやお買い物をしますと、利用金額の25%、最大5,000円相当のポイントを付与するというものでございます。

キャンペーン2は、マイナンバーカードの健康保険証としての利用申込を行った方に対して、無条件で7,500円分のマイナポイン

トを付与するというものでございます。

最後に、キャンペーン3は、公金受取口座の登録を行った方に対して、同じく無条件で7,500円分のマイナポイントを付与するというものでございます。

続いて、ポイント取得の手続につきまして、マイナポイントを受け取るためには、申し込みが必要であります。申込手続はスマートフォンやパソコンを使って御自分で行うか、また市町村窓口や郵便局、携帯電話会社などにあるパソコンや、コンビニにあるマルチコピー機を用いて行う方法があります。

宿毛市では市役所市民課窓口、市内の全郵便局、市内携帯電話各社、また市内のローソン全店で、その申し込みができることとなっております。

以上です。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） ただいま、長山課長より丁寧な説明がございました。

まず、キャンペーン第1として、マイナンバーカードの取得された方で、マイナポイントの申し込みをしていない方に、最大5,000円のポイントがつく。

キャンペーン2として、マイナンバーカードを保険証としての申し込みをした方に、無条件で7,500円分のポイントがつき、キャンペーン3で、公共受取口座の登録をした方に、無条件でまた7,500円分のポイントが、漏れなくついてくるということで、最大2万円分がいただけるということで、宿毛市では市役所窓口、市の全郵便局、市内携帯電話会社、市内のローソン全店で申し込みができるということで、分からなくなったら市役所市民課窓口へということでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

この事業には、期限が設けられていたと思

ます。マイナンバーカード、マイナポイントの申請期限、申込期限について、お伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 商工観光課長。

○商工観光課長（長山敏昭君） 今回のマイナポイント第2弾のマイナンバーカードの申請期限は、令和4年9月末となっております。

また、マイナポイントの申込期限は、令和5年2月末となっております。

なお、先ほど御説明しましたキャンペーン1につきましては、マイナポイントの申し込みは既にスタートをしておりますが、キャンペーン2及びキャンペーン3につきましては、先ほど、議員のお話の中でもありましたとおり、今月末の6月30日から申し込みができるようになっております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 今のお話では、マイナポイント第2弾では、マイナンバーカードの申込期限が今年の9月までと、期間が本当にありません。

マイナポイントの申込期限は、いずれも令和5年2月までということですので、気をつけていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

あと、マイナポイント事業は、マイナンバーカードの普及と消費喚起の目的で実施されておりますが、マイナポイント第2弾は、この物価高騰の中、最大2万円分のポイントがもらえるということで、コロナ禍で家計の維持、生活の防衛の意味もあり、一人でも多くの人に取り組んでもらうことが目的の一つですが、申込期限が来年の2月までということで、期限が切られており、高齢者の方たちがどこまで取り組むことができるのか、心配をいたします。

その高齢者へのサポート体制について、お伺

いをいたします。

○議長（寺田公一君） 商工観光課長。

○商工観光課長（長山敏昭君） 先ほどの答弁でもお答えをさせていただきましたが、マイナポイント事業の目的の一つには、消費の活性化がございます。一人でも多くの皆様にマイナポイントを取得いただいて、物価高騰からくる消費控えに対する一助になればと考えております。

その上で、マイナポイントの申し込みは、先ほど御説明しましたとおり、オンラインにて行っていただくこととなります。高齢者の方々の中には、おっくうに感じられる方も多いと推察をしているところでございます。

そのような方は、先ほど議員もおっしゃっていただきましたが、ぜひとも市役所の市民課窓口を御利用いただきたいと思います。

場合によっては、お待たせすることもあるかとは思いますが、市民課の職員が丁寧に対応させていただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） このマイナンバーカード、未成年者の場合は親が申請をできますが、成人の方の場合は、本人のキャッシュレスカードでの申請が必要でありますので、高齢者の方にキャッシュレスカードの取得方法と、その辺りは丁寧に説明をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

続いて、健康保険証とマイナンバーカードをひもづけしても、インターネットで見える限りでは、現時点で本市で6つの医療機関でしかマイナンバーカードは保険証として利用できない状況であります。

市民はそれぞれかかりつけ医があるわけですが、そのかかりつけ医で簡単に使用できるようになるのはいつ頃になるのか、お伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 市民課長。

○市民課長（岡本 武君） 市民課長、野々下議員の一般質問にお答えいたします。

マイナンバーカードを健康保険証として利用するためには、被保険者の皆様における利用申込と、併せて医療機関におけるシステム導入が必要となりますが、議員からも御紹介いただきましたように、宿毛市内で当該システムの導入が完了いたしております医療機関は、6月5日現在の厚生労働省の公表資料によりますと、病院等が6機関、薬局が4機関の、合わせて10機関となっております。

厚生労働省では、マイナンバーカードで医療機関を受診し、その場で資格確認等ができるオンライン資格確認を普及させるため、令和5年4月からは、医療機関でのシステム導入を原則義務化する方針を明らかにしてございまして、今後、環境整備もさらに進んでいくものと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 来年の4月からは、医療機関でのシステム導入が義務化されるということで、そうすれば、各かかりつけ医でも環境整備が進むということですので、期待をしておきたいと思っております。

続いて、デジタルヘルスケアによる、安心して暮らせるまちづくり事業について、お伺いをいたします。

急激なデジタル化に対する高齢者対策について、お伺いいたします。

今議会で新規事業として予算化されているデジタルヘルスケアによる、安心して暮らせるまちづくり事業は、スーパーアプリを導入し、既存の防災アプリや健康アプリ、オンライン診療に加え、マイナンバーカードを用いてオンライン手続を可能にするマイナポータルなど、はた

まるねっとと連携させることで、さらに便利に使えるようになるということですが、この事業内容について、御説明願います。

また、このようなデジタル化が急激に進むと、高齢者などが使いこなすことは、ハードルが非常に高いように感じます。そこでデジタル化の推進における、そのような皆様への対応について、お伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 企画課長。

○企画課長（上村秀生君） 企画課長、野々下議員の一般質問にお答えいたします。

まず、デジタルヘルスケアによる、安心して暮らせるまちづくり事業の内容について、御説明いたします。

本事業は、岩手県紫波町で運用されているスーパーアプリをモデルといたしまして、市民が受けられるデジタルサービスを一括掲載する、宿毛市版スーパーアプリを導入し、既存の宿毛市防災アプリに加えまして、本事業で新たに実装する健康アプリやオンライン診療、そしてマイナンバーカードを用いて、オンライン手続を可能にするマイナポータルなど、行政のデジタルサービスを集約して、ナビゲートいたします。

この健康アプリにつきましては、幡多地域で既に運用されております医療介護情報連携システムはたまるねっとと連携することで、医療機関等の処方や、検査結果などの医療データの参照や、自身で計測・記録いたしました健康データが、医療機関等で確認できるようになるものでございます。

健康アプリを介して参照できるはたまるねっとの処方や検査データは、一定期間の履歴がアプリに保存され、大規模災害時に起こり得るオフライン環境下でも参照できるようになります。

また、本事業で実施するはたまるねっとの改修におきまして、特別なアプリをダウンロードすることなく、オンライン診療が利用できる環

療機関双方の利便性の向上が図られるものとなります。

議員御指摘のとおり、オンライン診療やマイナンバーカードの連携などの新たなサービスにつきましては、医療機関側にその期間、機能を活用していただく体制の構築が必要となります。

オンライン診療の利用促進につながる診療報酬の改定なども、国において検討されておりますので、今後、医師会等を通じて、本市の事業の説明を行うとともに、医療、介護の現場における体制整備等と呼びかけてまいりたいと考えております。

また、本事業の推進は、医療だけではなく、様々な分野で広がるデジタル化に遅れることなく、制度化に合わせて、迅速に対応できる体制を図るものと御理解いただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 非常に難しい答弁でしたけれども、今後の事業推進や、登録患者数の増加が、医療機関側の利用促進にもつながり、はたまるねっととマイナンバーカードの連携が可能になれば、マイナンバーカード一つで保険証と診察券を併せ持つことになり、登録者と医療機関の双方の利便性が図られて、市民の多くの方により参加していただければ、連携も進むということだと思いますので、市民の皆様、どうかよろしく願いいたします。

それでは、最後になりますが、がん対策の取組についてお伺いをいたします。

アピランスクエアの支援についてでございます。

2006年にがん対策基本法が成立いたしまして、16年が経過をいたしております。この法改正により、健診受診率の向上をはじめ、様々ながん対策に対する施策が一気に進んだと

言われております。

さらに、平成30年3月9日には、国の方針となる第3期がん対策推進基本計画が閣議決定をされております。

その中で、がんとの共生ということが強調をされております。

以前であつたら、がんになって、がんの治療を進めながら仕事をしていくというのは、非常に珍しいことでありましたが、今は治療を受けながら普通の生活をするというのは、当たり前になってきております。

その中で、がん治療をしたことによって、様々な弊害ということが起きてきます。

そこで、質問のアピランスクエアですが、アピランスというのは外見、外観と言いますか、それをケアしていく。見える部分をケアしていく、支援するという意味であります。

具体的には、がん治療による外見が変化したり、外見変化への影響をカバーする支援のことでありまして、がん治療により起こる脱毛であるとか、あと肌の色の変化であるとか、そういったものをケアしていくというものでございます。

特に最近、話題になっているのは、若い方ががんが目目をされております。小児がんの後の段階で、10代後半から成人のがんの間。10代後半から30代にかけての若い世代、いわゆるAYA世代といわれる方たちであります。がんになる人が年間2万人以上いるということが、国立がん研究センターの調査で初めて分かったそうであります。

センター内の中央病院では、抗がん剤治療中の患者に身体状況の苦痛度を聞いたところ、女性が最も苦痛に感じているのが、治療の辛さよりも、抗がん剤の副作用による頭髪の脱毛という結果が出ております。

治療のためとはいえ、男女共に、特に女性に

としては脱毛は最大の苦痛であり、生活上の大きな障害となっていることが分かります。

私の身近な方にも、乳がん罹患された方は、同じことを訴えられておりました。

先日、幡多けんみん病院へ行ったときに、若い方でニット帽をかぶって、すぐに分かる方が何人か見かけられました。そういうこともあります。

現在、四国内においては、香川県が県全体で、愛媛県では西条市が医療用ウィッグの助成の取組を行っております。

近隣では、まだまだ少ない状況ですが、全国では多くの自治体で取り組まれております。本市におかれても、がん対策、とりわけがん検診に力を入れてくださってはおりますけれども、がんになっても、これまでどおり安心して暮らし続けられる社会を構築するため、薬剤性脱毛、治療によって抜けていく脱毛に悩むがん患者のウィッグについて、購入の際に市として何らかの助成ができないか、お伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、野々下議員の一般質問にお答えいたします。

がん患者の方が、がん治療を受ける過程では、抗がん剤治療等による副作用により、体に様々な変化や痛みが生じるとともに、精神的にも大きな不安や負担が発生いたします。

このような不安や負担を少しでも解消していくため、全国には専門的ながん医療の提供、相談支援や情報提供などの役割を担う厚生労働大臣が指定する病院があります。

本市では、幡多けんみん病院が地域がん診療連携拠点病院に指定されており、病院内にがん相談支援センターが設置され、がんに関するどのような問題でも相談できるよう、専任相談員を配置し、相談に当たっており、アピアランスケアも行われております。

治療を行っていく上で生じる脱毛や、肌の変化、傷跡など、外見の変化はがん患者の方に大きな苦痛を与えるものとなっていることは理解しております。

アピアランスケアは、がん患者の方が前向きに治療に向き合い、治療後も安心して生活を送るために重要であると認識しております。

今回、御提案のありましたウィッグの購入費助成につきましては、がん患者の方の精神的な苦痛を和らげるだけでなく、経済的負担を軽減する施策になると認識しておりますが、がん対策の基本は、国、県レベルでの公平性のある助成制度とすることが適切だと考えますので、国、県の動向を踏まえ、他市町村などの状況等を調査研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 11番野々下昌文君。

○11番（野々下昌文君） 国や県の動向を見ながら取り組んでいくということですが、医療用ウィッグは、結構高価で、誰でも購入できるわけではございませんので、せめて使用中の患者の全ての方たちが購入できるような取組をお願いをいたしたいと思っております。

全国には、全県下で取り組んでいる市町村もございますので、先進的事例も研究していただき、県にも働きかけをしていただいて、一日も早い取組をお願いいたしまして、一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（寺田公一君） この際、午後1時まで休憩いたします。

午前11時42分 休憩

----- . . . -----

午後 1時01分 再開

○議長（寺田公一君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） 7番、高倉真弓です。一般質問をいたします。よろしくお願いいたします。

今回は4項目、9点についてお尋ねいたします。

1項目め、希望ヶ丘関連施設の検証について、お伺いいたします。

県道からの進入道路について、お尋ねいたします。

現在、仮設の看板などが置かれておりますが、当初、大変分かりにくかったです。今後の御予定はいかがか。

また、進入路を上がりつめた交差点部分が、一部、迷いそうになります。警察関係の建物がどういう形でできるかは存じませんが、先に建物が目に入りますと、視界を失う不安があります。

1番目に、県道からの進入道路についてをお尋ねいたします。

○議長（寺田公一君） 総務課長。

○総務課長（桑原 一君） 総務課長、高倉議員の一般質問にお答えいたします。

新庁舎での業務開始に際しまして、国道56号には、県道宿毛城辺線との接続部の南北に、市役所への案内看板を道路管理者である国土交通省に設置をいただいております。

御質問の県道宿毛城辺線と、高台登り口のT字路の案内看板の設置につきましては、道路管理者である高知県に要望をしているところでございまして、今年の秋頃には設置していただくと、御回答をいただいております。

また、高台の進入路を上りつめたT字路付近につきましても、縁石の歩道に、現在、ラバーポールを設置をさせていただいて、注意喚起をさせていただいております。

また、市役所への案内看板につきましても、自動車から見やすいような形で、当初の設置か

ら数も増やしたような形で、対応をさせていただいているところでございます。

以上です。

○議長（寺田公一君） 7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） 今朝、確かに増えた看板を目にいたしまして、すごく親切で分かりやすいなと思えました。来慣れた者にとっては分かるんですが、初めて来られるとか、余り、何回も来ていないという方にとっては、本当に親切な形だと思います。

次に、庁舎東側一般来客駐車場について、お尋ねいたします。

進入時、退出時、対向車線の車両が膨らみ、危ない現状を何度も目にいたしました。現に、自損で縁石に接触、タイヤのパンク事故が発生いたしております。

その方がおっしゃるには、対向車を気にして早目に切ったために、縁石に乗り上げたとのことでした。

2番目に、来客駐車場についての対処方法をお尋ねいたします。

○議長（寺田公一君） 総務課長。

○総務課長（桑原 一君） 総務課長、お答えいたします。

市役所来客駐車場の入口につきましては、間口が狭いといったお声はいただいております。

現在、縁石にタワーポールを設置することで、縁石の位置を明確にさせることによって、安全確保を行わせていただいております。

以上です。

○議長（寺田公一君） 7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） 7番、再質問いたします。

赤いラバーポールも拝見いたしました。ただ、走行中は見えますが、低いので、直角に曲がる左折寸前には、視界から消えます。また、同乗

者を玄関で降ろしたり、乗せようとするときに、一時停止します。そうしますと、後続の車から、ここに車を止めたらいかんというような言い方で、お叱りを受けることとなります。

車寄せを利用されたらとおっしゃるかもしれませんが、駐車場から、仮に出るほうとしますと、こちらが近いのですね。

それぞれ原因はありますが、課長もおっしゃったように、入口、出口が同じで、間口が狭い。距離に余裕がないためです。

来客の駐車場の一部分だけを一方通行にして、駐車場東側の山際に出口を設置すれば、一定、解決できるものと思います。

多くの費用も発生しないと思いますので、御検討されてはいかがかお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 総務課長。

○総務課長（桑原 一君） 総務課長、お答えさせていただきます。

御提案いただきました、東側にもう一つの通路を整備することにつきましては、それに伴いまして、場内の駐車場等が狭くなるということもごございますが、ぜひ今後、状況を見ながら、検討をさせていただきたいと思います。

よろしくお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） お昼前、園児を乗せた宿毛市のマイクロバスが2台、あそこにおりまして、不自由そうに動いておりました。

泥のついたタイヤは、マイクロバスが下がってついたものかどうか分かりませんが、多分、不自由だったのかなと思います。

今後、海上保安署や県土木が建ち上がりますと、この十字路は交通量が増えると存じます。現に、私だけの感覚かもしれませんが、出ようとして、ストップのラインのところまで停止いたしましても、右側から来る車が、建物の陰になって、直前でないと車が来ているというのは見

えないんですね。

そういうこともありますので、何分にも検討していただくように希望します。

次に、まだ新庁舎になり間がありませんので、いろいろ思ったことと違うことがあったりはないでしょうか。

例を挙げますと、床面のクロス張りが完全に空気が抜けていないために、膨らんで見えていて、多分、通りかかった方があれだったと思いますけれども、関係のない部署の方が、市民の方から御指摘を受けて、ただただ頭を下げているを目撃いたしました。

また、点字シートの取りつきがきれいでなかったり、一番踏むであろう箇所に継ぎ目、ジョイントがあったりします。

3番目に、庁舎内に不備がないかをお尋ねいたします。

○議長（寺田公一君） 総務課長。

○総務課長（桑原 一君） 総務課長、お答えいたします。

昨年度末に新庁舎が完成し、5月2日から業務を開始する中で、実際に働いてみて気がついた点は、総務課において情報集約をさせていただいて、対応をさせていただいております。

具体的に申しますと、階段の点字シートが浮いていることや、案内サインが分かりにくいといった指摘がございました。

これら対応できるものから、随時、対策を講じさせていただいております。

今後も課題が出る中で、速やかな対応を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） ぜひともよろしくお伺いいたします。

次に、3番目と同じ視点で、きぼうが丘保育園についてお尋ねいたします。

内覧会のときに拝見いたしました。園庭の手洗い場がタイル仕上げになっております。流しの部分が完全に角ばっておりまして、危ないように思いました。お子さんの小さな手で触って、もし何かあったらなという不安がありましたので、ぜひ御覧いただいて、できれば手当てをしていただきたいですし、今日まで経過して、ほかに気がついたことはございませんか。

4番目に、きぼうが丘保育園に不備がないかをお尋ねいたします。

○議長（寺田公一君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（朝比奈淳司君） 高倉議員の一般質問にお答えいたします。

きぼうが丘保育園につきましては、開園後に管理システムのセンサーに軽微な不具合があり、機器の設置場所を移動させる改修を行いました。そのほかには、今のところ大きな不具合は発生しておりません。

また、内覧会時に御指摘をいただきました園庭の手洗い場や靴箱等には、コーナークッションを貼るなどの対応をしているところです。

きぼうが丘保育園につきましては、災害に強い末永く使い続けられる、安心・安全な保育園を基本概念に整備しておりますので、今後も安全対策に留意し、事故の発生防止に取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） 早々に対応していただいたと聞き、安心いたしました。

子供さんは思わぬ行動に出ますので、とにかく安全・安心が一番でございます。御配慮ありがとうございます。

次に、隣接建築予定の国、県関連施設について、現状と安全対策をお伺いいたします。

隣接地に建築が始まれば、防音、防じん、資機材や関係車両の搬入で、対策が必要であると

考えられます。

既に保育園児が園庭におり、保護者の車両の交通量もあります。

5番目に、隣接建築予定の国、県関連施設についての現状と安全対策をお尋ねいたします。

○議長（寺田公一君） 総務課長。

○総務課長（桑原一君） 総務課長、お答えいたします。

まず、高台に移転する機関につきましては、宿毛警察署及び、高知県幡多土木事務所宿毛事務所と宿毛漁業指導所の合同庁舎が、令和6年度に、宿毛海上保安署が令和7年度に完成し、移転する予定とお聞きしております。

これらの施設の建築に際しましては、発注者である国、県に安全対策を第一に講じていただくことはもちろんのこと、保育園や市役所が隣接するという特殊性を加味して、施工時間や通行車両の調整など、しっかりとした対策を行っていただくように要請してまいります。

以上です。

○議長（寺田公一君） 7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） 対策を取っていただけるということで、ぜひよろしく願いたいと思います。

2項目めにまいります。

名誉市民、元豊ノ島関の顕彰についてでございます。

皆様御存じのとおり、5月28日、元豊ノ島関の断髪式がございました。

私は、報道、新聞紙上でしか拝見いたしておりません。翌5月29日の高知新聞紙上に、元豊ノ島関が横綱白鵬関でも届かなかつた、史上最多記録を持つとありました。

1番目に、元豊ノ島関が名誉市民になられた経緯と、断髪式の御様子を改めて市長にお伺いしたいと存じます。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） 高倉議員の質問にお答えをさせていただきます。

まず、初めに、本年3月議会におきまして、元豊ノ島関である梶原大樹氏と、ソプラニスタとして世界的に活躍されている岡本知高氏に、本市の名誉市民の称号を贈ることについて同意いただき、宿毛市新庁舎落成式典にて、御両名の出席のもと、名誉市民授与式を行いましたことをここに報告をさせていただきます。

高倉議員にも参加していただきまして、ありがとうございます。

それでは、一般質問に対しての答弁をさせていただきます。

元豊ノ島関こと梶原大樹氏を宿毛市名誉市民に顕彰した経緯と、私も出席をさせていただきました断髪式の様子についてでございます。

まず、宿毛市名誉市民に顕彰した経緯について、御説明をさせていただきます。

宿毛市名誉市民の称号は、広く社会文化、産業の興隆等に卓越した功績があった者に対し、その功績をたたえ、もって市民敬愛の対象として顕彰することを目的としているところでございます。

梶原氏は、元関脇豊ノ島関であり、現井筒親方でございます。

梶原氏は、宿毛高校を卒業され、時津風部屋に入門、2002年の初土俵から2020年まで長きにわたり活躍をされました。

その間には、関脇にも昇進され、優勝決定戦、アキレス腱断裂からの奇跡の復活劇など、小兵力士として活躍する姿は、宿毛市民に大きな勇気を与えていただいたところでございます。

また、本市におきましても、これまで9回にわたりまして、豊ノ島杯ちびっこ相撲大会を開催いただき、子供たちにとって、貴重な経験にもなっているところでございます。

以上のことから、梶原氏の教育・文化など、

社会文化の進展に卓絶した功績をたたえまして、名誉市民に顕彰したものでございます。

次に、5月28日に執り行われました豊ノ島関の断髪式の様子について、お答えをさせていただきます。

豊ノ島関の断髪式は、十両土俵入りから始まりまして、その後、豊ノ島関最後の一番といたしまして、元大関琴奨菊との取組が行われ、見事、豊ノ島関が寄り倒して勝利し、会場に割れんばかりの拍手が鳴り響いたところでございました。

その後、宿毛市名誉市民の岡本知高氏による国歌独唱が行われまして、断髪者を代表いたしました、私が宿毛市長として挨拶をさせていただき、断髪式では一番ばさみを入れさせていただきました。

約400名の断髪者の中には、芸能界をはじめ、政財界の著名な方々も多くおられ、改めまして豊ノ島関の人気、人望の厚さを実感いたしましたところでございます。

ちょうど昨夜、テレビ番組のジャンクスポーツで、その様子も放送されていたところでもございました。

そして、御家族がはさみを入れられる場面での、豊ノ島関の涙をぬぐう光景、私も見たところでございますが、胸がいっぱいになったところでございます。

奥様をはじめ、御家族の皆さんに支えられた相撲人生であったのではないかと思います。

現役を引退され、今後は親方として御活躍されることと存じますが、これからも宿毛市市政発展に御尽力をいただける方だというふうにご確信をされているところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） 市長のお話から、映像が目には浮かんでくるようで、とても楽しかった

です。ありがとうございます。

また、市長の御配慮のある答弁をいただきまして、今回、お二方、名誉市民になられましたのに、通告のときにお一人だけお名前を挙げてしまいまして、片手落ちになるところでございました。岡本様には大変失礼を申し上げ、おわび申し上げます。

ことの起こりは、新聞報道で、先ほどもありましたが、400人の方がはさみを入れられるとありましたので、どんなにされるんだろうとか、一人1本とか2本しか切れないのかなって、何か本当にミーハーで、やじうま根性のかたまりがもたげてきまして、今回、市長にお尋ねしたところでもございました。

5月19日、岡本知高氏のコンサートが高知市内でもございました。翌20日に、友人が、ゆうべは帰りが夜中になってしまったけど、すてきなコンサートやったよって。四国4県、いろんな場所で、いろんな方がコンサートをされるので、高知県が岡本さんと、ほか二、三名の方のジョイントのようなコンサートだとお聞きしておりますので、友人の言葉をかりて御紹介いたします。

私の不手際をお許しいただき、仕切り直しをさせていただきます。

2番目に、井筒親方となられました、今後の活動と豊ノ島杯について、詳しくお伺いしたいと存じます。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

井筒親方の今後の活動につきましては、相撲部屋でのお弟子さんへの指導が主な活動となると思いますが、これまでも持ち前の明るい性格とトーク力で、テレビ出演も多くされておりましたので、今後もさらに幅広い分野での御活躍、そういったものを期待しているところでもござい

ます。

豊ノ島関宿毛後援会が主催されております豊ノ島杯ちびっこ相撲大会につきましては、コロナウイルス感染症により、昨年、おとしと開催されておりましたが、今年は3年ぶりに開催する予定とお聞きをしているところでもございます。

今回は、豊ノ島関の引退記念と、第10回大会という節目の大会ということもありまして、子供たちに本物に触れてもらう機会を提供するため、実際に大相撲で活躍されておられます行司と呼び出しをお招きするなど、特別な大会として、実施を計画していただいているところでもございます。

豊ノ島杯を通して、子供たちが相撲に触れ合い、将来、豊ノ島に続いて大相撲で活躍できるような子供たちが、この宿毛市から育っていくきっかけとなる大会として、今後も継続して開催していけるよう、宿毛市といたしましても、バックアップをしていきたいと考えているところでもございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） 今、お伺いして、ますますどきどきしてきました。

本物と言ったら失礼ですが、行司さんや呼び出しさんが来たら、その迫力というものには格段に違うと思います。

小さいお子さんのお名前を読み上げるというのですか、していただくと、また違う緊張感から感動があると思います。ぜひ、いろいろお伺いいたしました。楽しみにいたしております。

名誉市民のお二方には、御本人の研さんはもとより、御家族や御関係の皆様のお力添え、また多くのファン、宿毛市民の皆様方の御支援があったことと存じます。

改めておねざらいとお喜びを申し上げます。

本当におめでとうございます。そしてありがとうございます。

岡本様には、世界中の皆様にも夢と希望のお声を、井筒親方には、今後も多くの少年少女に胸をおかしかけていただけますよう、お願い申し上げます。

3項目めにまいります。

コロナ禍におけるイベント活動についてをお伺いいたします。

コロナ禍の中、現場では、薄氷を踏む思いで準備をされたことでしょうか。今後も宿毛まつりや、各種イベントが開催される予定と伺っております。

過日の産業祭、宿毛マラソンの状況をお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 産業振興課長。

○産業振興課長（岩本敬二君） 産業振興課長、高倉議員の一般質問にお答えいたします。

産業祭につきましては、例年、4月29日の祝日に開催しておりますが、本年につきましては、庁舎の移転に伴い、5月22日に宿毛市総合運動公園において開催いたしました。

コロナ禍においてのイベント開催に当たり、各種感染防止対策を行う中での開催となりましたが、約4,500人もの皆様に御来場いただきました。

例年の約1万人程度と比較しますと、来場者数が減少しておりますが、来場者の密集を避けるため、一部、イベント内容を変更したことや、県外へのチラシの折り込みを行わなかったこと等の影響でないかと、分析しております。

感染防止対策としては、スタッフ、出店者等の関係者につきましては、全員に抗原検査キットによる検査を実施していただき、陰性を確認した上で、イベントに参加していただく対応を取りました。

来場者には、全員に検温、手指消毒、マスク

着用をお願いし、健康状態を確認した上で、入場していただく対策を取りました。

会場のレイアウトも、できるだけ動線を広く取る工夫をし、イートインスペースについても、大型テント内の椅子の数を、机1枚に当たり4脚に減らすとともに、陸上競技場のスタンドや防災広場も開放するなど、スペースを広く使い、密を避ける工夫をいたしました。

長引くコロナ禍の中で、久しぶりの大型イベントでございましたので、来場者の皆様には、楽しんでいただけたことと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 生涯学習課長兼宿毛文教センター所長。

○生涯学習課長兼宿毛文教センター所長（中平成也君） 生涯学習課長、続きまして宿毛マラソンの状況について、お答えいたします。

5月29日に開催いたしました第7回宿毛マラソンにつきましては、12歳以上の方については、大会当日までに新型コロナワクチンを2回以上接種済であること。もしくは、PCR検査、または抗原検査を受けていただき、陰性の確認ができた方。

12歳未満の参加者につきましては、抗原検査キットを事前に送付し、陰性を確認した方のみが参加できることを条件といたしました。

また、運営スタッフやボランティアの方々にも、事前に配付した抗原検査キットによる検査を義務づけ、当日の業務に当たっていただきました。

さらに、会場では、検温所を設置し、ランナー、応援の方々の体温の測定、マスクの着用、手指消毒等、基本的な感染対策の徹底をお願いするとともに、競技についても、密とならないよう対策を取り、完走証のデータ配布、表彰式の省略など、万全を期して細やかな感染症対策を実施し、皆様に大変御負担をおかけしました

が、御理解と御協力をいただき、無事盛大に開催できましたことを、この場をお借りしましてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

なお、今回の第7回大会では、1,180名のエントリーに対し1,001名の方が参加され、986名の方が完走されました。

参加者の皆様からは、ゴール後のアイシングサービスなどの暑さ対策や、沿道での温かな応援などについて、大変高評価をいただきました。次回第8回大会では、さらに満足度の高い大会にしていきたいと考えておりますので、引き続き、市民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

以上です。

○議長（寺田公一君） 7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） 産業祭もマラソンも、詳しくありがとうございました。

マラソンで走っている方に顔見知りの方がおりますと、マスクしているので、つい、頑張ると言いそうになりまして、言えないのがすごく残念でした。

私は、神有の給水所のほうにいましたので、周りが十分空いておりました。空いておりましたけれども、やはりルールは守らなきゃいけないのと思って、鳴子と拍手と、それからガッツポーズで、これでしか、頑張っただけかというあれがないので、そんなにしましたけれども。

本当にどちらも、人手や、いろんな制限もあったりして、以前に比べて少なかったこともありますが、安全に終了できたことは、参加してくださったボランティアの協力の皆様や、最前線で準備をしてくださった御担当者の御心労の結果と存じます。本当にお疲れさまでした。

これは5月28日、四万十川河川敷で開催された、高知県の令和4年防災フェスティバルのことです。

私は、日本赤十字宿毛奉仕団として、炊き出し、救急法講習に参加いたしました。

それで、かっぱう着の上からですので、ちょっと大きいのですが、入場口で来場者全員の方に検温、マスク、手指消毒を確認しまして、共通意識確認のために、見えるところにつけてくださいとって渡されました。

長いひもになっておりまして、適当なところでくつつくようになっております。

私はさっき言ったように、かっぱう着の上でしたから、ちょっとぶかぶかになったんですが、これはいいなと思いました。感染対策に積極的に参加、自覚ができます。

また、見える化によって、安心感も違ってきます。御参考にされてはと思い、御報告いたします。

次に、4項目め、令和3年民法・不動産登記法改正についてをお伺いいたします。

どのような改正なのかをお教えてください。

○議長（寺田公一君） 税務課長。

○税務課長（山岡敏樹君） 税務課長、高倉議員の一般質問にお答えします。

令和3年民法・不動産登記法改正の背景及び概要を説明させていただきます。

今回の改正の背景には、これまで不動産相続登記の申請が義務でなく、申請しなくても不利益を被ることが少ないことがあります。

また、地方を中心に土地の所有意識が希薄化、土地を利用したいというニーズの低下、資産分割しないまま相続が繰り返され、土地所有者がネズミ算式に増加していくことなどから、公共事業等が円滑に進まず、民間の取引も阻害され、土地が管理不全化してきています。

今後、高齢化の進展による死亡者数の増加等により、ますます深刻化する恐れがあり、所有者不明土地問題を解決するため、改正されたものです。

次に、改正の概要につきましては、所有者不明土地の発生予防と利用の円滑化の両面から、総合的に民事基本法制を見直されたものです。

まず、民法につきましては、所有者不明土地制度等の創設、共有者が不明な場合の共有地の利用の円滑化、長期間経過後の遺産分割の見直しなどを行い、土地利用の円滑化を図るもので、令和5年4月より施行されます。

不動産登記制度の見直しにつきましては、相続登記、住所変更登記の義務化、その手続における簡素化、合理化を図り、発生予防するもので、相続登記の義務化は令和6年4月より、住所変更の義務化は令和7年4月までに施行されます。

また、土地を手放すための制度につきましては、相続等により土地の所有権を取得した者が法務大臣の承認を受けて、その土地の所有権を国庫に帰属させることができる制度を創設し、所有者不明土地の発生予防をするもので、令和5年4月27日までに施行されます。

以上です。

○議長（寺田公一君） 7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） 再質問いたします。

土地や水利問題は、昔から本当に大変な非常に難しい問題であったと思います。

どのような形で周知をされるのかを、お伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 税務課長。

○税務課長（山岡敏樹君） 高倉議員の再質問にお答えします。

周知対策につきましては、主管である法務局と連携して、市の広報やホームページを通じて、市民の皆さんに伝えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（寺田公一君） 7番高倉真弓君。

○7番（高倉真弓君） これはもうしっかり周

知していただいて、あとあと遺恨とか問題が残らないような形で対処していただきたいと存じます。

この法がよい形で運用されますと、例えば、沖の島の懸案になっております幹線道路、循環道路などにも明るい光が見えてくるのではないかと考えて、大いに期待して、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（寺田公一君） この際、10分間休憩いたします。

午後 1時37分 休憩

午後 1時48分 再開

○議長（寺田公一君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

3番三木健正君。

○3番（三木健正君） 3番、三木でございます。通告に従いまして、質問をさせていただきます。

まず、最初の通告でございます、宿毛市キッチンカー等導入支援事業費補助金について、お伺いをいたします。

まず1点目でございますが、宿毛市キッチンカー等導入支援事業費補助金制度、これはせんだつての3月議会におきまして、新規事業として上程されまして、令和4年度の当初予算の中に含まれる形で可決され、現在、実施されていることと存じますが、確認の意味で、いま一度、この制度の内容をお伺いしたいと思います。

特に、当初予定していたところからの変更点や、追加された点等ございましたら、併せてお聞かせを願います。

○議長（寺田公一君） 商工観光課長。

○商工観光課長（長山敏昭君） 商工観光課長、三木議員の一般質問にお答えをいたします。

宿毛市キッチンカー等導入支援事業費補助金につきまして、いま一度、制度の内容及び変更

点があればということでございます。

本補助金は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大きく売上げが落ち込んでいる市内中小事業者の方々などが、新たなサービスとして、キッチンカー等による移動販売をはじめ、売上げを確保する取組を支援するものでありまして、それに係る経費の一部を助成するものであります。

具体的には、キッチンカー等の導入経費のうち、車両購入費を除く車両改修費、また機械設備費、広告宣伝費、委託費などを補助対象経費としておりまして、その4分の3を補助するもので、補助金の上限額は75万円としております。

また、当初からの変更点等ということですが、令和4年第1回定例会におきまして、三木議員から御質問がありました機材購入時の輸送費につきましては、キッチンカー等の導入に必要な経費と判断をして、補助対象経費としております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） 大きな変更点はなかったというふうに理解をいたしました。

続きまして、同じくキッチンカー等導入支援事業費補助金についてでございますが、現在のこの制度に対しましての申請の状況をお伺いをいたします。

今、現段階での数字というか、申請数等が分かればお願いをいたします。

また、併せて、問い合わせをいただいて、まだ申請していないとか、そういったものが、もし把握できているようであればございましたら、そちらの件数もお伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 商工観光課長。

○商工観光課長（長山敏昭君） 商工観光課長、現在の申請状況につきまして、御報告いたしま

す。

申請及び決定が、共に4件となっております。交付決定額が予算の上限に、現在達しております。

新規受付は、現在、中止をしている状況でございます。

新規受付の停止以後、問い合わせのあった件数につきましては、1件のお問い合わせをいただいております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） 予定されていた予算に達したと。申請件数4件、あと1件が問い合わせ中というふうに理解をいたしました。

それでは、4件申請されたということで、まずこの1件、問い合わせもある、そこも含めてなんですけれども、設備に要する経費や、広告等に要する経費などが補助対象となる。

先ほどの説明、課長からも説明いただきましたが、今回、補助金を申請されている方々の内容で、それは設備が主なのか、この広告等が主なのか、そういった部分につきまして、内容をお聞かせいただきたいなと思います。

また、その内容から、どのように考察しておられるのか。例えば、新規に業種転換でキッチンカーを活用されていくのか。もしくは、キッチンカー、あらかじめ持ってて、広告等に力を入れていきたいのか、そういった部分も含めて、お聞かせをいただきたいと思います。お願いいたします。

○議長（寺田公一君） 商工観光課長。

○商工観光課長（長山敏昭君） お答えいたします。

補助金申請されております経費の内訳についての御質問であったかと思っております。

申請が出ております4件、トータルの金額ベースで、車両改修費が全体の約65%、機械設

備費が約25%、そして広告宣伝費が約10%となっております。

車両改修費及び機械設備費の主なものとして、それぞれ給水や電気設備等の内装工事費、また、車両ラッピング、冷凍冷蔵庫や、IHヒーターとなっております。

このことから分かることとして、新たにキッチンカー等の導入を考えられている事業者にとりましては、大きな負担となることが想定されておりました初期導入経費を、一定額補うことができたのではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） 今、説明がございましたように、こういったコロナの中で疲弊した飲食店を中心とした事業者の方々が、こういった新たな事でも活路を見いだすための補助として、有効に活用いただければなというふうに思います。

キッチンカーについては、今回、補助金を使って開始された機会、キッチンカーを活用していただきたいなと思いますので、その辺もまた含めて、注意を払っていただきたいなと思います。

続きまして、補助事業の今後についてということですが、先ほど、説明がありましたように、一応、今、4件、予算額自体は達しているということで、一旦、止まった状態ということをお聞きいたしました。

本事業に対して、一定の反響があったものと判断されるわけですが、そこで、この事業に対して、今後延長していくですとか、予算の増額を図って、さらに活用していただく機会を増やしていく。そういったお考えがあるかないかをお聞きしたいと思います。

また、今回、補助金を活用いただきました事

業者の方々に對しまして、本事業の目的でもありますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた事業者の売上回復に向けた取組を支えるというふうに、新規事業等調査表にも書かれております。

その点から言いますと、今回、整備されたキッチンカーをいかに活用していくのかということも、一つの重要な課題となってこようかと思っております。

その点につきまして、キッチンカーの活用機会の創出等につきまして、今後どのような支援をされていくのか、その点につきましてお伺いしたいと思います。

よろしく申し上げます。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） 三木議員の一般質問にお答えをさせていただきます。

本補助事業の今後につきましては、先ほど、課長の答弁にもありましたように、受付終了後も、キッチンカーを検討されている事業者の方からの問い合わせがなされております。

同様の問い合わせがさらに増加した場合には、事業者の活力向上を推し進めるためにも、積極的に追加支援を検討してまいりたい、そのように考えているところでございます。

また、キッチンカーの利用促進に向けた支援策につきましては、今回の補助事業により、事業転換を図る事業者を下支えするためにも、重要な視点であるというふうに考えているところでございます。

需要の掘り起こしが見込まれるこの新庁舎や、そして高知西南中核工業団地、また週末の需要が見込まれる今年度整備予定の道の駅すくもサニーサイドパークなどにおきまして、キッチンカーの利用促進がなされるように、関係機関と連携を図り、状況に応じた側面的な支援を積極的に図っていきたい、そのように思っております。

す。

やはり需要と供給。需要があるところに、直接、乗り入れをしていって、そこで販売ができるといった利点があるかというふうに思っているところをごさいます、そういった面からも、アフターコロナという形の中で、新たな事業展開に向けて、支援してまいりたいと考えているところをごさいます。

以上をごさいます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） 支援に向けた取組、今後も続けてまいられるということで、安心をいたしました。

さらに、情報交換しながら、こういった事業者の求める機会であったりですか、逆に市のほうから、こういうのはどうだろうという、情報の共有とか、そういった部分も含めて、取組を進めていっていただければというふうに思います。

続きまして、次の質問に移ります。

ポストコロナを見据えた市内事業者支援について、お伺いをしてまいります。

今、前々回の議会の中でも、私、一般質問の中で何回かお伺いした件をごさいます、今、コロナが長期化する中で、状況が変わってきているというふうに思います。

これは、先ほど、午前中の一般質問にもありました、コロナだけでなく、世界の情勢とか状況も大きく変化する中で、先ほどの燃料の高騰でありますとか、資材の高騰、資源の高騰、多々生活に直結してくる問題があるわけですが、その中で、市内の事業者の今の現状についてなんですが、今、市としては、現在の宿毛市の市内事業者の状況を、今現時点ではどのように捉えていらっしゃるのか、または分析されているのか、この点をお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

日本銀行高知支店の高知県金融経済の概況などによりますと、緩やかな改善の気配といえますか、そういった気配が見受けられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響からは脱却しておらず、依然として厳しい状況が継続していると、そのように分析をされているところをごさいます、こういう状況なのかなというふうに、本市としても考えているところをごさいます。

議員おっしゃられましたとおりでして、これに加えまして、ロシアのウクライナ軍事侵攻を背景に、資源の高騰や原材料の供給不足などにより、様々な分野で値上げが実行されているところをごさいます。

そして、市内事業者の皆様が置かれている環境といえますものは、まだまだ厳しい状況が続いているというふうに、私も感じているところをごさいます。

以上をごさいます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） まさしく同感でございまして、非常に厳しい状況にあるというように、私も捉えております。

しかしながら、事業者の努力や、そういったものがまず第一優先になってくるのかなど。いかに宿毛市で事業継続されていくのかということ、注意しながら見ていていただきたいなと思います。

そこで1点、補足的な質問にはなりますが、庁舎移転から1カ月少々がたちましたが、この庁舎移転に伴いまして、既存市街地への影響という部分に関して、どのように市としては見られているのか。

ただ、見極めるには、時間的にも短いとは思われますが、現段階での所見をお伺いをいたし

ます。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをいたします。

新庁舎での業務を開始して、1カ月以上が経過をいたしたところでございます。

庁舎が移転したことに伴う既存市街地への影響についてでございますが、現状での把握というのは、まだまだ困難なところではございますが、通勤時間帯の交通量が減少したということは、市民の皆様からも聞いているところでございます。

また、既存市街地から約300名の職員がここに移ったということで、ランチタイムの人手や、そしてコンビニエンスストアの利用客が減ったものではないかというふうに、推測をしているところでございます。

なお、職員による夜の宴会につきましては、移転前とそれほど大きな変化は生じていないのではないかというふうに思っているところでございます。

本市といたしましても、庁舎移転に伴う既存市街地への影響を、できる限り緩和をしていかなければなりませんし、またそういったものを、底上げもしていかなければならない、そのように思っているところでございまして、引き続き、既存市街地への影響を注視しながら、取り組んでいきたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） 今、答弁にもございましたように、時期的にまだ見極めるのは到底早い。現象として、市民の皆様から出てきている声を拾い上げていっている段階で、私のほうにも、幾つか耳には入っておりますが、状況としては、同じような情報が入っているなというところでございます。

注意しながら、大きく今までとの差が生まれて、既存市街地の過疎化じゃないですけども、流れに余り大きな影響がない、もしくは中心市街地の活性ということで取り組んでまいっておりますので、そうした部分も注意を払っていただきたいなと思います。

続きまして、今後の市内事業者に対しての支援について、1点質問をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、売上減少などによる経営状態の悪化を支えるために、宿毛市といたしましても、各種補助金や給付金の政策を実施されてきました。

今後の支援等についてお伺いをいたしてまいります。

現在も新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の低迷は続いており、回復までには、まだまだ時間がかかることが予想されております。

今後、市内業者に対しての支援等につきまして、どういった方向性を持って進めていかれるのか。また、現在、既に検討中の政策や、国や県に対して働きかけている事項等ございましたら、お聞かせを願います。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをいたします。

市内事業者への支援につきましては、事業継続を主眼とした直接的な事業者支援と、ポストコロナを見据えた支援策の両面から施策を実施してまいりたいと考えているところでございます。

現在、国や高知県が、コロナの影響を受けた事業者への直接支援を実施しておりますので、宿毛市としましては、ポストコロナを見据えた施策に重点を置きまして、事業転換を図る事業者を支援する宿毛市キッチンカー等導入支援事業費補助、事業展開を金融面で支援する宿毛市中小企業者等経営支援事業保証料補助、及び利

子補給補助などの事業者支援を実施しているところがございます。

次に、国や県に対する市としての働きかけでございますが、事業者を取り巻く環境は、コロナ禍の影響に加え、原油高、物価高騰など、ますます厳しくなっております。

令和4年6月1日に、全国市長会で決議されましたポストコロナを見据えた地域経済、雇用対策の充実に関する決議に賛同いたしまして、国に対して事業所支援の充実などを、要望したところがございます。

今後ますます重要となる事業所支援が、より効果的に実施されるよう、様々な場面を通じまして、国や県へ、これからも強く要望していきたい、そのように考えているところでございます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） ぜひとも、国、県への強い働きかけ、力強い言葉いただきました。

市の財源にも限りは当然あります。そこだけに集中できる状況でもない、これはよく理解しております。

いかに国、県の支援を取りつけてくるかということも、また一つ重要な動きとなってまいりますので、その点にも力を入れていただきたいなと思います。

1点、再質問をさせていただきます。

今年4月1日付で、宿毛商工会議所内の商業部会の中に、飲食店分科会が立ち上がりました。この飲食店分科会は、くしくも新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、厳しい経営状態に陥った飲食店の方々が、何とか街ににぎわいを取り戻そうと、活路を見いだそうということで、立ち上げに至ったわけでございます。

この分科会では、食を通じての地域振興を目的としており、今後、土曜夜市の復活や、市内イベントへの積極的参加、また各店舗間の連携

を強くして、市内外に向けてのキャンペーン実施等のイベント関連事業を計画しております。

さらに、商工会議所管轄の補助事業を活用し、Webや紙媒体での飲食店マップの再構築に向けて、活動を開始しております。

このマップにつきましては、位置を示すだけのマップではなく、一つのテーマにのっとった形でマップを作成し、地元食材を使った料理や飲み物を提供することで、楽しみながら宿毛の食をPRしていくというふうな予定で聞いております。

そうした積極的な活動に対して、市としては、何らかの協力をしていくべきではないかというふうに考えるわけですが、その点につきまして、所見をお伺いしたいと思います。

お願いいたします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

宿毛商工会議所内の商業部会の中に、飲食店分科会が組織されたということは聞かさせていただきました。承知をしているところでございます。

この新型コロナウイルス感染症の影響を、非常に受けている飲食店であります。そういった方々が、地域の活性化のために頑張ろうということで、立ち上げたというふうに聞いておまして、非常に期待をしているところでございます。

ぜひ、いろいろな形で連携をもって、一緒になって取り組んでいきたいというふうに考えているところでございまして、市としても、しっかりと支援をする必要があれば、支援をしてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） 何かと飲食店の状況と

というのは、報道等でも、宿毛市のみならず全国的な問題にもなっていておきまして、その中で、何か活路を見いだそうという取組に関して、非常に、私としても胸が熱くなる思いをしているところではございます。

ぜひとも、どういったことが今後企画されてくるのかというのは、現時点では分かりませんが、これも先ほどと同じですけれども、情報の共有とか、情報交換といった場を設けながら、最終的には、先ほど、目的に合った宿毛市の地域振興ということに結びついていく、方向性としては同じ方向を向いているのではないかと理解しておりますので、この点も協力を深めていただきたいと思いますというふうに思います。

それでは、次の質問に移ります。

地方創生テレワーク交付金活用による企業誘致と移住促進についてということで、質問をさせていただきます。

これまでの移住定住促進事業の実績について、お伺いしたいと思います。

宿毛市として、これまで実施してきました移住定住促進事業と、その実績をお伺いをいたします。

概要程度の紹介で結構でございますので、お聞かせをお願いします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

本市の移住促進の取組につきましては、私が市長に就任した翌年の平成28年度から、公約でもありました移住定住推進室を設置し、移住促進に取り組んできたところでございます。

その中で、県外での移住者フェアへの参加はもちろんのこと、宿毛市での移住体験ツアーや、短期滞在施設の提供、移住してきた方に対しては、移住者交流会の開催などによりまして、移住後の不安解消などのサポートを行う定住促

進も実施をしているところでございます。

毎年度、同様の施策を行うのではなく、そのときの状況に合った事業を行うことで、移住希望者のニーズに応えるべく、取り組んでおきまして、近年におきまして、空き家活用事業費補助金や、子育て世帯移住支援事業費補助金、そして結婚新生活支援事業費補助金など、様々な事業を実施しているところでございます。

平成28年度から6年間での県外からの移住者は、480名となっております。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、減少傾向にはありますが、令和元年度には、取組を始めて以来、最も多い128名の方に移住をしていただいているところでございまして、これからも、この施策、力を入れて取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） おおよそ概要が分かってまいりました。

地方創生テレワーク交付金の活用について、前段にお伺いした移住定住促進事業の中で、今現在、国からのデジタル田園都市国家構想推進交付金、地方創生テレワークタイプというのが打ち出されてきておるわけですが、この件につきましてお伺いをいたします。

地方の1次産業をはじめとして、地域によっては文化、スポーツ等、多方面から地方への移住定住、交流への支援策が打ち出されてきましたが、その中で、今回、一般質問の場で宿毛市における地方創生テレワーク交付金についてお伺いをいたします。

さて、地方において仕事がないことが、地方への移住定住を拒む大きな要因となってきたのは、今までも幾つか挙げられてきておりますが、これまでの地域活性化政策は、地元産業の創生や、企業の誘致に焦点が当てられてきま

したが、東京一極集中を大きく改善するものにはなっておりません。

これを打開する可能性を秘めたものとして、コロナで一気に進んだ時間、場所の制約に縛られずに、仕事ができるテレワークが挙げられています。

新型コロナウイルス感染症拡大によって、働き方が大きく変化し、総務省の通信利用動向調査によりますと、企業のテレワーク実施率は、新型コロナウイルス感染症拡大前に比べ、倍増しております。特に情報通信事業においては、実に9割以上の企業がテレワークの導入をしておるとい現状がございます。

このような状況下におきまして、宿毛市におきましても、人口減少に歯止めをかけ、さらに豊富な技術や知識を持った人材を確保するなどの観点から、積極的なテレワーク交付金に対する働きかけが必要ではないかというふうに思いますが、現時点におきまして、宿毛市のテレワーク交付金活用に向けた取組は、どのようになっているのかをお伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 企画課長。

○企画課長（上村秀生君） 企画課長、三木議員の一般質問にお答えいたします。

地方創生テレワーク交付金は、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、国民の意識、行動の変容が見られることを踏まえ、地方でのサテライトオフィスの開設や、テレワークを活用した移住滞在の取組等を支援することによりまして、地方への新しい人の流れを創出し、活力ある地域社会の実現を図ることを目的といたしまして、昨年、創設された制度でございます。

本市におきましても、遊休施設の活用や、企業誘致を目的といたしまして、サテライトオフィスなどの検討を行ってきた経緯がございますが、本交付金の活用には至っていないという状況でございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） まだ活用に至っていないということで、御答弁いただきました。

それでは、この地方創生テレワーク交付金を、仮に活用を推進するというふうに方向性をおとった場合に、ざっくりした聞き方で申し訳ないんですけども、メリットというか、利点、これは目線によっては、市としての目線なのか、こちらにサテライトオフィス等を設けようとしている視点なのか、もしくは宿毛市をPRするといった部分、いろんな視点があると思いますが、利点という部分に関しましては、どのようなお考えをお持ちなのか、その点をお伺いいたします。

○議長（寺田公一君） 企画課長。

○企画課長（上村秀生君） 企画課長、三木議員の一般質問にお答えいたします。

地方創生テレワーク交付金は、地方負担が実質5%から10%で行える事業となっておりますので、市としてのメリットといたしましては、負担が非常に小さくて済むということが挙げられます。

また、移住者の方に、宿毛市を選んでいただくためのメリットといたしましては、本市は子育て世帯応援事業や、子育て世帯家賃補助事業、今年度から児童福祉医療費助成制度対象年齢を、中学校修了までから18歳年度末までの児童に拡大するなど、子育て支援対策に力を入れております。

また、大学等で市外に出られた後に帰られた方には、奨学金返還助成事業を新設するなど、乳幼児期から成人まで、安心して過ごしていただける環境を整えております。

そのほかにも、宿毛市にはよいところがたくさんあると思いますが、移住された後には、宿毛市を選んでよかったといただけるよう

な取組を、今後も進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） では、逆に、宿毛市において、地方創生テレワーク交付金の、同じく活用を推進をしようとするときに、課題となるような点、そういった部分が想定されておられましたら、その点につきましてもお伺いしたいと思います。

よろしく申し上げます。

○議長（寺田公一君） 企画課長。

○企画課長（上村秀生君） 企画課長、三木議員の一般質問にお答えいたします。

地方創生テレワーク交付金は、地方公共団体がサテライトオフィス等を整備するサテライトオフィス等整備事業、民間施設の開設支援を行うサテライトオフィス等開設支援事業、既存の施設への関連設備等の導入支援などを行うサテライトオフィス等活用促進事業、区域外の企業進出を支援する進出支援事業と、大きく4つの事業に分かれております。

本市が交付金を活用する場合には、この4つの事業のうち、どの事業を活用するのか。市外から人を呼び込むために、どういった事業を行うことが必要なのか、そのためのニーズの確認が一番の課題であると感じております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） メリットとデメリット、当然、何か物事を起こす場合には、当然そういった、相反するものが発生してくるものですが、トータルとして、宿毛市の抱えている問題を解決しつつ、こうした形で宿毛市の今後の発展に、何か追加できていくことができればいいというふうに思っております。

最後の質問になります。

今後の、この活用に向けた取組についてお伺いをいたします。

地方創生テレワーク、今挙げられました幾つかのメリット、また課題を踏まえた上で、工業団地の空き地の活用や、空き家対策などや、公共施設の跡地利用、また交付金に上限はあるものの、市の実質負担が5%から10%となるなど、さらには進出企業側にとっても、地方の人材を確保できたりですとか、固定費が都内等で、都会でやるよりも削減ができたりですとか、ここで働く社員にとっても、先ほど答弁もございました中で、子育てや介護の時間の確保、そういった市としての補助事業も多種ございます。

そういったいろんな面から見て、非常に有利な政策ではないかというふうに私個人は考えているわけですが、宿毛市としては、今後、この交付金活用に向けた取組の方向性、どういった方向に向かって、この活用、地方創生テレワークの交付金に向けた活用につきまして進めていくのか、またどのように考えているのか、その点をお聞かせを願います。

○議長（寺田公一君） 企画課長。

○企画課長（上村秀生君） 企画課長、三木議員の一般質問にお答えいたします。

地方創生テレワーク交付金は、議員がおっしゃられるように、地方公共団体の負担も少なく、有利な事業であると考えております。

また、移住促進に取り組む上で、当然、検討していかなければならない事業と考えております。

本交付金は、県内で採択されている自治体もあり、遊休施設を活用したサテライトオフィスを整備している自治体もございますので、今後におきましても、先行している自治体の動向や、施設の利用状況等も注視し、本市に合った事業の実施方法を検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 3番三木健正君。

○3番（三木健正君） 丁寧な答弁、ありがとうございました。

まさしく、時代に即した移住促進の政策の一つではないかというふうに思います。

これだけテレワークが進んで、家で、どこにいても同じ事業ができる。先ほど、答弁の中にもありました、いろんな先進地というか、導入に成功されている市町村も、ぽつぽつと出てきておるとお伺いしておりますので、そうした部分を踏まえつつ、また宿毛ならではの提案だとか、企画ができていけることを望んでおります。

ぜひともこういった機会で、宿毛市だけで人口を増やしていくというのは、本当にかなり厳しい状態。今まで何年もやってきて、先ほど、市長の答弁にもありましたが、480名ぐらい、決して少ない数字ではないと思います。すごく伸びてきているかなと思いますが、全体としては、減ってきている。この現状も踏まえなければいけないという中では、宿毛に移住定住していただく大きなきっかけとなっていくのではないかとこのように捉えますので、ぜひともまた研究を進めていただきまして、可能であれば積極的な取り入れをお願いしたいと思います。

以上をもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（寺田公一君） お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会いたしたいと思います。

これに御異議ありませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 御異議なしと認めます。

よって、本日はこれにて延会することに決しました。

本日は、これにて延会いたします。

令和4年
第2回宿毛市議会定例会会議録第3号

1 議事日程

第8日（令和4年6月14日 火曜日）

午前10時 開議

第1 一般質問

----- . . . -----

2 本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

----- . . . -----

3 出席議員（13名）

1番 今 城 隆 君	2番 堀 景 君
3番 三 木 健 正 君	4番 川 田 栄 子 君
5番 川 村 三 千 代 君	7番 高 倉 真 弓 君
8番 山 上 庄 一 君	9番 山 戸 寛 君
10番 岡 崎 利 久 君	11番 野々下 昌 文 君
12番 松 浦 英 夫 君	13番 寺 田 公 一 君
14番 濱 田 陸 紀 君	

----- . . . -----

4 欠席議員

な し

----- . . . -----

5 事務局職員出席者

事務局 長	黒 田 厚 君
次長兼庶務係長 兼調査係長	奈 良 和 美 君
議事係長	桑 原 美 穂 君

----- . . . -----

6 出席要求による出席者

市 長	中 平 富 宏 君
副 市 長	岩 本 昌 彦 君
企 画 課 長	上 村 秀 生 君
総 務 課 長 兼 選挙管理委員会事務局長	桑 原 一 君
危 機 管 理 課 長	有 田 巧 史 君
市 民 課 長	岡 本 武 君
税 務 課 長	山 岡 敏 樹 君

会計管理者兼 会計課長	佐藤 恵介 君
健康推進課長	松田 まなみ 君
長寿政策課長	谷本 裕子 君
環境課長	谷本 和哉 君
人権推進課長	川村 志保 君
産業振興課長	岩本 敬二 君
商工観光課長	長山 敏昭 君
土木課長	澤田 英典 君
都市建設課長	小島 裕史 君
福祉事務所長	朝比奈 淳司 君
水道課長	川島 義之 君
教育長	鎌田 勇人 君
教育次長兼 学校教育課長	和田 克哉 君
生涯学習課長 兼 宿毛文教 センター所長	中平 成也 君
学校給食 センター所長	平井 建一 君

----- . . . ----- . . . -----

午前10時01分 開議

○議長（寺田公一君） これより本日の会議を開きます。

日程第1「一般質問」を行います。

順次発言を許します。

1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 1番、今城です。今回もよろしくお願ひいたします。

それでは、1番目の原子力災害への対応について、伺っていきます。

ロシアのウクライナ侵攻では、原発が攻撃されたり、核戦略の使用をおおせたりしています。

転じて、日本では泊原発訴訟、これは津波対策が欠けるとして、運転差し止めの判決が出ました。

私たちは、このような現実には真剣に向き合わなければならないと考えています。この機会に、原発重大事故などによる原子力災害が発生した際、宿毛市がどのように対応するのかを伺っていきます。

それでは、まずはじめに、予想され得る被害について、聞きます。

伊方原発がメルトダウンや水素爆発を起こすような事態になった場合、宿毛市にどのような被害を及ぼす可能性があるのか。想定され得る最大レベルの被害とはどのようなものか、お伺ひします。

よろしくお願ひします。

○議長（寺田公一君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、今城議員の一般質問にお答えいたします。

本市の被害の想定についてでございますが、国の指針では、原子力発電所からおおむね半径30キロメートルを、原子力災害対策重点区域とし、原子力発電に特有な対策を講じることと

してあり、重点区域の範囲外での防護体制につきましては、国が指示を出すこととなっております。

宿毛市は、原子力発電所から50キロメートル以上離れておりまして、重点区域の範囲外でございますが、放射線物質は、一般的に移動距離が長くなる場合は拡散により、濃度は低くなる傾向があるものの、風下方向の広範囲に影響が及ぶ可能性がありますので、気象条件によっては、放射線物質の影響を受けることも考えられます。

また、想定し得る最大レベルの被害についての御質問ですけれども、先ほど申し上げましたように、気象条件によりまして、影響をされるものであることから、高知県も被害想定について示しておらず、本市が単独で想定できるものではございません。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 福島原発事故では、放出された放射性物質の8割が、太平洋側に流れました。

1号炉の水素爆発による放射成雲、プルームといいますが、放射成雲は、200キロメートル離れた海上を航行中の米空母、ロナルド・レーガンに直撃し、その8年後には、兵士乗組員9名死亡、23人ががん、200人以上が後遺症を抱え、訴訟を起こしました。

この訴訟で、兵士らの症状や証言が出されましたが、下痢や下血が続き、歯が抜けていったとか、血液障害というのが出されています。

全くビキニ被災船員と共通した証言になっているということで、同等の被曝をしたものと考えられます。

2015年9月22日の高知新聞に、伊方原発事故想定、県西部で影響深刻という記事がありました。

民間シンクタンク環境総合研究所の顧問、青山氏は次のように述べています。

高知県西部は、年間を通して北から北西の風が多い。北の風の場合は、高知県西部に毎時10マイクロシーベルトに及ぶプルームが流れ、栽培されているミカンや、豊後水道に生息する魚は、もろに影響を受けると。

海が汚染されれば、5年から10年は漁業への影響も出るだろうと述べています。これは、宿毛湾、宇和海も含まれるということです。

宿毛は、伊方原発から70キロメートルほど離れていますが、事故が起これば、宿毛に被害を及ぼす可能性が極めて高いのです。

それでは、次に、宿毛にプルームが到達するまで、つまり放射成雲ですね。プルームが到達するまでの対応について、伺っていききたいと思います。

伊方原発で非常用炉心冷却装置が作動するような事故が発生、このような状態をフェーズ1という。

そして、原子力災害対策特別措置法第10条に基づき、厳重警戒態勢が発令されます。

この時点で、宿毛市がどのような対応を始めるのか、お伺いします。

○議長（寺田公一君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

厳重警戒態勢、フェーズ1が発令された場合の対応についてでございますけれども、宿毛市は原子力発電所から、先ほど議員がおっしゃいましたように、県境でも50キロメートル以上、それから市街地で70キロメートルになるかと思っておりますけれども、50キロメートル以上離れていることから、県が設定した応急対応フェーズや、県の配備体制に基づいた本市の対応規準はございませんけれども、国が気象状況によって、本市に影響が及ぶ可能性があるかと判断し

た場合には、住民に対して屋内退避や避難の指示が速やかに出せるように、広報等の準備の対応を行ってまいります。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） ということは、もしプルームが来ても、住民を被曝させないように、早急に住民、市民に状況を知らせていくということになるかと思えます。

それでは、次の質問にいきます。

次のフェーズ。原発敷地内で、5マイクロシーベルト毎時以上を検出し、フェーズ2に及ぶと政府は原子力災害対策特別措置法第15条に基づき、原子力災害緊急事態宣言を発令します。

その緊急事態宣言が発令された場合、宿毛市での対応はどのようになるのかを伺ってまいります。

お願いします。

○議長（寺田公一君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

フェーズ2、原子力災害緊急事態宣言が発令された場合ということでございます。

フェーズ1と同様に、本市に影響が及ぶ可能性がある場合には、屋内退避等の指示を速やかに出せる体制を整えることや、避難所の開設準備、また学校などの関係施設への伝達や住民等からの相談への対応など、県や周辺自治体とも連携を取りながら、対応を行ってまいります。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 広報でまず、注意を強化していくということになるかと思えます。

屋内退避の注意喚起ということは、この時点で外に出ないように注意をしていくということになると。それから、学校施設への通報がフェーズ1の段階からも出ていると思えますけれども、

これもちょっと聞かせてください。学校施設などに通報が来た場合、下校措置を取らすようなことになるのか。通告からいくと、追加質問になりますけれども、分かっていたらで結構です。

それから、ヨウ素剤の配布準備というのも書かれていましたけれども、この時点では、宿毛は対象外であるとして、この準備はまだないのかとか、そういうことも含めて、確認させてください。

もう一回、確認します。

学校等への情報伝達がきた。緊急事態宣言。学校にとどまらせるのか、下校させるのか。

それから、ヨウ素剤の配布準備などはしていくのか、その点、聞かせてください。

○議長（寺田公一君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

まず、学校施設への下校等の通知についてでございますけれども、まだ具体的には、各学校への退避を、学校にさせていただくのか、下校するのか、そういったところについては、まだ具体に取り決めておりませんので、国の指示を待ちながら、迅速に対応を図ってまいりたいと考えております。

それから、もう1点、安定ヨウ素剤の配布についてでございますけれども、安定ヨウ素剤につきましても、高知県、それから宿毛市においても、備蓄は行っておりませんが、まず、国における安定ヨウ素剤の備蓄量を申し上げますと、国が全国5か所において、安定ヨウ素剤集積所に200万錠、それからゼリー状安定ヨウ素剤を15万包を備蓄しております。

先ほども申し上げましたように、高知県、それから宿毛市では、安定ヨウ素剤の備蓄は行っておりませんが、万が一、宿毛市において安定ヨウ素剤が必要となった場合には、国の安定ヨウ素剤の集積所から必要な数量が配付されると

いうことになっております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 恐らく伊方の近くにあるんじゃないかと思しますので、比較的近いかもしれませんので、もし危険が生じてくれば、風向きとか、そういうときに、配付されることになるのかもしれないということでしょうか。

つまり、次に来る事態に備え、次のフェーズに進む事態に備え、被曝させないような対応が起こってくる。

ただ、さっき言った想定、下校させるのかさせないのか。恐らく、通告、その点で僕も考えてなかったということで、その点については、また考えておく必要はあろうかと思しますので、シミュレーションもしていただければと思います。

次に、国のレベルの規準からいえば、安全圏内、70キロメートルほど離れていますので、宿毛は安全圏内だろうということですが、さっき言ったように、多くは西風が吹きますので、雲の流れと一緒にですね、特に冬季は北西風が吹きますので、さっき言ったロナルド・レーガンでの被曝のように、こちら側に流れてくる可能性は高い。

伊方原発からプルームが噴き出し、北から北西風に乗って、三本杭とか篠山に突き当たると、上昇気流によって雨を降らせませす。

そうすると、篠川や松田川流域に雨を降らせることになるでしょう。

注意すべき放射性物質。2つの放射性物質が、気をつけるべきものとしてあげられます。

ヨウ素131、放射性ヨウ素、半減期8日ですが、気をつける必要があります。大変、水に溶けやすいので、水道水を汚染していきます。

福島で被曝した人たちというのは、水道水からの汚染が多かったということをお聞きしてい

ます。そういうことですね。

それから、セシウム130、セシウムということをよく聞くとと思いますが、これは、半減期30年で、水に溶けにくいということになります。長年にわたり、山林や川底、河口、湾内の土に蓄積し、それが、農水産物に被害を与えることになるでしょう。

ですから、こちらを直撃しないプルーム。ここにプルームが直撃しないことを望むばかりということになりますが、最悪の事態を考えなければならぬということになるかと思えますから、ぜひ想定しておいてください。

次の質問です。

プルームが来てしまえば、さっき言ったように、被曝をさせないということになるかと思えますが、外部被曝、内部被曝を予防するために、市民にどのような注意喚起を行うのか、もう少し具体的にお聞かせ願えればと思います。

○議長（寺田公一君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

原子力災害時につきましては、屋内に入ること。それから、遠くの避難先に避難するといった対策がございます。

住宅などの屋内に入るだけでも、放射線被曝量を減らすことはできますが、特にコンクリートの建物においては、遮蔽効果や気密性が高く、放射線被曝量を減らす効果は大きくなりますので、国から指示があった際には、このような退避行動が行えるように、注意喚起を行ってまいりたい、このように考えています。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 国から指示があった場合、早急に対応を取ることですけれども、まず、11年前を思い出してみると、家に退避してください。窓にガムテープなどで塞いでく

ださいといったことを覚えています。

密閉状態をつくることや、コンクリートの建物に入ること、そういうことであれば、そのフェーズの前に、恐らく避難場所を宿毛市として確保しておく必要があるんじゃないかと思うわけです。ぜひそのようなことを、早急に進めるような対応をお願いしたいと思います。

次の質問です。

次に進む前に、今言ったことの補強として、自分が家庭でできること。恐らく、市でもこういうことを呼びかけると書くことを書き出してみました。

プルームが来る前に、当然、外にまだ出れるわけですから、そのときに家庭でできることは、できるだけしておくということになるかと思えます。

まず、さっき言ったように、水道水が汚染されるということを見ると、飲料水などの水を早急にためるということでしょうか。お風呂であっても、ペットボトルであっても、できるだけのを、さっき言ったヨウ素131というのは、半減期8日。

放射能が半分減っているのが8日。まだまだ強いですね。2週間たてば、その半分。3週間とかいうふうに見てみると、10分の1ぐらいに減るのは、1カ月後ぐらいを考えなければならぬということになると思います。

ですから、少なくとも1週間は、家で閉じこもっておけるだけの準備が、事前に準備できていればいいし、さらに家にとどまらなければならぬ状況を想定しておくということになります。

それから、そういうことを備えて、屋内退避できる食料の備え。当然、地震で停電になっているかもしれませんが、情報を取れる、気象情報、それから当然、ニュースなども出てきますので、近くのモニタリングポストの数値を見る。

この近辺のモニタリングポストの所在地がわかりましたら教えてください。どうでしょうか。

○議長（寺田公一君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

お答えになっていないかも知りませんが、所在については、自分のところでは承知できておりません。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 今は増えているかもしれませんが、平成26年の県の原子力災害対策行動計画には、幡多には一つありました。高等技術学校に設置されていると書いてありました。城辺辺りにもあるかもしれません。

そういうところの数値が、自治体にも入ってくるものと思います。

それから、もし来たときには、雨にあたらないなど、そういうことを注意しないとイケないと思いますけれども。

次の質問にいきます。

さっき話しましたが、宿毛は50キロメートル圏外、それから、安定ヨウ素剤は集積地からの配布ということですが、いざというときの配布、これは可能かということですが、時間も制限があると思います。24時間以内に、あるいは被曝するまでに届けられる状況かどうか、このあたり、わかりましたら教えてください。お願いします。

○議長（寺田公一君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、安定ヨウ素剤の配布について、可能かということで、先ほど答弁させていただきましたように、高知県、それから宿毛市において、現在、備蓄はいたしておりません。

国の指針にもありますように、おおむね30キロメートルを超えますと、国の指示を出す

ということになっておりますので、そういった指示を待って、早急に対応してまいりたいというふうに考えておりますし、集積所としましては、全国5カ所ございまして、近くでは中国・四国地方で1カ所ございますので、そういった時間でも可能かなというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） ということは、ヘリによる輸送とか、そういうことになるんでしょうね。

ここで安定ヨウ素剤のことについて、把握しておかなければならないと思いますので、確認したいと思います。

体内のヨウ素の7から8割は甲状腺に蓄積されています。甲状腺ホルモンをつくるのに、ヨウ素が主成分になります。甲状腺ホルモンは、生殖、成長、発達のコントロールをしますので、特に胎児では、脳や抹消組織、骨格などの発達と成長を促しますので、子供には甲状腺に放射性ヨウ素を吸収しないように、できるだけ被曝の前に安定ヨウ素を服用させなければなりません。

常時、ホルモンで使われますから、使われた分がまた食物によって補給される。その前に、被曝して外から放射性ヨウ素が入ってくる前に、取り込むヨウ素で埋めておく。安定したヨウ素で埋めておくということになります。

今言った話からいけば、宿毛の場合は届く可能性が少ないような気もしています。ここへの対応というのが、市の勝負ではないかと私は思っています。

もろに来た。子供は被曝の可能性はある。宿毛市として、できることは何かということを考えていかないといけません。

次の質問ですね。じゃあ、安定ヨウ素剤が提供できない場合の事前の策はありますか。また、

保育園や学校給食などで、十分なヨウ素を摂取することができますかという質問をします。

お願いします。

○議長（寺田公一君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

未然の防止についての御質問でございましたけれども、安定ヨウ素剤の服用についてでございますが、安定ヨウ素剤の服用は、原則として原子力規制委員会が、服用の必要性を判断することとしておりますので、国から屋内退避や、避難等の指示と併せて、服用指示が出された場合に、住民への配布及び服用を実施することといたしております。

また、合わせまして、子供において、保育園、それから学校給食についてのヨウ素摂取についてでございますけれども、ヨウ素につきましては、魚介類や海藻類、特に昆布に高濃度で含まれていることから、日本の食習慣では、身近な栄養素であるというふうに考えられます。

また、体内に吸収されたヨウ素の多くは、甲状腺に蓄積されますけれども、ある一定量を超えると、尿中に排出されます。

厚生労働省が発行する日本人の食事摂取規準、2020年度版になりますけれども、それによりますと、ヨウ素の必要量は年齢に応じて変わりますけれども、1日0.05から0.14ミリグラムとされておりまして、昆布だしを用いたおみそ汁1杯で賄えることから、給食で提供する魚介類や海藻、だしを考慮すると、摂取できている量ではないかなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 日常の給食メニューで、昆布とかワカメが入った日がありますね。それで日常の甲状腺ホルモンを提供する分は、十分

に満たされている。あとは甲状腺にさらに蓄積されないように、補う必要があるということで、国からの提供が間に合わない場合、次のようなことがまず考えられるということで、それをおっしゃいます。

まず、国が配付するものとして、用意されるものと同じ物が、インターネットなど、薬局経由で買うことができます。

安定ヨウ素剤を前もって個人で入手することもできます。

効果は、被曝24時間前から被曝2時間前に服用すれば、効果は9割。被曝後24時間以内に服用しなければ、効果はほとんどない、ということですから、被曝してからでは、実際はなかなか効き目が薄くなるという意味で、プルームが来ると予想されたときに、できるだけ飲ましたほうがいいんだと思います。甲状腺がんを発生させないために。

ただし、服用による障害が起こることがあります。多量ですので、必要量というのは、1粒50ミリグラムを1回だけ飲めばいいそうです。

50ミリグラムというので、逆に言って、過剰障害を起こす場合があるので、国の指針では、医師の判断をもって受けさすということなので、なかなか行政として、集団で、まだ来ていない状況で与えることは厳しいのかもしれない。

しかし、家庭で、20丸入り860円でネットで出てきましたので、気になる人はこういうものを持っていてもいいだろうと思います。

あと、さっき出た昆布ですね。昆布の含量はものすごく多いです。昆布10グラムで10ミリグラムから20ミリグラム程度のヨウ素が含まれています。ヨウ素はものすごく水に溶けやすいので、だし汁で9割が液体になります。それを飲ませる方法もある。

原子力安全委員会でも、昆布の話が出て、それは可能だということですが、ただ避難時の国

の施策としては、非現実的だろうと。だし汁をそこから作ってということがあるので、それは家庭など、あるいはひょっとして給食センターの日常業務の中で、だし汁を作れる可能性がありますから。あるいは、昆布を保管しているものを、早急に子供に飲ませることも、ひょっとしたら可能になるかもしれません。ぜひ考慮してほしいと思います。

そういうことで、次に移ります。

次の問いです。

ブルーム到達後の対応について、お伺いします。

フェーズ3のブルームによる汚染が、20マイクロシーベルト毎時を超えた場合による対応を伺います。よろしくをお願いします。

○議長（寺田公一君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

仮に宿毛市が、1時間当たり20マイクロシーベルトを超える空間放射線量率が測定された場合につきましては、国や県からの指示によりまして、屋内退避や一時避難などの措置を講じることとなります。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） フェーズ3になると、もはやそこにとどまることは危険であるということです。つまり、1週間以内に一時移転の指示が出されるということになります。

そこで、きちっと注意しておかないといけないのは、このレベルになると、ほこりとか、再浮遊した放射性物質の吸入で、非常に危険なレベルの被曝をする可能性があります。

それから、地域生産物を摂取するということに気をつけなければならない。当然、畑のものを取ってということは危険ですから、そういうことを徹底していただくと。

早く汚染されていない場所に移動するということになると思いますので、市全体の取組ということになってくるとと思いますので、そうならないように、あるいはなつたときに、最善のことができるように、お願いしたい。

ここで福島原発事故のことで、時間経過を言っていきます。

2011年3月11日、東日本大震災発生。2011年3月11日午後2時46分。そして、午後4時45分に、原発から緊急事態通報が、自治体、政府に届きます。そして、午後7時になって、総理大臣が緊急事態宣言を発します。翌日の12日、午後3時36分に、1号機、水素爆発を起こします。

これは、事故の予想シナリオどおりですね。時間の経過はともかく、予想の経緯を完璧に再現して、事故が起きました。

つまり、原子力事故というのは、物理現象ですから、全く予想どおりに起こるということを確認しておいてください。

ですから、被曝させずに済んだものを被曝させたということが、ここでの問題点ですね。住民を被曝させたのは、人災だったということになります。

ブルームが舞う中、20キロメートル圏内の住民避難指示をしたのが、3時に爆発して6時25分に、その中を避難させたということで、そのことによっても、さらに被曝を広げたということが、後になって確認されました。

追加質問をします。

加圧水型の伊方原発事故は、沸騰水型の福島原発よりも、事象ははるかに早く進行します。沸騰しないほど高圧で、閉じ込めて加熱していますから、もし小さな穴でも空いても、しゅつといきなり噴き出して、どうにもならなくなる。

防ぐ装置は、たしかに配備されていると思いますが、もしそうなつたときには、早いという

ことで、ずっと国が県の指示を受けて、指示を受けてと言っていますが、私がここで、今回提案したのは、指示を受ける前に、市としての準備を始めておいてくださいという、こういう意味で今回取り上げました。

国や県の指示の前に、次のステージになったときに、すぐに行動が始められるように、準備をしてください、よろしいでしょうか。お聞きします。

○議長（寺田公一君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

伊方原発については、加圧水型、それから福島は沸騰水型ということで、事前に宿毛市として、対応を図っておくべきではないかという御質問だったと思いますけれども。

先ほどの答弁にもありましたように、宿毛市においては、50キロメートル以上離れておる区域であるということから、現段階においては、宿毛市独自の対策については、難しいというか、国が指示を出すということでございますので、そちらのほうを尊重といいますか、指示に沿った形で、いずれにしましても、国からの指示があった際には、迅速にしかるべき対応を講じてまいりたい、このように考えている次第でございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） とにかく住民の命を守る観点に立って、当然、国の指示は待たなければならないと思いますけれども、すぐにとにかく、タイムラグがないように、すぐに動ける準備というのは、必要かと思うということで、想定もしておいてください。

次、この項の最後になりますが、核による破壊的な結末を避けるために、という質問です。

核兵器の使用や、テロなどが原因の原発事故

も含めて、核による破壊的結末は絶対に避けなければいけません。そうならないよう、私たちに何ができるのか、市長の考えをお聞かせください。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） 今城議員の一般質問にお答えをさせていただきます。

核兵器の使用につきましては、本市は、議員も御存じのとおりでございますが、核兵器の廃絶、平和宣言を呼びかけるため、平成25年から非核平和都市宣言を行った自治体で組織されております、日本非核宣言自治体協議会に加盟をしているところでございます。

また、議員提案によりまして、昭和60年7月でございますが、こちらに制定されました宿毛市平和都市宣言におきまして、世界の恒久平和を実現することは、人類共通の願いでありまして、宿毛市は核兵器をつくらず、持たず、持ち込ませぬの非核三原則を、将来ともに厳守すること。そして、核兵器禁止のため、本市を非核都市として、広く呼びかけていくこととしておりまして、引き続き、宣言の趣旨や目的を十分に尊重してまいりたいというふうに考えているところでございます。

次に、原子力発電所の事故についてでございますが、まず、原子力発電所に対しましては、私自身も、これまでも一貫して言い続けているところでございますが、一日も早い原子力発電に依存をしない社会の実現を目指していくべきだと考えているところでございます。

原子力発電所の稼働は、国の原子力政策の中で、原子力規制委員会において、安全対策の審査を行い、適合審査の結果、妥当であると判断されたものであり、現時点で国の方針に異を唱えるものではございません。そういう考えはありませんが、引き続き、安全管理、安全対策の徹底に努めていただきたいと思いますところ

でございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） そのとおりだと思います。

私の最近、ここに希望の光というのが、市民社会が核兵器の非人道性を訴え、それが後押しになって、核兵器禁止条約が国連で成立したと。これはすごいことだと思います。これが希望でもあります。

この21日から始まる第1回締約国会議では、核被害者の救済が主なテーマになり、ビキノ被災者救済も含めて論議されることになっています。

それは、核保有国や核の傘のもとにある日本政府にも影響を与えるでしょう。被災者救済や、核兵器廃絶の力にもなっていくと思います。

そして、恐らく私たちが次に目を向けるべきところということで、ウランの採掘とか、その労働の非人道性、原子力廃棄物、そして原発事故処理の問題にも向き合うことになっていくと思います。

普通の人々が人道、こういうことは人間の社会としてあってはならないという、それを求める具体的な行動が束になれば、その行動によって、社会が、あるいは歴史が進んできたということだと思います。

市民のそのような行動が車輪の動きとするならば、ぜひ市役所には、その車軸となるような、ハブとなるような役割を担う市役所になっていただきたい。

それが、非核平和都市として、市が行ってってもらって役割になるかもしれませんが、ぜひ非核平和都市として、宿毛市の力を発揮していただきたいと思うのです。

さらに、前に向けて。全国の会議にも出てくれています。今度は市民の中にも返していく

ような営みをしていただきたいと思います。市長、追加質問として、そのあたりがあれば、答えられればお願いします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

そういった宣言都市であるということは、市民の皆さんに知っていただかなければなりませんし、また、子供たちの修学旅行等で、そういった平和学習も行っているところでございます。

また、それ以外の多くの市民の方々にも、できる限り、そういったことを目にして考えていただける、そういった場の提供に努めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） いろいろな取組があると思います。

例えば、さっき言った、ヨウ素剤が間に合わない場合、被曝したらどうなるかというとき、家庭でできることということ学んでみるということも、事故が起ころうが起こるまいが、大事なことかと考えますので、そんなことも一つになろうかと思っておりますので、よろしく願います。

時間が押していますが、次の内容にいきたいと思います。

戦争遺跡の保存と活用について。

濱田知事が今年2月の県議会において、県内97か所の戦争遺跡が存在しており、30か所において、市町村と保存の在り方を協議する予定であり、こうした戦争遺跡を活用し、平和の重要性を後世に伝えていくと述べています。

戦争遺跡の保存の在り方について、伺います。

県がピックアップした30の遺跡のうち、宿毛市及び近隣市町村に該当する戦争遺跡を教え

てください。

○議長（寺田公一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長兼宿毛文教センター所長（中平成也君） 生涯学習課長、お答えいたします。

高知県文化財課により作成されました30か所のリストを見ますと、宿毛市では宇須々木の基地跡と、母島と鵜来島を含む沖の島の基地跡の計2件となっております。

また、近隣では、土佐清水市の震洋特攻艇格納壕と、松尾地区女城鼻に所在する監視哨及び足摺岬天狗山周辺の軍事施設群の3件と聞いております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） それでは、本市の戦争遺跡について、県との協議内容について、お聞かせください。

もし、まだしてないのなら、どういうことが話し合われるのか、わかっているならば教えてください。お願いします。

○議長（寺田公一君） 教育長。

○教育長（鎌田勇人君） 昨日の松浦議員への答弁にも関連いたしますが、協議は県の調査が済んでからになります。

今後、全県下的な保存に関する協議に加わりながら、市としての考え方を煮詰めてまいりたいと、このように考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 問題の主になっていくのが、土地の保有とか、そういう線になるかと思いますが、もし市の指針とか、考えていることとかがありましたら、言えることがありましたら、教えてください。

土地の保有とか、戦争遺跡の保存の在り方、市としての考えがありましたら教えてください。

○議長（寺田公一君） 教育長。

○教育長（鎌田勇人君） お答えいたします。

先ほども申しましたように、県の動向を鑑みながら、市としての方向性を取っていきたいというふうに思います。

議員の質問に直接お答えすることは、現在ではできません。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） それでは、次の戦争遺跡の活用について、伺います。

現時点で、宿毛市として戦争遺跡の活用をどのようにすればよいと考えているか、お聞かせください。

○議長（寺田公一君） 教育長。

○教育長（鎌田勇人君） 現状といたしまして、宇須々木の基地跡に関しましては、公民館と対岸の宿毛新港の公園に解説板を設置して、来場者の利便性の向上を図っているところでございます。

加えまして、今年3月、鵜来島定期船乗り場の待合所に、砲台跡の解説板をルートマップと共に掲示をいたしました。

また、目印として、砲台跡までの登山道に、ピンクのテープを山頂まで、木々につけました。

なお、解説板の内容は、宿毛歴史館のホームページにも公開しております。

また、学校現場での戦争遺跡や、当時の資料を活用した平和学習は、大変重要と考えております。私が現場におりました際、咸陽小学校では、宇須々木の基地跡で地区の方からお話をお伺いする形で、現地学習を行ってまいりました。

今後もこういった活動を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 戦争遺跡というのは、実際行ってみると、戦争とリアルに向き合う空

間がありますね。当時、どうだったろうというのが肌で感じるという。

戦争遺跡は、戦争とリアルに向き合うことで、平和な社会を構築するための重要な学びとなる、これはもう実感しています。

高校では、地域探求の学習の時間が始まりました。

小中学校の歴史や、総合学習のフィールドとしても、推奨すべき場所だと思っていますので、また、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、遺跡活用のためにアクセスルートの揭示、これはさっき言うてくれました。

あと、問題になるのが、ルートの維持管理などが大変です。それから、調査研究と資料の展示、ガイド人材、こういったものを充実させる必要があると思いますが、計画をお聞きしたいと思います。

○議長（寺田公一君） 教育長。

○教育長（鎌田勇人君） 鵜来島の遺跡につきましては、実際に訪れた感覚として、その経年劣化も踏まえますと、手軽に安全に、遺跡を周遊できるような状態にするまでには、今後、多くのハードルがあるとも感じました。

現在、鵜来島戦争遺跡の保存を進める会などのボランティアの方々熱心な御活動もごさいますが、維持管理につきましては、ほかの史跡同様、所有者をはじめ、地元の皆様に主体性を委ねる部分が多くなるのではないかと考えております。

続きまして、ガイド人材の充実ですが、昨年度実施しました奥谷画伯のふるさと宿毛を紹介するバスツアーの折、宿毛観光市民ガイドの会の皆様に、宇須々木の基地跡のガイドをしていただきました。

現在も、その内容充実に向けて、精力的に取り組んでおられるように伺っているところでございます。

最後に、戦時中の資料収集としましては、先日、市民から片島に伝わった昭和10年前後と思われる戦闘機のプロペラを御寄贈いただきました。

詳細を調査の上、今年の終戦の日前後には、展示したいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 再質問します。

アクセスルートの維持の件、鵜来島についていえば、イメージしやすいと思いますが、山に上がるルート、管理には年3回ぐらいボランティアが草刈りをして維持されているということですが、当然、お分かりのように、地域だけに任せるのは負担が大きい、ということであれば、市の援助が必要ではないかということですが、その辺は何らかの援助ですよね。それができないかどうか、この場でお聞きします。

○議長（寺田公一君） 教育長。

○教育長（鎌田勇人君） お答えいたします。

先ほども申しましたように、所有者をはじめ、地元の皆様に、主体性を委ねるといふところが基本になるかというふうに思っております。

今後、市としても、検討の余地はあるとは思いますが、今後、先ほども言いましたように、地元の方々と協議をする中で、方向性を考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） あの道の管理を何とかしてほしいというのは、地元の声でも、実はあるわけですね。

ですから、何が枠組みとしては、地元主体である。これは当然なんです、制度として。けれども、行政は住民の負担や困難を取り除くとか、住民、市民の幸せに向けて、全力を尽くす、こ

れが原則だろうと思います。

とすれば、何らかの手助けはできるはずですので、また、教育長と行ってもらって、また戦争遺跡に行ってもらう機会があると思いますから、そのあたりも含めて、少しずつ検討を進めていってほしいと思います。

本市の戦争遺跡は、全国からも注目されています。市外、県外からも、だんだんに訪れ始めたという情報を聞いています。

それから、土佐清水の戦争遺跡と関係も視野に入れて、ぜひこれから保存活用を進めていってもらえれば、幡多地域の戦争を学ぶ場としての幅が広がっていくんじゃないかと思いますので、ぜひ情報交換しながら、取り組んでいってもらえればと思います。よろしくお願ひします。

戦争遺跡については、この辺で終わりたいと思います。

最後の項目に移っていきます。

高台移転に伴い、市にどのような要望や相談、苦情などが寄せられているのか、そして、それらについて、どう対応したのかを分かる範囲でというか、構わない範囲でお聞かせください。

よろしくお願ひします。

○議長（寺田公一君） 総務課長。

○総務課長（桑原 一君） 総務課長、今城議員の御質問にお答えいたします。

新庁舎へ移転してから1カ月以上が経過しました。その間に寄せられた御意見の多いものとしたしましては、市外の方を中心に、新庁舎の場所がわかりにくいといったことがございました。

この点につきましては、上り口付近に仮設の案内看板を設置するとともに、道路管理者である高知県に案内看板の設置をお願いしているところでもあります。

また、高台の上り道で、市役所が案内看板を設置するなどの対策を講じてまいりました。

そのほか、昨日の高倉議員の御質問にもお答えしましたけれども、様々な御意見をいただいておりますが、できるだけ速やかに対応できるように、取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 私も5月になって、いろいろ相談が入っています。

私のところに話が来たのは、交通手段を持っていない高齢者からの相談が多かったです。

その中で、大体、共通の点もありますので、3つ紹介します。

高台の上り口に自転車駐車場がないので困っています。なぜかという、とてもこの坂は自転車で、高齢者には上れない。そして、どうしても上について上がるようになって、上からついて下りることになる。

下りるときの方が、怖いんですという話を聞きながら、そうだろうなと思いながら、私もこの議会の前後に行き来しますから、やっぱり何人か見ます。

何人か、高齢者がついて上がっている姿を見ます。下に駐輪場がつかれないかという。

それから、2つ目は、生活保護対象者からでした。

月に1度は市役所に来ていますが、徒歩で、行き来は半日かかり、体もきつくて困っています、という話なんです。大変だなと。

確かにタクシーを使えばという話も、こちらがしてみました、とてもそれはということでした。

それから、3つ目、はなちゃんバスルートに住んでいない高齢者には、ますます不便になりました。何とかしてくれませんかという、こんな話です。

以上の3点に対して、市の回答をお聞かせください。

○議長（寺田公一君） 総務課長。

○総務課長（桑原 一君） 総務課長、今城議員の御質問にお答えいたします。

先ほどの御質問でも答弁したとおり、新庁舎移転後、様々な御意見をいただく機会がございます。

こういった御意見は、市役所の移転に伴って気づいたことも多くありました。

御質問にありますように、お困りの方に関する改善策としまして、生活保護受給者の方が庁舎まで来なくてよい方法は何なのか、それがどう取れるのか。また、税金等の支払いを最寄りのコンビニ等でお支払いいただくためには、どういった啓発が必要なのか。新庁舎に自転車を御利用されて来られる方への、上り坂への配慮をどうすればよいのかなど、市としても寄せられた御意見はもとより、この庁舎移転を契機に、市民の皆様の利便性をより向上するよう、取組を進めていくことが重要であると考えておりますので、様々な御意見に耳を傾け、相談者に寄り添い、その対策に取り組んでまいります。

また、旧庁舎におきましては、現在、改修の準備を進めており、今年の秋頃をめどに、支所やあったかふれあいセンターを整備し、市民の方々の利便性を向上させると共に、にぎわいをもたらせるように取り組んでまいります。

なお、自転車の御利用の皆様には、電動アシスト付自転車の購入に対する支援を行っておりますので、可能であれば、その支援を御利用いただき、御購入も検討いただければというふうに思っております。

以上です。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 相談を受けて、結構長い間、話を電話ですから聞いていますので、訴えてくることは、いろいろ聞いてみると、その人の困難の一部であると。今、現象に表れた困

ったことを報告したけれども、その人の困っていることは、もっと深いところ、日常の置かれている状況にあったということは、感じていません。特に高齢者については。

それから、生活保護者の件についても、はなちゃんバスルートについても、少し自分も、はなちゃんバスについては、本当に使えないものかという、時間を見ると、一番初めに8時半ぐらいにここに着くんでしょうか。

末端からというか、例えば私の家の近くを通るのは、舟ノ川で、出たときに、8時20分ぐらいに市役所に来るように設定させている。そして、一旦ぐるっと街を回って、量販店とか、それから公民館とか、大井田病院のところを回って、また市庁舎に返ってくる、というような形がありますね。

利用者がそのことをつかんでいけば、街の人が、ここから離れた場所にいる人なら、市役所に最初来て、それから次にまた来るまでに、20分くらいあるんでしょうか。そこで手続きができる可能性もある。

それから、また折り返して帰ってくるまでに、1時間待てば次に来るということもありますので、ひょっとしたら利用することを導いてあげれば、いいかもしれない。利用した経験が少なく、それが大変なことになったと感じている可能性もあるのかなという、そういう感じです。

ですから、それは私が考えた一つの解決策。

通帳とかの話もありましたね。通帳をつくらいいよ。つくるところまで導けるか、それが無理なら、バスがどうか。

つまり、今言いたいのは、その人の困難がどこにあるのか。窓口の相談で、職員さんがつなげていくと、地域にも地域のつなげる役割の担当、民生委員もいます。

相談が、その人の本当に必要なところに届いていくシステムを、市庁舎が作っていくという

ことではないかと考えます。ぜひ、あらゆる手段で、その人のケアにつなげられるという一つの相談が、本当の問題に解決をすることができる可能性がありますので、ぜひお願いしたいと思います。

次に、保育園の問題を聞きます。保育園の貯水池側のフェンスが低く、心配であるという面です。

子供が高台斜面から落ちることがないように、落ちる事故が起こらないよう、安全対策をしてほしいということが、直接ではありませんが、数人の保護者の意見を伝えてくれということで、私のところに入ってきました。

これについての対応をお尋ねします。お願いします。

○議長（寺田公一君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（朝比奈淳司君） 福祉事務所長、今城議員の一般質問にお答えいたします。

きぼうが丘保育園のフェンスの高さは120センチメートルですが、基礎部分を含めると、130から150センチメートルほどになります。

2歳から5歳児クラスは、広い北園庭を使用しており、南園庭には主に自力でフェンスを越えることは難しいゼロ歳から1歳児クラスが使用するなど、工夫をしながら保育を行っています。

幼児期になると、身体機能が発達し、様々な動きができるようになってきますので、フェンスを越えることだけでなく、その他の事故も起こさないために、日頃から職員間の連携を密にして、子供たちの見守りに空白時間が生じないように、引き続き取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） 追加質問いたします。

ということは、保育園としても、危険性は感

じているということで、対応したんだろうと思いますが、今後、保育士、保護者と協議する予定はありますでしょうか。いかがでしょうか、ありましたらお願いします。

○議長（寺田公一君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（朝比奈淳司君） 福祉事務所長、再質問にお答えいたします。

今後、保育士、それから保護者との協議のございですが、現場のほうにも話もしておりますけれども、現場のほうからは、私どものところに、そういった要望ないし対応を求める声は上がっていませんので、現場のほうに、もし声がありましたら、今後、いろいろと協議はしていきたいとは考えておりますけれども、現在のところは、予定はしてありません。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） さっき言ったことと共通の話になりますが、現場から声があったら、そこで対応しますとか、国から指示があったら動くが、そこまでは動けませんとか、こんな話が続きましたよね。

そういうことなんです、ここで市長に聞きます。もし困ったことがあったら、市民は、どんなことでも市役所に電話をしてよいでしょうか。これが困っていますと。どんなことでもいいから、市に連絡してということで構いませんか。

よろしくをお願いします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

一度電話していただくことは、いたって構いません。ぜひ電話をしてください。

それで、内容を聞かせていただいて、その後の対応を考えていきますので、皆さんが全て納得できるようなことになるかどうかというのは、

ケースバイケースだとは思いますが、まずは電話をいただいて構いません。

以上です。

○議長（寺田公一君） 1番今城 隆君。

○1番（今城 隆君） ありがとうございます。ここがスタートになると思います。

とにかく、市の姿勢として、困ったことがあったら、何でも電話してということが、どうキャッチできるかということが、今後の、その後の行政の好循環につながるんだと思います。

そこで、いろんなことがあります。その担当は県なので、うちでは無理ですとかということで、もし切られてしまうと、やっぱり市が拒絶したように感じてしまうんですね。

そこで、私が受けたのが、それはそうやろねっていうことでやったことが、何があったかという、介護関係のことで、市に行ったけれども、受け付けてくれなかったけど、どうしてながやろと。宿毛市って、こんながやろうかって、こんな話があつて。

会って、じゃあまあ、社協に相談してみたらあっていって、ありがとうございました、サービスにつながりましたという話がありましてね。

これは、市としてはもったいなかったなと思うんです。本当にもったいなかった。

市は、そこで社協につないで、社協が動いてケアにつながるとしたら、それは市は感謝されると思うのです。

こういうことで、もし何でもあったら市役所に連絡をして、市役所がうまくシステムをつなぐということは、そこで自分たちの本当の業務が奪われてしまって、進まなくなつては困るんで、そういうことの展開をうまくしていくということが大事かと思うんです。

実は、連休にボストン市役所という、話題になった映画がありました。県立美術館に行けませんでしたので、これちょっと、今回、たまた

まユーチューブから出てきたんですね。ネットで500円じゃなくて、400円ぐらいで見れるようになっていきます。4時間半の映画で、ドキュメンタリー。

これで、今言ったようなことは、かなりできています。

市民が血の通った行政、宿毛市行政と思えるようにしてくださいということです。

次の問いを投げかけておきます。

市民の困難の原因を聞き取ってもらえますかということです。人々が幸せに暮らすために、なぜ行政が必要なのですか。

似たようで違いますが、次。

私たちの生活に密接に関わる市役所の役割とは何ですか。市役所は社会の不平等を解決してくれますか。職員皆の専門性は、市民に与えられていますか。

我々の仕事は、宿毛市民を助けることだと、胸を張って言えますか。

これが、ボストン市役所にずっと投げかけられている、職員たちのテーマとして取り組んでいることでした。

ネズミが出たからきてつと言ったら、行って、そのケアは何だったかという、退役軍人のケアになっていた、このようなことがあります。

人々が幸せに暮らせるまちづくりのために、それこそ、ようこそ宿毛市役所へと言えるように頑張っていたきたいと思います。

人々が幸せに暮らせるまちづくりのために、ようこそ宿毛市役所へと言えるような宿毛市役所にしていただきたいと思います。

以上で私の一般質問は終わります。

○議長（寺田公一君） この際、10分間休憩いたします。

午前11時18分 休憩

-----・-----・-----

午前11時29分 再開

○副議長（高倉真弓君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） 皆さん、こんにちは。10番、通告に従いまして、一般質問をいたします。

まずは、移住対策についてでございます。

昨日、三木議員も移住については一般質問をいたしましたけれども、私の質問は若干、内容が違いますので、私のほうは独自で移住対策について質問させていただきたいと思っております。

この2年間、コロナの中、関東圏や関西圏などの移住フェスなども中止になったことが多かったかと思っております。

その中で、移住に関しては、大変厳しい状況だったとは思っております。その中で、どのような移住対策をしてきたのか、お伺いをいたしたいと思っております。

○副議長（高倉真弓君） 企画課長。

○企画課長（上村秀生君） 企画課長、岡崎議員の一般質問にお答えいたします。

コロナ禍での移住促進の取組についてでございますが、東京や大阪など、都市部の会場で移住相談等を行う移住フェアにつきましては、本市も毎年参加し、PRしているところでございます。

令和3年度の移住フェアにつきましては、夏の開催はコロナ禍のため、オンラインでの実施となりましたが、冬の移住フェアは、東京会場、大阪会場共にリアル開催することができ、移住を検討している方に、直接、本市をPRすることができました。

移住フェア以外でも、宿毛市での暮らしを感じていただくための新たな移住促進PR動画の作成や、幡多6市町村が各地から中継をつないで、自治体の魅力を紹介するオンライン移住ツアーの開催、ズームを使用し、お互いの顔を見

ながらも、非接触で移住相談ができるオンライン相談窓口の開設など、コロナ禍の状況に対応しながら、移住施策を進めているところでございます。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） 御答弁ありがとうございます。

このコロナ禍で大変な中、いろいろな移住対策をされているということでございますので、大変よくわかりました。

昨日の三木議員の答弁の中で、令和元年度の移住者数が128名と、過去最大であったというふうにお聞きをいたしましたけれども、令和2年度もしくは令和3年度の移住者数が把握できていれば、お伺いをいたしたいと思っております。

○副議長（高倉真弓君） 企画課長。

○企画課長（上村秀生君） 企画課長、岡崎議員の一般質問にお答えいたします。

令和2年度に県外から移住された方は、95名となっております、令和3年度におきましては、55名となっております。

令和3年度につきましては、令和2年度と比べ、移住者数は減少しておりますが、移住者相談件数は1.5倍以上に増加しているほか、令和3年度の冬以降、お試し住宅の利用率も増加しておりまして、移住検討層が実際の移住に向けて動き始めている傾向がございます。

引き続き、移住フェアでのPRや、各種情報発信を強化しつつ、移住につながる取組を実施してまいります。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） 御答弁ありがとうございます。

もう少し移住者の数が、コロナの中、減っているのかなと思っておりましてけれども、担当

課の努力のおかげで、そんなには減ってないことがわかりましたので、今後、コロナが明けた後、努力をしていただいて、移住者を呼び込むように、いろいろと努力をしていただきたい、このように思っています。

次に、移住者に向けて様々な補助金を用意しているとは思いますが、その中で、若干紹介させていただきますと、宿毛市子育て世帯移住支援事業補助金、宿毛市結婚新生活支援事業費補助金、宿毛東団地住宅支援事業費補助金、宿毛市空き家活用事業費補助金、宿毛市U I ターン希望者住宅改修事業費補助金など、まだまだいろいろとあるとは思いますが、先ほど挙げた5つの補助事業の実施状況について、お伺いをいたしたいと思います。

○副議長（高倉真弓君） 企画課長。

○企画課長（上村秀生君） 企画課長、岡崎議員の一般質問にお答えいたします。

移住者向け補助金の昨年度の実績について、お答えいたします。

ただいま御紹介いただいた補助金のうち、宿毛市結婚新生活支援事業費補助金は、令和3年度に新設したものでございますが、3件、45万6,000円の実績となっております。

また、宿毛東団地住宅支援事業費補助金につきましては1件、150万円の実績となっております。

宿毛市子育て世帯移住支援事業補助金、宿毛市空き家活用事業費補助金、宿毛市U I ターン希望者住宅改修事業費補助金につきましては、令和3年度の活用実績はございませんでした。

これらの補助金は、補助対象となる移住者にとっては有益な制度となっておりますので、今後におきましても、SNS等を活用した情報発信の強化や、移住者と接点を持つことも多い不動産業者などの協力もいただきながら、新婚世帯や子育て世帯、住宅の購入を検討されている

方へ、PRを強化してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） 先ほど、課長よりいろいろとPRをしていくということでございますので、せっかくの補助金でございますので、県外から引っ越しされてくる方がわかるようなシステムを、ぜひ構築をしていただいて、お願いをいたしたいと思います。

次の質問に移ります。

次に、荒瀬山森林公園の整備について、お伺いをいたしたいと思います。

これは、昨年3月議会も質問をいたしました、その後の取組状況について、お伺いをしたいと思います。

令和4年度の行政方針の表明の中で、荒瀬山森林公園の一部を多くの市民の方々に活用いただけるよう、令和3年度には宿毛小学校の5年生に、荒瀬山の整備について様々な提案をいただきました。

令和4年度には、これが形にできるようにしていくと共に、引き続き連携を図り、整備に向けた取組を行っていく予定ですとのことですが、令和4年度は、宿毛小学校5年生が提案した内容を踏まえて、どのような形で荒瀬山の整備をしていくのか、お伺いをいたしたいと思います。

○副議長（高倉真弓君） 産業振興課長。

○産業振興課長（岩本敬二君） 産業振興課長、岡崎議員の一般質問にお答えいたします。

荒瀬山森林公園の整備につきましては、昨年度、宿毛小学校5年生に様々な提案をしていただきました。

その中で、今年度は街が見渡せる箇所にウッドデッキの設置を予定しております。

また、案内看板や注意喚起の看板、ベンチの

設置を計画しており、製作につきましては、現在、宿毛工業高校と協議を進めておるところであります。

生徒と児童が具体的にどういった形で関わり、協働してつくり上げていけるのか、調整を図っていく予定であります。

さらに、小学生からは、様々な提案をいただいております。その中には、ハリウツドの看板のようなものをつくってはどうか、などのユニークなアイデアをいただいておりますので、今後は魅力向上のために、どういったことができるのか、計画性を持って、具体的に検討を行っていきたくて考えております。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） ぜひに、早目に事業を実施していただきたいと思っております。相手方があることですから、なかなか難しいところはあるかと思っておりますけれども、よろしく願いをいたします。

次に、令和4年度についても、引き続き宿毛小学校5年生に荒瀬山の整備について、提案をしてもらう機会を設けていく予定はあるのかどうか、お伺いをいたしたいと思っております。

○副議長（高倉真弓君） 産業振興課長。

○産業振興課長（岩本敬二君） 産業振興課長、岡崎議員の再質問にお答えいたします。

昨年度、宿毛小学校5年生には、総合的な学習の時間という授業の中で、1年間を通じて荒瀬山の整備についての事業を実施していただき、その中で企画、提案、市長への報告などを受け、令和4年度の当初予算に提案し、議決いただいたところでもあります。

今年度についても、宿毛の街の魅力を発信しようというテーマで事業を実施するとのことであり、その中で、児童たちから荒瀬山公園の整備についても話が出ているとお聞きしております。

す。

まずは、昨年度、御提案いただいたことを形にすることをメインにしたいと考えておりますが、宿毛小学校と連携を図る中で、児童の自由な発想と自主性を尊重し、柔軟に対応していきたくて考えております。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） ありがとうございます。

次の質問に移ります。

行政方針のほうに戻りますが、令和3年度10月21日には、早稲田大学と荒瀬山生活環境保全林を、早稲田の森という名称で、持続可能な森林保全活動などに取り組むことを目的とした覚書も締結いたしました。

令和4年度は、宿毛小学校の児童や早稲田大学との連携を図る中で、荒瀬山森林公園の整備や、その立地を生かした森林保全環境、環境教育などの取組を進めてまいりたいと考えているとのことでございます。

できれば、早稲田の森という名称をつけたのでございますので、早稲田大学の学生になるのか、また教授、先生方になるのかわかりませんが、宿毛小学校、もしくは宿毛市内の小学校の児童と共に、早稲田の森を活用する中で、何か連携ができればいいなと思っておりますけれども、お考えのほうをお伺いいたしたいと思っております。

○副議長（高倉真弓君） 産業振興課長。

○産業振興課長（岩本敬二君） 産業振興課長、岡崎議員の一般質問にお答えいたします。

森林保全活動として、子供たちと学生が共に学ぶ機会も創出していただければと考えており、ぜひ早稲田大学の学生に、本市にお越しいたいただき、早稲田の森で植樹や植栽、清掃活動を通じた森林学習や交流を図っていただきたいと考えております。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、今年度についても、直接お越しいただくことが難しいようであれば、まずはオンライン会議など、何らかの形で早稲田大学の学生との交流学习から始められたらと考えております。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） 今の件で再質問をします。

オンラインで学習する場合には、現在の宿毛小学校の6年生を対象にするのか、もしくは新たな小学校5年生を対象にするのか、その点について、どのように考えているのか、少しお伺いをいたしたいと思います。

○副議長（高倉真弓君） 産業振興課長。

○産業振興課長（岩本敬二君） 産業振興課長、岡崎議員の再質問にお答えいたします。

現在のところ、まだ早稲田大学と具体的に話が進んでおりませんので、宿毛小学校とも具体的な話し合いは、まだできておりません。

先ほども申しましたけれども、小学校5年生については、荒瀬山公園に興味を持っていただいているということをお聞きしておりますけれども、今年度も昨年の5年生のように、1年間をかけて、荒瀬山公園の整備について、学習をしていただくことは、まだ確定ではありませんので、そのあたりは、宿毛小学校のほうと協議する中で、考えていきたいと考えております。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） ありがとうございます。

最後に、宿毛市民の皆様に、荒瀬山森林公園の維持管理等で、ボランティアで御協力していただいている方がいらっしゃると思いますが、さらに市民と連携できるものを、市として何か考えていることはないのか、お伺いをいたした

いと思います。

○副議長（高倉真弓君） 市長。

○市長（中平富宏君） 岡崎議員の一般質問にお答えをさせていただきます。

実際に、既に地元を中心とした市民の方々による清掃や草刈り、そして花の植栽、地元建設業者による側溝の清掃など、様々な方に様々なボランティア活動をしていただいているところでございまして、大変感謝をしているところでございます。

宿毛小学校の児童の提案の中にも、自分たちが市民に呼びかけを行い、花の植栽や清掃活動、そして公園を活用したイベントの実施などもございました。

まだまだ整備途中の公園ではありますが、市民の皆様のお協力も引き続きいただきながら、ますます皆様に親しまれる、そういった公園を目指していきたいと考えているところでございます。

やはり宿毛の山、川、海、そして町並みが一望できる絶景の場所でございますので、四季折々、本当にきれいな景色、情景が見えるところでございます。

私もたまに登らせていただいておりますが、本当に素晴らしいところでございますので、ぜひこれからも、市民の皆さんに親しまれるといった場所に、本当にいろんな形で力をいただいております市民の方々、ボランティアという形で、これからはしっかりと整備、手がけてまいりたいと思っております。

そして、先ほど来の早稲田大学との関係ですが、早稲田大学のほうにも、ぜひ学生の皆さんにこちらに来ていただけるように、早稲田大学を訪問して、私自身お願ひもさせていただいているところでございまして、また子供たちとの調整、学校側との調整がありますが、市内の子供たちとのオンラインの交流であるとか、そう

いったものを進めていきたいというふうに思っている中でございます。

先日、実は東京へ上京した際に、偶然、近くに座っていたある町の首長の方から声をかけていただいて、以前、荒瀬山に行ったことがある。自分たちは整備をしたことがあるんだという方に、偶然知り合うことができました。

その方は、早稲田大学のOBの方でして、昭和50年頃に宿毛市にいられて、そういったことをされたということですので、その頃されたグループ、いまだにおつき合いもあるというふうに、グループというか生徒間のつき合いがあるというふうに聞いていますので、そういった形の中で、いろんなところに声をかけさせていただきながら、活動を広げていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） どうもありがとうございます。

次に、事前復興まちづくり計画について、お伺いをいたしたいと思えます。

この計画自体は、まだまだ新たにできたばかりでございますので、これの内容について、どの程度、答弁ができるかどうかというのが分からないところではございますが、分かる範囲で答弁をしていただければ幸いかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

南海トラフ地震が起きた際に、復興を速やかに進めるための事前復興まちづくり計画の策定指針が、令和4年3月に策定をされました。

それを受けて、津波被害が想定される沿岸19市町村で計画の素案をつくり、あらかじめ住民合意を図っておくことで、復興期間の短縮を目指すとしています。

内容としては、まちづくり計画の具体化には住民合意が欠かせず、まずは市町村が復興の基

本方針を決めて計画のたたき台を作成し、それをもとに住民との勉強会を重ねて、意見を反映していく。

被災後は、一つの計画案で合意を求めるのではなく、状況によっては見直しをする。復興のパターンとしては、市街地や集落の現地再建、高台移転、かさ上げなどを、地形に応じて提示。学校、住宅は浸水しないエリアへの配置を基本とし、農業や漁業などの仕事場との分離も視野に入れる必要がある。

また、復興へのタイムラインを示し、被災後6カ月を復興期、それから4年後までを集中復興期、さらには8年後までは復興・創生期間に位置づけ、それに沿って仮設住宅や仮設テントを建設、災害公営住宅の整備、生活の再建など、取り組むべき事業を示しております。

それでは、市町村における事前復興まちづくり計画策定の進め方に沿って、質問をいたしたいと思えます。

まずは、ステップ1として、行政内部の検討。事前復興まちづくり計画は、地域住民等の参画を得て、計画づくりに取り組むことを念頭に置く必要があります。

そのためには、まず行政内部で復興の基本となる事項について、考え方を整理しておく必要があります。

復興組織等の検討や、地域住民等に提示する計画のたたき台を作成する。

行政内部の検討としては、復興基本方針（案）の作成、地区の事例復興まちづくり計画（たたき台）の作成と記載をされております。

復興基本方針（案）の作成、並びに地区の事前復興まちづくり計画（たたき台）の作成について、構成するメンバーについてお伺いをいたしたいと思えます。

○副議長（高倉真弓君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、

岡崎議員の一般質問にお答えいたします。

事前復興まちづくり計画策定に向けた今年度の取組としましては、今年3月に制定された県の指針を踏まえまして、今年度開催される勉強会や、昨年度協定を締結しましたUR都市機構からの助言、さらには東北地方の復興視察などを通じて、庁内の体制や計画の範囲、それから必要な期間などのアウトラインを固めていきたい、そのように考えております。

そのため、復興基本方針（案）や、事前復興まちづくり計画のたたき台を検討する構成員は、まだ決まっておりませんが、事前復興まちづくり計画においては、防災だけではなく、住まいや生業、それから文化、教育、医療、福祉など、地域に住み続けることを可能にする生活基盤についても、検討が不可欠であることから、庁内におきましては、市民生活に関係する多くの部門が参加する必要があるというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） 構成メンバーについては、多くの課が一つになって、そのたたき台を作っていくということで、了承いたしました。

次に、復興基本方針（案）の作成と、地区の事前復興まちづくり計画（たたき台）の作成について、いつまでに作成する予定なのか、今、現状でお答えできる範囲でお答えしていただければと思います。

○副議長（高倉真弓君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

今年度は、県主催の勉強会や東北地方の視察、UR都市機構からの助言等を通じて、情報を集めまして、内部での基本的な方向性を決めていきたいと考えております。

具体的な作成には、令和5年度より着手して

まいりたいと考えております。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） 本年度は、勉強しながら、また現地へ赴きながら、内部で調整しながら、来年度以降から作成をするということでございますので、了承いたしました。

次に、ステップ2として、地区住民等の参画について。

事前に作成する地区のまちづくり計画は、被災想定に基づくものであり、発災時には、被災状況に応じて計画の見直しが必要となる。

計画策定は、必ずしも一つの案で合意形成を求めるものではなく、幅広い意見の反映や、被災想定に幅があることも考慮し、複数の選択肢によって繰り返し検討しておくことが、発災後によりよい復興まちづくりの合意形成を迅速に導く下地づくりとなる。

地区住民等の参画として、多様なメンバーによる検討会、住民との合意形成、事前の取組事例と記載をされております。

検討メンバーの構成、並びに住民との合意を行う場合、対象の地区の選定を何地区ぐらいに想定をしているのか、お伺いをいたしたいと思っております。

○副議長（高倉真弓君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

各地区での計画策定検討の構成メンバーにつきましても、具体的には決まっておりませんが、地区の将来にわたるまちづくりを検討する観点から、地域のまとめ役である区長や、自主防災会の会長のほか、これから地域を担う世代の参画も重要というふうに考えております。

また、地域に住み続けるためのニーズを把握するため、地域の産業、要配慮者、女性など多様な視点からの意見も必要であるというふうに

考えております。

対象地域につきましては、今後、基本方針により、明らかにしていきたいというふうに思いますけれども、県の指針においては、地域づくりにも影響をすることから、市町村全域を対象とすることが基本とされております。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） 今の説明で、大体的ところはわかりました。ありがとうございます。

次に、ステップ3として、事前移転への着手、対象とする地震、津波の考え方、災害対策の拠点となる施設等の事前移転、住宅等の事前移転と記載をされています。

宿毛市事前復興まちづくり計画を策定するに当たって、スピード感を持ってしなければならないと思いますが、いつ頃までに宿毛市事前復興まちづくり計画を策定するつもりであるのか、お伺いをいたしたいと思います。

○副議長（高倉真弓君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えさせていただきます。

事前復興まちづくりにおきましては、被災後に実施することの検討と併せまして、可能なことは、被災前に実現していくことが重要となります。

こういったことから、宿毛市役所庁舎をはじめとした公共施設の事前移転は、計画等も含めて、既に一定、進んでいるところでございます。

一方、住宅の事前移転につきましては、国の防災集団移転促進事業による支援があるものの、個人と自治体の負担が大変大きく、被災前に実施された事例は全国でもない、そういった状況であることから、今後、積極的に事前復興の計画策定に向けまして、本計画に取り組む、他の自治体とも連携をしつつ、国の支援策について、国のほうへ要望してまいりたいというふうに考

えているところでございます。

また、住宅については、本市の市街地のほとんどが津波浸水想定区域であることから、被災後に不足が想定される仮設住宅用地の確保を検討しておくことも重要となります。

こういった課題を、市民と共に共有をし、事前復興まちづくりを検討していくためにも、早期に取り組む必要があると考えているところでございます。

一方、全ての地域で計画ができる時期といたしましては、市民との合意形成に非常に時間がかかってくるというふうに考えているところでございまして、そういったことも考慮しながら、計画的に進めてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） ありがとうございます。

事前復興まちづくり計画を作っても、補助金等々がない部分があって、大変厳しいところがあるかと思えます。

まずは国のほうに、まちづくり計画を策定した後なのか、策定する前なのかわかりませんが、国のほうに要望していった、ぜひ補助金を、いろいろな形でつけていただくように、努力をしていただきたいと思います。

最後に、令和4年3月23日に、宿毛市と、先ほども課長より答弁がございましたけれども、UR都市機構が津波防災まちづくりの推進に向けた協定を締結をいたしました。締結の内容について、また宿毛市事前復興まちづくり計画を作成するに当たり、どのような連携をしているのか、お伺いをいたしたいと思います。

○副議長（高倉真弓君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

事前復興まちづくり計画策定と、そういった国に対する補助金の要望というのは、並行してまいりたいというふうを考えておきまして、もう既に、いろんな自治体に呼びかけもさせていただいているところでございます。

UR都市機構と締結をいたしました内容と、事前復興まちづくり計画を作成するに当たりまして、どのような連携かということでございます。

本協定は、津波防災まちづくりを協働して推進することを目的とするものでありまして、主な連携事項は、1つ目に事前復興まちづくり計画策定に関すること。

2つ目といたしまして、高規格道路の整備に伴う発生土を活用した高台造成に関すること。

3つ目といたしまして、津波浸水想定区域内の公共施設の高台移転後の活用に関すること。

以上3項目が、主な内容となっているところでございます。

この協定事項の1つ目にもあります事前復興まちづくり計画につきましても、和歌山県が早くから取り組まれておきまして、和歌山県下の自治体には、既に計画を策定しているといった自治体もございます。

UR都市機構は、これらの計画づくりに広く参画していることや、東日本大震災における宮城県の女川町や岩手県の陸前高田市の広大な土地のかさ上げと、土地区画整理事業を一体的にマネジメントするなど、事後の復興も支援をしているところもございます。

今後は、これらの経験を踏まえた情報や、そのノウハウの提供、技術的助言をいただけることとなっております。当面は電話やメールによるやり取りと、そして2カ月に1度のペースで、来庁していただき、職員と直接、意見交換をすることとしているところでございます。

こちらのほうも、もう動いているところでご

ざいます。

以上でございます。

○副議長（高倉真弓君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） 答弁ありがとうございます。

ぜひ、協定を締結をいたしましたので、UR都市機構と十分に密に話し合いをしながら、宿毛市事前復興まちづくり計画をつくっていただきたい、そのように思っています。

最後に一つ、御紹介をさせていただきます。

黒潮町では、6月議会で事前復興まちづくり計画策定委員会設置条例を提出しております。

事前復興計画策定では、佐賀地域の浸水域から着手していく、策定委員会の委員は、区長ら16名以内を想定して、南海トラフ地震後にどう復興するか、検討する。

最終的には、大方地域を含む町全体の計画を完成させると、新聞の記事に掲載をされました。

黒潮町では、もう既に、ここまで進んでいる状況でございます。スタート時点は、多分、宿毛市も同じだったと思いますけれども、黒潮町がこのようにスピード感を持ってやっていると、こちらもございますので、本市としても、スピード感を持って、この宿毛市事前復興まちづくり計画を策定していただきたい、そのように思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上で一般質問を終わります。

○副議長（高倉真弓君） この際、午後1時30分まで休憩いたします。

午後 0時04分 休憩

午後 1時30分 再開

○議長（寺田公一君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 今、世界中で起きているのは、新型コロナウイルスのことで様々な真実が出ております。

世界は、日本より早いので、様々な被害が起こっているのに、なぜ日本で伝わらないのか、その真実について探っていきたいと思えます。

新型コロナの真実について、質問を行ってまいります。

孤立を恐れず市民のために、市民の命を守るため、また国民のため、新型コロナの真実について調査したことを質問いたします。

私は、コロナ案件が始まって以来、多岐にわたる質問を投げかけてきました。ワクチンは健康な人がするもので、高い安全性が求められるが、特例承認ということで、有害事象があった場合、国が補償するものとして始まりましたが、多くの死者や重篤者が苦しんでいるのに、補償の認定はされていません。これは異常です。

ちょうどウイルス騒ぎが始まったころ、たまたまテレビで本庶先生、ノーベル賞受賞者ですけど、コロナRNAはウイルスでエイズと同じ、次々と変化し、ワクチンはいいものができません。インフルエンザも同じですと話されているのを見ました。

そして、京都大学を出られ、今は徳島医大の名誉教授、細胞生物学者でウイルスにぴったりの先生が、最初の中国論文を詳しく査読、解析して、学びのラウンジを開設していました。

そこで、ずっと勉強させてもらいましたので、かなり私も素人なりに学ぶことができました。国のやり方に疑問も持っています。

もう一つ、政治としている問題として、2014年8月23日の読売新聞、「大手製薬会社はワクチンに活路」、これが今日の一番の基礎となる問題提起となると思えます。

2010年問題の特許切れ、ジェネリックで

あります。新薬をカバーするものがなくて、みんなワクチンにいきました。考えますよね。病人だけにお薬を出すより、みんなにお薬を飲んでもらったほうが、もうけるに決まっています。これに気づいたことで、一斉に製薬会社はワクチンの作製に走りました。

「赤信号 みんなで渡れば怖くない」国が言ったから、上司が言ったから。言われたからではなく、人が命を考えるときには、おかしいというなら、自分で調べて頭で考えて、チェックして、市民の安全安心、また命を守ることが一番の公僕ではないかと、私は思っています。

新型コロナウイルスのことを言っていて、私がどういうふうに使われるとか、理解されるとか、されないとか、そんなことを心配する必要はありません。そんなレベルのことを心配する必要はないのはなぜか、正しいからです。

正しいことを言っていて、いつ、誰が、どう気づいてくれるか、評価してくれるかは、時がたたないとわからないこともあります。

時がたたないとわからないことを思うより、これが間違いない、真実と思ったら進むときです。

私たちが小さいころ大人が守ってくれ、気がつかない、今まで、ここまで来ることができました。もうそのかわりを、命がけで、大事な大事な子供たちにしなければならぬ、それが自分たちの死に通じます。

誰でも死ぬんだから、何をやって死ぬかです。それが生きている意味であり、価値であり、これが大事だから、ちゅうちょしないで、前に進むと考えます。

私もこの議会で不本意なことがありましたけれども、自然に分かってきましたね。

これ、新聞に出ていましたけれども、議会の外でのことを、個人の自由を個人の議員の活動を非難されました。真実はそうでないのに、と

いうのも分かる時期が分かると思って、ずっとそういうことを、自分自身に言い聞かせてきました。

このことも、信じない人は信じないかも知りません。それは個人の自由ですので。自治体は、有効性があるだろうとの見解に立って、国からの推進に応じて、自治体は進んで国の提供に基づいてきたことであろうと思います。

しかし、ワクチンは毒スパイクたんぱく質と、論文がソーク研究所から出ております。新型コロナワクチンを、少なくとも子供に打たせないでください。死亡事例も、重症化も少ない子供たちから、危険なものを遠ざけてください。お願いします。

5月7日、PMDAのサイトに、薬理試験の概要に、mRNAファイザーワクチンを基本事項に、自然免疫のセンサーによる認識が、ワクチンにより自然免疫による影響が低下することで、本薬の効果は増加する。とても重要なことですが、今、このサイトは見れなくなっています。

そしてあと一つ、ワクチンに関してのことですが、最近、5月22日に採択さなかった、WHOの強制接種です。これは各国のいろんな憲法を超えて国を超えて、上位法になりますので、もしこれが採択されたら、みんなワクチンを強制ということになりますけれども、ほとんどの国が反対をして、採択されなかったということになって、ひとつ安心をいたしております。

コロナは、最初、そもそも2019年12月20日――

(「議事進行」という声あり)

そもそも12月20日、武漢で男性が発熱して、その後、WHOがCOVID-19と名づけて、それからその後、現在に至っておりますが、この名づけるまでの間に、2019年9月18日に、武漢で世界に感染症が広がるという

シミュレーションをしています。

今と全く同じです。マスクをして飲食店の制限をして、外出制限をして、ソーシャルディスタンスをとって、換気して消毒して、というような、全く同じ状況を、国の厚労関係の人は、みんな参加して、そこでシミュレーションを行っています。

そして、その1カ月後、2019年10月18日に、これは2020年に起こすよという話で、みんながその認識を持って、この感染症を迎えました。

質問します。

新型コロナウイルスは、証明されていますでしょうか。教えてください。

○議長(寺田公一君) 健康推進課長。

○健康推進課長(松田まなみ君) 健康推進課長、川田議員の一般質問にお答えいたします。

新型コロナウイルスが証明されているかについてということですが、新型コロナウイルスと、何についての証明というところが、質問では分かりづらかったですけれども、本市としてお答えできる内容のものではございません。新型コロナウイルスの証明についてという内容のものが、本市としてお答えできるものではないのかなと考えますが、新型コロナウイルス感染症の法的な位置づけについて、答弁させていただきます。

日本では、新型コロナウイルス感染症は、令和2年2月1日に感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、いわゆる感染症法に基づいて、指定感染症に指定されております。

その後、令和3年2月13日に、新型コロナウイルス感染症対策の実効性を高め、より確実に取組を推進するために、感染症法の改正が行われ、期限の定めなく、必要な対策が講じられるよう、新型コロナウイルス感染症は指定感染

症から新型インフルエンザ等感染症として位置づけられております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 感染症のことをお聞きしたのではなくて、新型コロナウイルス、この存在証明はありますかということをお聞きしました。

○議長（寺田公一君） 暫時休憩いたします。

午後 1時49分 休憩

午後 2時17分 再開

○議長（寺田公一君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

まず、進行する前に、川田議員にもう一度、申し伝えます。

一般質問とは、当該団体の行政事務について質問することであり、宿毛市議会会議規則第62条においても、議員は市の一般事務について、議長の許可を得て質問することができる、と定められております。

先ほど、議運も開きましたが、川田議員は一般事務に関することを質問していただくように、議長がもう一度、要請をするということで、議運の意見をいただきましたので、もう一度、勧告をいたします。

そして、執行部の皆様にもお伝えをしておきます。

質問されたこと以外に答弁する必要はありませんので、宿毛市の一般事務に関すること以外で質問されても、答弁は必要ありませんので、申し伝えておきます。

それでは、一般質問に移ります。

4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 私は、新型コロナウイルスは証明されていますかということをお聞きいたしましたけれども、なかなかお答えが返って

きませんでした。

次へいきます。

でも、これがないと、もとになる病原体のウイルスの特定がしっかりされていないと、何を標的にしているか、根本に問われかねない問題でありますので、お聞きをいたしました。

厚労省では、はっきり言っています、ありませんと。厚労省に公開質問状を出しました。答えは、検証できていません。存在確認はありません、と出ています。

次に進みます。

毎日毎日、報道されている新型コロナウイルス感染症、コロナ、コロナとテレビで言っていますが、これは新型コロナウイルス感染症、オミクロンなどは、法定伝染病であるかどうか、お伺いをいたします。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

オミクロン株が法定伝染病なのかとの御質問につきましては、現在、法定伝染病は家畜伝染病のみに適用されております。

かつては、伝染病予防法に規定されていた人の感染症は1998年に改定され、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に変更されているところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） よく理解できませんけれども、固有のウイルスが証明されているのではなくて、新型のコロナウイルスということで、コロナウイルス感染症も同じで、新型コロナウイルス感染症であっても、法定伝染病ではないということで、よろしいでしょうか。

じゃあ、なぜ、再質問になりますけれども、陽性になったとか、自宅待機とか、PCR検査で陽性になったよという話がよくあるんですけ

れども、そこら辺り、教えていただけますか。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

先ほども申し上げましたが、新型コロナウイルス感染症は、令和3年2月13日に感染症法の改正により、新型インフルエンザ等感染症と位置づけられておりまして、オミクロン株についても、同じ位置づけとなっております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 法定伝染病ではないということでございますので、自宅待機なんかもどうなっているのかなと思いますけれども。

次の質問にまいります。

今、PCR検査が正しく、今もまだやっておりますので、病原体を検出しているのか、PCR検査が正しくウイルスを検出されているものなのかを教えてください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

PCR検査につきましては、国の示す基準のもと、正しい検査が実施されているものと認識しております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 21年、去年でしたね。去年の夏頃から、どんどん感染者が増えました。そして10月頃からどんどん下がって、静かなお正月を迎えました。

PCR検査はそのときに、民間も、それから医療関係者もどんどんPCR検査を増やしました。すると、感染者も増えました。結果がああいうことなのです。

医療の点数も、PCR検査だと1,800点とか、そういうものが高くて、医療関係者

もどんどん増やしました。

ウイルスは夏には増えるわけがないと。高温多湿、そして紫外線も嫌うウイルスですので、なぜ感染をしたのかなと、疑問を持っておりました。

正しい検査と言われますけれども、PCR検査は25サイクルから45サイクルまで段階があって、国の規準を決めていませんので、WHOが決めているのは、25でやってくださいと言っていますけれども、日本は40から45サイクルでやっています。

だから、どんどん、倍々になっていきますので、1万倍とか、ちょっとここにウイルスがあっても、それが何千万というふうが増えていくわけです。だから、PCR検査、Ct値は正しく行われているかなと疑問を持っております。

次の質問へまいります。

厚生労働省科学審議会、予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会にて、現在の新型コロナワクチン接種後の副反応疑いの件数、重篤者の男女の数、死亡者の数を聞かせてください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

全国の医療機関からの副反応報告としまして、国に報告されている件数は、接種後の死亡による副反応の報告は、1,119人、接種による重篤報告が6,615人となっております。これは、ワクチン接種開始後の2021年2月17日から2022年1月16日までの集計となっております。男女別の人数については、今、手元に数がございますので、申し訳ありませんが、答弁は控えさせていただきます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 低いなと思って聞いておりましたら、2月17日から1月16日までの期間だとおっしゃられましたので、納得をい

たしました。

一番新しいのは、このワクチンが2020年2月11日に承認されまして、22年5月17日の段階では、1,711人の死亡となっております。そして、重篤者が6,300人となっております。

本当にこの人たちが、認定をひとつもされていませんので、御家族や御本人の症状の重さを……

こういうことで、少しずつワクチンの接種者も少なくなっておりますので、5月17日には、後藤労働大臣は、新型コロナワクチンの使用期限が近づき、廃棄する自治体が増えているけれども、できるだけ廃棄を少なくしてくださいというお話も会見で行っていました。

それでは、厚労省の人口動態の統計をお聞きいたします。

20年はコロナが始まりましたので、19年とほぼ似ている人口動態となっております。

21年が少しずつ上がってきておりますので、20年と21年を比較した人口の差を教えてください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

2020年の全国の人口は、1億2,570万8,382人で、2021年の人口は、1億2,550万5,290人となっております。

1年間の人口比としましては、20万6,092人減少している状況であります。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 20年はほとんど19年と変わりませんけれども、21年になると、ぐっと人口が減少しているというふうにお聞きをいたしました。

それで、22年はもっと増えると思います。

今出ている新しい人口動態では、1月から3月に亡くなった方がどんと増えていきますので、2月は1万9,490人も増えていきます。そして3月は、1万5,992人も、これが一番新しい統計かなと思われまますので、22年はこのように死者が増えているということ、皆さんに、何で死亡者が多いのかなということ、疑問を持っております。

そして、次の質問にまいります。

毎年、大多数が罹患するインフルエンザの感染者と、新型コロナの感染者の数をお聞きいたします。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

2021年の新型コロナウイルス感染症の罹患患者数は、149万7,520人となっております、インフルエンザの罹患患者数は、2018年が189万8,941人で、2019年は187万6,083人となっております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） それでは、インフルエンザで死亡なさっている方、大体3,000人ぐらい、3,126人と。19年は少し減っています。2,518人と。1日の死亡者が大体、全体では3,500人で、1年間の死亡者が130万ということになっておりますので、この数がどんどん、130万人が増えていっていきすと今、お聞きをいたしました。

それで、コロナのときは、100人、200人増えても、テレビで毎日報告されますし、新聞にも出ますけれども、インフルエンザの場合は、2016年を例にとってみますと、1週間で205万人とか、1,000万人を超えましたとか、そういうことの大きな、数が違います。6,285の学校で、休校や学級閉鎖の報告が

あつて、公衆衛生の数といたしましては、何百万人がニュースとなるのが普通でしたけれども、コロナの場合は、それよりぐっと低い数字でも、毎日毎日、コロナ、コロナと言って大騒ぎをしているのが、インフルエンザのニュースは大きくは年に、2月の1回きりで、もうピークは終わりですけれども、ずっと流しています。

そのことなんかも、ちょっと気になりましたね。

次の質問にまいります。

厚労省による新型コロナウイルス感染症、副反応検討部会報告と、インフルエンザと比較いたしまして、およその倍率をお聞きいたします。

副反応疑いの倍率も、併せてお聞かせください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

通告にいただいておりますので、その内容につきまして、倍率等お答えすることができません。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 次の質問にまいります。

5月25日から4回目接種が始まりました。3回目、4回目接種状況、当市の状況をお聞きいたしたいと思えます。

11歳の接種の割合も、併せてお聞かせください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

令和4年5月27日現在、本市では1万3,208人の方の3回目接種が完了しており、全体で68.3%となっております。

なお、接種率は、国や県の公表の仕方に合わせまして、令和3年1月1日現在の人口を母数

として算出しております。

また、4回目接種につきましては、6月下旬より沖の島地区や、介護施設等の巡回接種を開始できるよう、現在、準備を行っているところでございます。

次に、5歳から11歳の接種状況につきましては、同じく令和4年5月27日現在、2回目までの接種が完了した方が、221人となっております。接種率は21.2%となっております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 5歳から11歳、21.2%。221人が打っておられるということですからけれども。

子供の声を聞いてください。

ワクチンを打つ大人が多い。もうすぐ子供も打たなくては行けないが、打ちたくない。打ちたくない会話。その友達の親戚の人が寝たきりになった。

理科の先生がもうすぐ、子供のワクチン始まるから、みんなよかったね、と言った。

私は小学6年。12歳のワクチン接種の案内が来ていて、一番仲がいい友達も、もうすぐ12歳になって、その案内が来るのは怖いと言った。

ワクチンは初期発熱などあつて、終わったとはなりません。その1年後、2年後、3年後に何が起こるかわかりません。中長期的に見ていくことが必要であります。しかし、ワクチンは、4回目へと進んでいます。子供は重症化しないのに、ワクチンの副反応で、悩みを抱えている子供さんもいらっしゃることも理解をしてください。

再質問になりますけれども、5歳から11歳について、個別送付したことを、前回、議会でお聞きいたしました。国は、努力義務としない、勧奨しないとしていたが、当市は個別送付

をしました。

予防接種法では、自治体は予防接種を対象とする定期接種で、努力義務を課せられたものを勧奨するとあります。定期接種で努力義務が課せられたものについてのみ送付するものだったと思われまふけれども、個別送付について教えてください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

新型コロナウイルス感染症にかかる予防接種は、予防接種法に基づき接種勧奨をすることとされていますが、議員おっしゃられるように、5歳から11歳の接種に関しましては、努力義務の規定の適用を除外されております。

予防接種法に定める接種勧奨の方法につきましては、法令上、明確となっておりますが、予防接種の国の手引では、やむを得ない事情がある場合を除き、個別通知により行うこととされております。

また、議員が前回の議会のときにおっしゃられておりましたが、努力義務が課せられないことを鑑みて、接種券の一括送付を行わなかった市町村もございますが、本市としましては、希望する方が確実に正しい情報と接種機会が得られるよう、対象者全てに対しまして個別通知を行うことを決定させていただき、これは令和4年1月27日付の厚生労働省健康局予防接種室より発出され文書にて、対象者に対し早期に接種券を発送するよう指示がありまして、対応したものでございますので、御理解いただきたいと思ひます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 国は勧奨しないと、努力義務ではありませんと、こう言われましたけれども、今言われたように、地方自治体は、そ

れでも勧奨するとして、そういう方針をとったということでしたけれども、相反する、国は勧奨しない、自治体は勧奨せよという、相反する、私から見ますと、そごがあるように思えますので、国に申し入れる必要があったのではないかと思ひました。

再質問にまいります。

12歳から15歳について、接種をした方が、副反応による遅刻・早退、保健室登校、出席停止などの状況があったのか。そういう状況がありましたらお知らせいただきたいと思ひます。

○議長（寺田公一君） 学校教育課長。

○教育次長兼学校教育課長（和田克哉君） 学校教育課長、川田議員の質問にお答えいたします。

ワクチンの影響で遅刻された方、早退された方の数につきましては、こちらのほうで把握しておりません。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 把握してないということでしたけれども、私は若干、隣接をする市町村でお聞きをいたしました。

保健室登校をする方もいらっしゃるし、多少、部位が痛むということで、――

再質問をお願いいたします。

4回目接種が始まりますが、接種後、どういう展開になっているのか。大体、状況が見えてきていると思ひます。どのように今、副反応被害とか、人口動態では減っているよとか、数字が、お示しもしてくれましたけれども、この情報を市民の方にお知らせし、安心安全を提供して、命をどう守っていくのか、心構えをお聞かせください。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

しっかりと市民の命、健康を守るために、担当課と共に、国の指導のもと、しっかりとした対応をとっていきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 次の質問を行います。

基礎疾患者のリスクが優先される、基礎疾患についてお聞きをいたします。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

4回目接種の目的は、重症化予防を目的に実施することから、対象となる方は60歳以上の方と、18歳以上60歳未満で基礎疾患等のある方が対象となります。

国の示す基礎疾患等とは、慢性の呼吸器の病気、高血圧を含む慢性の心臓病、慢性の腎臓病、肝硬変等慢性の肝臓病、インスリンや飲み薬で治療中の糖尿病、またはほかの病気を併発している糖尿病など、14項目の基礎疾患と、BMIが30以上である方や、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の重症化リスクが高いと医師に認められた方となります。

この中での優先順位等は、ございません。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） それで、ファイザーが高リスクと判断をした4回目の優先対象から、高リスクのため治験から外した。それは優先とした基礎疾患がありますので、リスクから外した方、だから4回目を受ける方は注意をされたほうがいいと思います。高血圧の方、糖尿病の方、慢性肺疾患の方、ぜんそくの方、慢性肝炎、慢性腎疾患、重篤な心疾患、免疫低下、長期施設入居者の方は、高リスクのため治療から外したとありますので、そのあたりも、本人が意識をして4回目接種という方向へいかなければ

いけないと思います。重要なことです。

次、質問に移ります。

モデルナワクチンの異物混入が大きな社会問題となっています。当市では、職域、集団接種など、モデルナワクチンを打った人数と、今回、使用停止になっているロット番号と、合計で何人接種したのか、教えてください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

通告にございませんでしたので、今、データが手元ございません。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 聞き取りのときは、当市はモデルナワクチンがなかったというふうに聞いておりますけれども、よろしいですか。

だから、質問は続けるということでしたけれども。

（「議事進行」という声あり）

課長にお伺いしましたよね。今、資料がないからと言われましたけれども、モデルナワクチン、心配です。異物が入っていたということで、大きな問題になっているからということでしたけれども。

多分、それは、宿毛市は関係ないということで、資料を持ってなかったということだと理解をいたしました。

次の質問にまいります。

予防接種法にある新型コロナウイルス感染症病原体の定義には、2020年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に、人に伝染するものと報告されたものに限るとするとあります。

オミクロンは、2021年11月24日に、アフリカから来たもので、予防接種法の新型コロナの定義に適合しないのではないかと。新型コロナとは別ものではないかと、私は考えますが、

そこのあたりを教えてください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

御質問は、予防接種法附則第7条の解釈に関するものと考えますが、最初の御質問でお答えさせていただきましたとおり、オミクロン株を含む変異株につきましても、新型コロナウイルス感染症は、新型インフルエンザ等感染症と位置づけられておりますので、予防接種法附則第7条の特例規定に基づくものと認識しております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 次の質問にまいります。

今、進めているワクチンは、流行初期の有効性を想定したものであります。

今、主流となっているものや、今後の変異株に対する効果は、厚労省も不明とされています。

予防接種法第2条について、お聞かせください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

通告の内容をお聞きさせていただいたときの内容で、答弁をさせていただきます。

御質問は、予防接種法第2条にある、「予防接種とは、疾病の予防に有効であることが確認されているワクチンを接種することをいう」という条文に対しまして、十分な有効性が確認されないまま接種を行っているのではないかとの質問と考えますが、小児接種につきましては、5歳から11歳までの小児への接種を行うに際し、変異株の流行の想定や、小児においても、中等症や重症例が確認されていることを踏まえ、厚生労働省の審議会で議論された結果、予防接種法に基づく接種に位置づけられ、小児を対象

としたワクチン接種が進められることとなっております。

また、安全性につきましても、ほかの年代で接種している副反応と、同等程度との検証結果も示されているところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 今、課長が言われたように、予防接種法第2条は、疾病に対して免疫効果が確認されたものを定めるとあります。したがって、変異株の効果があるのかとか、12歳未満の臨床試験は実施していませんと、厚労省のホームページにもそれは十分でない。法的な扱いはきちんとすることが大事じゃないでしょうかと思ひまして、この質問に至りました。

次、交接種についてお伺いをいたします。

ワクチン業者は交接種について、ほかのものを打ったら責任をもてない。臨床試験もしていないと言っています。

ファイザー、モデルナとも、交接種の有効性、安全性を確立することはないと、文書に書いてあります。そこが基準です。

そんなものを接種してよいかと、私は考えます。交接種の治験後、安全性の確認をしてからするべきだと思います。

その結果、交接種をしたところでは、多くの死亡例が出ています。若い方の死亡もあります。

交接種はかつてないので、健康な体を害してはいけないことが、一番先に考えますが、交接種について、お聞かせください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

本市における交接種の状況について、答弁させていただきます。

交接種につきましては、国からの配分の状

況により、本市では、一、二回目のワクチン接種はファイザー社製のワクチンのみを使用し、実施しております。

3回目の接種からは、ファイザー社製以外にも、武田モデルナ社製のワクチンが配分され、交互相種が行われておりますが、これまではワクチンの不足により、交互相種となった方はおられず、御本人の希望による交互相種となっております。

今後、実施する予定の4回目接種につきましても、できるだけ御本人の希望するワクチンを接種いただけるよう、努めてまいります。配分予定のワクチンは、ファイザー社製より、武田モデルナ社製のほうが多くなっておりますので、交互相種の件数が増えるものと考えられます。

交互相種に関する安全性につきましては、両者とも副作用について、交互相種を行わなかった場合と、同等程度とされる検証結果が示されております。

また、交互相種を行うことで、同一ワクチンを接種した場合より、交互相種をした場合のほうが抗体価も高くなるなどの検証結果も示されておりますので、引き続きワクチンに関する情報提供に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 交互相種を今まではやっていないということで、安心をいたしました。

それから、次の質問では、若者向けメッセージ、若者向けキャンペーンとしている自治体が、多く接種を呼びかけております。これは、地方創生交付金との取扱について、国の推進室から事務連絡が来ていると思います。

少しそのことについて教えてください。

○議長（寺田公一君） 総務課長。

○総務課長（桑原 一君） 総務課長、川田議

員の先ほどの質問に関して、その内容を再度確認をさせていただけたらと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○議長（寺田公一君） 川田議員、もう一度。何について聞きたいのか、説明をお願いいたします。

4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 国から事務連絡が来ていると思います。若者に接種をというキャンペーンを、あちこちの自治体で、接種に向けて、そういうキャンペーンを行っていますので、接種率を上げたいという自治体は、せつせとそういうのをやっておりますけれども、それはそれでいいですけれども、地方創生交付金のほうへ接種がたくさん行われれば、地方創生交付金のほうへ交付されますよという話だと思っておりますけれども、そういうのが来ていると思います。来てます。

そういうのを少し、交付金は自治体に幾らかお金を出すと思うんですけれども、通常、交付金の計算は新型コロナワクチンの3回目接種を増やしたいという思いがあって、国は一生懸命、働きかけをしていると思いますので、その内容を少し教えてください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

議員がおっしゃるように、新型コロナワクチンの接種開始当初には、全国で接種率の向上を目的に、様々なインセンティブ事業を行った市町村があることは承知いたしております。

実施した市町村に問い合わせをしたものではございませんが、接種率向上の目的は、住民の健康を守る施策であって、交付金の増加を期待しているようなものではないと認識しております。

また、本市におきましては、そのような取組

は行っておりませんし、接種を迷う個別の相談に対しましても、接種の判断は御本人、または保護者が行うものであることと、接種することのメリット、デメリットについて、丁寧に御説明させていただき、接種を促すような対応は行わないよう、職員間で共有しておりましたので、御安心いただきたいものと考えております。

また、先ほど答弁いたしました本市における接種の状況に関しましては、市民の皆様の御判断によるものと御理解いただければと思います。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 本日の会議時間は、議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。

4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 了解いたしました。

接種後の危機管理、本当にこのワクチンが体にとっていい結果をもたらすものであれば、何も心配することはないんですけれども、今言われたように、たくさんの副反応が出ているということで、接種後の市民の安心安全、命を守るための接種であってほしいとは思っておりますけれども、接種後の危機管理という視点について、どのように考えておられるのか、お聞かせください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

新型コロナワクチン接種後、副反応を疑う症状が発生した場合は、かかりつけ医等の身近な医療機関で受診していただくこととなり、接種後の症状等から、より専門的な対応が必要であると判断された場合は、相談を受けた医療機関や接種医等から総合的な診療が可能な医療機関等を紹介することとなっております。

また、高知県が新型コロナウイルスワクチンの接種後の副反応に関する相談窓口を開設して

おりますので、本市といたしましては、電話番号等を御案内する対応をとっております。

今後、新型コロナワクチンによる健康被害の報告が、議員が御心配されるように、長期的に発生するようなことがあったとしても、国や県の方針に基づき、対応していくものと考えます。

市として重要な役割は、国や県が調査研究して発出される情報を、市民の皆様にわかりやすく周知し、迅速な対応に努めることと認識しております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） ワクチンによる様々な被害の報告もあがっていますと共に、明確な証拠も出ております。

精子の数が減少するとか、自己免疫疾患を増加させるとか、厚労省報告では、今、副反応報告は1, 291種類ほど上がっております。

長い間生きていく子供たちには、未来に不安を残す可能性があるワクチン接種後の健康を大人は見守る責任があると思います。

ワクチンが怖いのは、外に見えなくても、体の中で何が起きているかわからない。市民の生命と安心安全の観点からお伺いをいたしました。

マスクについて、お伺いをいたします。

私も昨日でしたか、マスクをするように議長から促されました。

不織布ですので、織ってないわけですよ。織ってない、不織布ですから。だから、化学物質を集めて集めて、それで接着剤でくっつけて、こういうものになっているわけなので、非常に鼻がむずむずして過敏な方もいらっしゃいますし、私もそうなので、ずっと続けていると頭が痛くなったり、外したらしながらやっていますけれども。議長に促されまして、マスクを行いましたけれども。

そういうことで、マスクの質問に入らせていただきます。

マスクに関して、当市のみならず全自治体で、一般的に議会の場などで着用 of 協力要請があり、全ての方々が応じているわけです。

そこで、マスクの効果について、お聞きをいたします。

いわゆる医療用マスクの網目など、どのくらいの大きさでしょうか。また、飛沫の大きさ、細菌、ウイルスの大きさも教えてください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、お答えいたします。

医療現場で使用されているN95マスクについては、網目の大きさは、0.3マイクロメートルとなっており、サージカルマスク、メディカルマスクなどの不織布マスクにつきましては、約0.5マイクロメートルとなっています。

新型コロナワクチンの大きさは、約0.1マイクロメートルといわれておまして、数字のみで比較すれば、マスクの網目を通ってしまうのではないかと思いがちですが、ウイルスは水分などに付着して飛沫するため、5マイクロメートル程度の大きさになることから、正しくマスクを使用すれば、完全ではないですが、ウイルスの侵入や飛散を防ぐことができるものとされております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 次、マスクのメリット、デメリットについてお聞きをいたします。

マスクをしたほうがかかりやすい。ほとんどの人はマスクをしておりますけれども、感染症は止まりません。ということは、マスクに、今、課長が言われたように、ちりやごみがウイルスを集めて水分を含む中で、培養して広がっているということでしょう。

それで、マスクをしているのは、防止しているかもわかりませんが、かえって中で、水分のあるところでウイルスが培養していくということになるんじゃないかなと思います。

マスクのメリット、デメリットをお聞かせください。

○議長（寺田公一君） 学校教育課長。

○教育次長兼学校教育課長（和田克哉君） 学校教育課長、川田議員の一般質問にお答えいたします。

通告は、教育長に対しての、子供のマスクの考査についてということですので、学校現場の立場から、御質問の御回答をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の対策をとりつつ、持続的に、児童生徒等の教育を受ける権利を保障していくため、文部科学省では、学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルを作成しております。

学校では、そのマニュアルを参考に、感染症対策に努めているところでございます。

衛生管理マニュアルは、最新の知見に基づき、随時、見直しが行われ、最新の衛生管理マニュアルにおいても、学校での集団感染リスクへの対応として、密閉、密集、密接の3つの密が重なる場で、集団感染リスクが高いとされておりますので、その対策は必要になってまいります。

マスクの着用は、密接の場合の対応として、学校教育活動においては、身体的距離が十分とれないときは、マスクを着用すべきと示されているところでございます。

このことから、マスクの着用は学校現場において、集団感染を防ぐ意味でも、メリットがあるのではないかと考えております。

また、注意点といたしましては、気温、湿度が高い場合には、熱中症の健康被害が発生するときは、マスクを外してくださいと示されてお

りますので、デメリットとしては、熱中症のリスク等が考えられるところがございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 熱中症というのは、夏だけではないということです。体育の先生にお伺いしたら、よくわかると思いますけれども、冬でもありますので、熱中症対策というのは、マスクと関係が非常に密着しているということです。

再質問になります。

厚労省は、感染症対策にマスクが入っていますでしょうか、どうでしょうか。教えてください。

○議長（寺田公一君） 学校教育課長。

○教育次長兼学校教育課長（和田克哉君） 学校教育課長、厚労省にマスクが入っているかにつきましては、通告にはありませんが、文部科学省の通達につきましても、厚労省の規定に基づきまして、作成されているものがございますので、マスクの着用につきましては、一定の国と一体的な見解があるものだと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 再質問ということで、お聞きをいたしました。

厚労省の感染対策には、マスクは書いてないと思われま。

マスクをしないと変人扱いで、マスクをしなきゃいけないと、今はそういう時期的な風潮になっております。でも、厚労省のホームページには、マスクは感染対策には入っておりませんので、一言申し上げておきます。

それで、4月29日、中川医師会会長が会見をされておりました。屋外でのマスクはする必要がなかったと。

屋外でのマスク着用については、もともと外

してよい考えだったが、十分伝わっていないとおっしゃっていました。マスク拒否に、少しずつ政府も動き出したかなと思っております。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） 少し、先ほどの川田議員のお話の中で、厚労省のほうが、マスクの推奨をしていないというお話がありましたが、推奨はしております。

なお、厚労省のホームページを確認させていただいたところ、中で、こういった場合はマスクを外していいですよ、こういった場合は外すほうがいいですよというようなことを、かなり細かく明記をされたというふうに理解しておりますので、マスク自体を推奨していないということについては、そういう認識は持っておりませんので、よろしく願いいたします。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 推奨していないとか、そういうことを言っているわけではないですよ。ずっとここ3年、ずっとマスクできているじゃないですか。マスクできているでしょう、ずっと。

ずっとマスクできているから、少しずつマスクを、拒否に動き出したねと、厚労大臣も言っていましたよね。これ、中川医師会会長ですけれども。

そういう方も、少しずつ、外では外していいよ、こういうときは外していいよということ、つけなきゃいけないということは、今まで言ってきたから、ずっとあるんですよ。あるけれども、今は少しずつ、こういうときは外していいよということを行っているわけなので、そのことを述べさせていただきました。

マスクをつける法的根拠は何ですか。マスクの着用を義務づける法的根拠がありましたら、教えてください。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

発言の中に、推奨してないという言葉をはっきりと言われましたので、そのことについて、市民の方々が勘違いされるといけないので、答弁をさせていただきます。

次の質問に関しては、担当課のほうからお答えさせていただきます。

○議長（寺田公一君） 学校教育課長。

○教育次長兼学校教育課長（和田克哉君） 学校教育課長、川田議員の質問にお答えいたします。

学校現場においての質問だと思いますので、私のほうから御説明させていただきます。

マスクの着用についての法的根拠についての御質問でございます。

新型コロナウイルス感染症については、新型コロナウイルス感染症等特別措置法第18条第1項の規定に基づき、政府対策本部が、新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針が定められております。

この基本的対処方針の中に、学校等についての具体的な項目がございます、その中に、学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル等を踏まえた対応を基本としつつ、身体的距離が十分に確保できないときは、児童生徒にマスクの着用について、指導することなどが記載されております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） マスクをつける法的根拠、文部科学省マニュアルの中でも、いろいろあるということで、教えていただきました。

大人もずっとつけておるわけですので、マスク着用を義務づける法的根拠は何ですかと、全体的にお聞きしたかったわけです。

これは裁判がありまして、これは任意ですか

ら、マスク着用を義務づける法律はありません。なぜなら、法の下での平等、これは任意ですと裁判長が言われました。だから、お願いになっているわけですね、マスクというのは。

基本的人権、憲法の11条、12条、13条、個人の尊重とか、これに触れるのでマスクの強要はできないということでございます。

マスクの法的根拠はない。今はそういう風潮になっているので、マスクをつけましょうということで、皆さんが任意でつけられているわけです。

次、いきます。

マスクは義務化でもないのに、義務化したのは我々大人。マスクをかけないなら出てくれと、半強制的なマスクの強要についてお聞きをします。

○議長（寺田公一君） 学校教育課長。

○教育次長兼学校教育課長（和田克哉君） 学校教育課長、質問が、子供のマスクの考査についての質問でございますので、学校現場についてのマスクの対応について、御説明させていただきます。

新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、持続的に児童生徒等の教育を受ける権利を保障していくため、学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルが定められておまして、その中で、学校での集団感染のリスクを減らすための対策としまして、身体的距離が十分にとれないときは、マスクの着用はすべきと考えられているところでございます。

本市の学校においても、その考えに基づきまして、対応を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 学校も、マスクをしてくださいと。食事をしたら、すぐマスクをしてと。もう走ってきて、学校へ着いたら、もうす

ぐ、運動が終わったらすぐマスクしてと、こういうふうには子供は言われると。それも強要になるというふうなことがある。

今、言われたような、義務化でもないのに、ということからすると、子供は反論もできないまま、言われるまま、ずっとマスクをつけてきましたね。

それが感染対策になるのかとあって、厚労省もホームページには、感染対策にはマスクは入っておりません。入っておりません、調べてください。

○議長（寺田公一君） 暫時休憩いたします。

午後 3時32分 休憩

午後 3時54分 再開

○議長（寺田公一君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

川田議員から、コロナウイルスのマスクについての発言をいただいた上で、議事を再開いたします。

4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 以前は、マスク着用について、厚労省も症状のある方がつけるということを、ホームページに載せていました。ずっと、私たちもそうやって大きくなりました。今はこの感染症ということで、厚労省のほうも、症状のある方、ない方、つけるように推奨しているということで、理解をいたします。

質問、続けてよろしいですか。

オの体育時、登下校ほか子供のマスク着用の再考について、お伺いをいたします。

登下校、体育時は、マスクも着用少なくなっておりますけれども、後藤大臣が発表してから後、大阪市のほうで2件、マスクをつけたまま体育の練習をしたり、行進をしたり、ラジオ体操をしたりということで、熱中症が発生して、救急搬送なされた学校が、20人、30人と出

ていたと、ニュースがありました。

それで、宿毛市は比較的、そういうのが守られているのかなと思いますけれども、去年の東中学校ですか、マスクを全員がしたままラジオ体操をしていましたので、非常に怖いなと思いましたけれども、今年はそのようなことはないと思います。

子供のことを本当に考えると、マスクは、体育が終わったから、すぐマスクということにもならないと、医者は言っていますね。

体育をした後、すぐつけてくださいって、先生が言われると、子供たちが言っていますけれども、マスクをつける前に、息を整えるために温度調節をしているということが、体の中で行われていますので、マスクをつけるのは体の調整が落ちついたらということに、そういうところも指導の中に入れてほしいなと思います。

そういうことで、今、質問をいたしました。体育時だけでなく、生活全体、学校、授業をしているときなんか、ずっと子供たちはマスク漬けになっておりますけれども、そういう今の状態を、何とかマスクがとれるようなお考えはあるのかなのか、まずそのあたりを教えてください。

○議長（寺田公一君） 教育長。

○教育長（鎌田勇人君） 川田議員の質問にお答えいたします。

通告では、体育時、登校時など、マスクの着用について示されて、取扱はどうかという質問をいただいておりますので、それについてお答えをさせていただきたいと思います。

厚生労働省から、マスク着用の考え方及び就学時前の取扱についてが公表されたことに伴い、文部科学省から学校生活における児童生徒等のマスクの着用についての文書が届いております。

これまでの衛生管理マニュアルにおけるマスクの着用について基本的な取組と大きく変化は

父母。一人だけはいじめにあうので、みんなで外そうとなりましたが、校長先生は、勉強していないので、上からの言いつけとして、マスクをせよというのみに、父母たちは要望書を出しました。

子供たちを救う発想の転換もしました。

子供のマスクの宣言のことについて、少し教えていただきたいと思います。

○議長（寺田公一君） 教育長。

○教育長（鎌田勇人君） お答えいたします。

議員の今、お話しされたマスクの着用についての宣言書の取組については、私のほう、承知しておりません。

新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、国において、憲法や様々な法律に基づき、現状考えられる最善の対策を取っていると考えておるところでございます。

先ほどまでの答弁と重複いたしますが、新型コロナウイルス感染症の警戒が必要な中で、持続的に児童生徒の教育を受ける権利を保障するためには、学校における感染及びその拡大リスクを可能な限り低減した上で、学校運営を継続する必要があると考えております。

そのために、国において学校生活における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルを定めており、その中で、マスクの着用については、集団感染リスクへの対応のための措置とされています。

各学校では、夏季における熱中症の対策を取りながら学校運営をしていますので、学校におけるマスクの着用の必要性については、どうか御理解をいただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） マスクの宣言書、御存じないということで、御回答いただけませんでしたがけれども、これは2021年6月の段階で、

全国で72校、東京だけでも4校ありました。

これは、子供を守るという父母の熱意がありまして、つけたくない、親も子もしっかり決意をすることが大事でして、つけたくないということを、子供と親が書いて持っていくます。

教育委員会のほうへ届けます。そこで、教育委員会は受理をする必要がありますので、受理をします。

学校で校長に言っても、その内容はよくわかりませんので、教育委員会のほうから、校長に指導をして、親が行くので、マスクをこの子はつけたくないと言っているということ、それを納得してくれと。

そのときに、いろんな問題は出ますでしょう。一人だけつけてないということで、いじめにあうかもわかりません。ほかの親から、つけてないと感染するんじゃないかとか、そういう疑念の声も出てくるかもわかりません。

あっても、これこれこういう、つけたくないという理由だから、病的に持っている方は、診断書があればすぐ出ますけれども、ほかの理由で、親御さんがきちっと子供を守りたいという決意を持っていたものを、教育長が校長先生に指導していただいて、いろんなことの内容をよく把握されたら、校長先生も担任の先生に話されて、担任の先生が子供さんに話されて、そうやって全国で72校、今、もっと増えていると思います。これは2021年6月の話ですので、そういうことがあって、子供が快適に、もとの生活に戻って、やっておられるということも、御紹介をしておきたいと思います。

それで、時間もないですので、次へまいります。

土佐の匠の受賞について、お伺いいたします。

これは個人の受賞ではありますがけれども、県のほうからも認められて、また市の財産ともなりました。

この一つの小さな宝物を、これから大きく育てていくためには、具体的に、行政としてどのように考えておられるか。人を育てるという意味で、行政の力をかりて、大きく宿毛の宝を広げていくために、いろんなマッチングとか、いろいろコラボとか、いろいろあると思います。

そういうことを、具体的にお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

市内外に情報発信することが大切だというふうに、聞き取りのときにおっしゃっていたということでございますので、そういった取組について、お話をさせていただきたいと思います。

土佐の匠は、高知県内で32の職種、122名の方が認定され、宿毛市ではサンゴ加工の中山英一氏に続き、2人目となる濱中伸也氏が令和3年度に認定をされたということでございます。

土佐の匠は、伝統技能に加えまして熟練技能や技術などが、伝統性や、そして独自性を持つと共に、文化的にも価値が高く一般の御理解を得られやすいものが要件とされており、今回の認定された濱中伸也氏が製作をする組子細工につきましても、まさに土佐の匠にふさわしい熟練技術によって作り上げられた、すばらしい芸術作品であるというふうに考えているところでございます。

濱中氏におかれましては、これまでも宿毛市美術展覧会への出展や、宿毛まちのえき林邸における展示会が開催されるなど、その作品に多くの方々が魅了され、感銘を受けたものと存じます。

組子細工やサンゴ細工など、宿毛市の匠の技の魅力を市内外へ情報発信することは、大変重要であると認識しております。

現在もふるさと納税の返礼品への出品、イベント等でのワークショップ、小学校を訪問して行う1日先生などの活動をしていただいておりますので、今後も事業者と連携し、継続をしていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 人を育てる、物を育てる、そしてお金が入ってくると、こういう循環が巡っていけば、宿毛市の発展が期待できるかなど。一人の力は小さいですけども、大きく皆さんが関わっていくことで、大きな波が、うねりとなって帰ってくることを期待しております。

樺3号線の道路について、お伺いをいたします。

これまで何度か質問をしてきましたので、状況は分かっていたかと思っております。それで、まだ現状は、復元にはなっていないという、地元の皆さんの声であります。

それで、今、私も何とかこの道路、道路はとても大事なもので、災害のときなんかには、本当に役に立つためには、きちんとした道路をいつも維持していかなきゃいけないということで、命の道ということでもあります。

この3号線につきましては、所有者が自分の畑を出してもいいよということが、新しく、今のところの情報でございます。市のほうへも、そういうことの話が届いているかとは思いますが、この方の、本当に心からの提供を何とか道路が広がっていくように、元の整った道路になるように、その人の思いをくんでいくために、どのように今、考えておられるのか、そのあたりをお聞かせください。

○議長（寺田公一君） 土木課長。

○土木課長（澤田英典君） 土木課長、川田議員の一般質問にお答えします。

まず、樺3号線につきましては、市としまして、これまでも幅員が狭くなっている区間につきましては、隣接者の御理解を得ながら、令和2年1月の舗装工事により、全体的に50センチ程度、道路幅員を確保して一定の安全性の向上を図ったところです。

今回、議員のおっしゃられる方につきましては、以前より市との境界位置に相違はなく、またその方の所有地に隣接する道路幅員のみを上げたとしても、当該路線の幅員狭小区間が全て解消とならないことから、安全性の大きな向上は図れないものと考えております。

今後の道路整備につきましては、そのほかの隣接者の協議状況を見ながら、検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 全体的な道路の原状には戻れないかも分かりませんが、そういう一人の自分の財産を投げ出してもいいよという、元の道に戻してくれといっている気持ちはとても大事だと思いますので、そのように、なぜならぬかという部分については、そこのあたりは行政が力を注いでいただきたいと思えます。

次、道の駅すくもサニーサイドパーク建設工事費について、お伺いをいたします。

これは質疑でも行いましたが、質疑の内容を見ましても基本設計、実施設計と、若干、そこがあったようで、補正が出てきましたけれども、その内容の中身が、もう少し議員全体に行き届くように、説明をしていただきたいなと思っています。

よろしくをお願いします。

○議長（寺田公一君） 商工観光課長。

○商工観光課長（長山敏昭君） 商工観光課長、川田議員の一般質問にお答えをいたします。

今、議員が御質問されました件につきましては、5月の臨時会におきまして、岡崎議員の質問に対して、お答えをした答弁と同じでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 道の駅すくもサニーサイドパークにつきましては、私たちも、あれはもう、かなり高知県でも1番か2番かぐらいに早く設置された道の駅でございますので、あれからずっと手も入れてないという中で、新しいものを求めていたのは問題はないと思います。

それでも、実施設計がきちっとできてなかったというふうにもお伺いしましたけれども、そのとおりだと言われてはいますが、市長が強い思いがあったと。だから、何とか事業に上程したいということを言っていました。

それはもう、それについては、誰も異論はないと思います。

でも、やはりやり方もありまして、無理が通れば道理が引っ込むと。私なんか、よく両親からそういうことを聞かされて大きくなりましたけれども。

何の無理があったかどうか、道理が何が引っ込んだのかということになりますけれども、その辺りの説明はありますか。わかりませんか。

○議長（寺田公一君） 商工観光課長。

○商工観光課長（長山敏昭君） 商工観光課長、再質問にお答えをいたします。

様々、議員のお考え述べられておりましたが、事前に聞き取りをさせていただいた内容に沿って、答弁をさせていただきます。

その際の聞き取りの川田議員の御質問の内容は、なぜ実施設計も終わっていない工事費を当初予算に計上するのか、そこが一番大きな疑問を抱かれておったところだというふうに、理解をいたしました。

それに対する答弁でございますが、道の駅すくもサニーサイドパークの建設工事費につきましては、基本設計の概算工事費をもとに、令和4年度の当初予算に計上をしております。

その後、委員会でも当初予算の説明を当然させていただくわけなんですけれども、その際に、サニーサイドパークの工事費を説明する中で、実施設計業務について、現在委託中で、県の補助金交付決定が遅れているため実施設計の事業完了は3月末となるというふうに、委員会のほうでも説明をさせていただいております。

3月議会におきまして、議決をいただきまして、その後、令和4年3月末をもって実施設計業務が完了し、その内容を反映した工事費を5月の臨時会に補正予算として提案をして、議決をいただいたものでございます。

議員が言われるように、確かに実施設計が終わるのを待って、補正予算として計上するという方向もあります。しかし、このサニーサイドパークの改修工事は、議員も御承知のとおり、市民の関心も高く、本市の観光施策としても大変重要度が高い事業でございます。

また、令和4年度中の完成を公表している大型事業でもありますので、当初予算に計上すべき事業であるという判断のもと、3月議会に議案を提案した次第でございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 再度、質問にお答えいただきました。

市長というのは、自分のやりたい事業があると思いますので、それはどんどんやればいいと思います。それはやって、自分の思いを、また夢を叶えていくことに、市長としての特権があるわけですので、それはやっただけいいと思いますけれども、予算の面では、たずなを緩めたり、また引いたりするのが、行政、担当課長、職員

なんかの、そういう役割があるのではないかと、私は思います。

だから、そのときにこういうアドバイスをしたり、そのことは勇み足ではないかとか、そういうもののアドバイスをしたりするというのが、専門の道を歩んでこられた職員の役目ではないかと思いましたが、これで、このやり方でよかったのか、思いだけで突っ走って、こういう説明をしなきゃいけないということでもよかったのかなと思いましたが、それで質問にさせていただきました。

以上で終わります。

○議長（寺田公一君） この際、10分間休憩いたします。

午後 4時24分 休憩

午後 4時35分 再開

○議長（寺田公一君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 今回、新庁舎において初登壇での一般質問になりますが、毎回、この場に立つと緊張します。今はいつも以上に緊張しているのが自分でも分かりますが、精いっぱい、質問させていただきます。

それでは、通告に従いまして、一般質問をいたします。

まずは、1の環境対策について、宿毛でお花おもてなし事業についてであります。

梅雨に入り、道路沿いにアジサイの花がたくさん、きれいに咲いているのが見え、雨でじめじめした気分を吹き飛ばしてくれるような感じがします。

事業名が、「宿毛でおもてなし」ですので、2020東京オリンピック招致の際、IOC総会で、滝川クリステルさんが発言した「おもてなし」にひっかけているのだと思い

ます。

花で心を込めたサービスをするということなのかと思いますが、この事業に対する目的や、思いなどをお聞きしたいと思います。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） 環境課長、お答えいたします。

宿毛でお花おもてなし事業は、住民の方々が自発的に行う環境美化活動を支援することで、環境美化意識の高揚を図ると共に、活動の一環として実施する草花の植栽を通じて、明るくきれいなまちづくりや、観光振興に寄与することを目的とし、平成30年度から実施しております。

中でも、宿毛駅周辺の道路際の植え込みにつきましては、宿毛駅の利用客が最初に目にする場所となりますので、担当課としましては、重点箇所と位置づけて、取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 明るくきれいなまちづくりや、観光振興にも生かしていくということでした。

それでは、どういった内容の事業なのか、お聞きしたいと思います。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） お答えいたします。

市道脇の植え込みなど、公共性の高い場所に草花を植栽し、草引きなどの手入れや維持管理を行っている団体を対象に、花や土、肥料などを現物支給しております。

また、取組団体がわかるように、団体名を記入した小型看板を市で製作し、提供を行っております。

以上です。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 自宅で花を手入れする方はたくさんいると思いますが、ボランティアで市道を花いっぱいになりたいと思われる方がどれだけいるのか、どうなんだろうかな。

活動団体の申込数、昨年度はどうだったのか。また、今年度、今現在の申込数を教えてください。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） お答えいたします。

活動団体数ですけれども、令和3年度は25団体から申し込みがありました。本年度につきましても、既に23団体から申し込みをいただいているところでございます。

以上です。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） ボランティアの輪が広がって、人気の事業になりつつあるのかなと感じました。

ただ、今回、この事業についてお話させていただいているのは、まだまだ予算や取組を充実させてはどうかということです。

よく市民の方から、愛媛県に行ったら道沿いに花がいっぱいで、きれいに整備されて高知県とは全然違うと言われます。

特に隣町の愛南町は、きれいに手入れをされていて、これは専門業者に委託して整備されているのだろうと、私自身思っていましたが、知り合いの愛南町の町議に話を聞くと、公民館事業で、全てボランティアであると教えてくれました。

そこで、町議に館長を紹介してもらい、話を聞かせていただきました。

館長からは、とにかく熱い思いが伝わる話で、国道花壇などをモデル花壇とし、どこよりも目を引き美しい花を植栽し、講演会を開いたり園芸教室や花のデザインなどの研修会なども行って、海外への視察も行い研究したと、自信をも

って話してくれました。

また、ボランティアの推進委員会も立ち上げ、毎月1度は草引き作業や植栽を行っていて、予算も1地域に70万円の予算があると教えてくれました。

単純に比較することはできませんが、ボランティアの意気込みが全然違うのかなという感じもしました。

町と行政、保育園児から小中学生まで参加して、地域と一体になってまちづくりをする。私はすごく理想的な取組であると感動したことでした。

宿毛市では、花の取組を環境課が受け持っていて、昨年度、駅前での花壇の手入れや、植栽を行っていましたが、今年度はなかなか手が回らないと課長が話されていて、負担の大きさを感じました。

美しい生活環境づくりを、街全体に広げればと思いますが、今後、花のまちづくりについて、どのように考えているのか、お聞きします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） 堀議員の一般質問にお答えをさせていただきます。

宿毛でお花おもてなし事業に関しましては、花を植えるといった活動を通じまして、住民の方々のボランティア精神や環境美化に対する意識の高揚を図ると同時に、宿毛市に来てくださる方々を、花でもてなすという考えのもとに取り組んでおりまして、おもてなし、あれをとったわけではないんですが、偶然一緒になっております。

そういった観点のもと、宿毛駅周辺や市道桜町藻津線を重点箇所位置づけているところがございます。

花がもたらす癒しの効果であるとか、市内全域に四季折々の草花が咲き誇る、美しい町並みが広がり、この取組が市全域に浸透していくこ

とはすばらしいことだと、私も思っておりまして、何とかそういった実現に向けて、努力もしていきたいというふうに思っているところでございます。

しかしながら、ボランティア団体によっては、植え付け後の管理まで、なかなか手が回らないといった団体もあるといった状況も散見される中、さらに広範囲での実施となると、先ほど議員のほうもおっしゃられましたが、担当職員の細やかな対応も、ますます難しくなりまして、景観の維持管理に問題が生じる恐れもあるというふうに、一方では感じているところでもございます。

このため、今後は事業の実施場所や実施方法といった内容については、改めて精査しながら、よりよい事業展開を目指してまいりたいというふうに思っております。

また、花を植えるということで、この事業とは別に、各地域で活動をしてくださっている方々がおられることも、承知をしているところでございます。

そういった団体といますか、取組をしてくださっている方々との連携も、今後、図れるような形がとれればというふうに考えておりますので、またいろいろと、議員のほうからも教えていただければというふうに思うところがございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 市とボランティアの協力により、すばらしい町並みになることを期待して、次の市道についての質問に移ります。

アの項目について、花の手入れの難しさと同様に、木や雑草の除草・剪定の作業も大変だと聞いています。

5月の連休前から二、三カ月の間は、草の成長は早く、草が後から生えて切りがない状態で

す。

現在の国道や、市道沿いを見てもみますと、イタドリが高く伸び、カヤが広がってツツジやサザンカなんか埋もれているようにも見え、何とかならないものかと、よく思います。

余りにもひどい状態を目にしますので、国道56号のところなので、県のほうへ連絡を取ってみました。

いつから除草・剪定作業があるのかと確認すると、国道56号においての作業は、ここ数日間のうちに行う予定があり、基本的には、年1回行っている。場所によっては、何回か行くこともありますよ、ということでした。

そこで、市道においては、どうでしょうか。市道における沿道の木、雑草の除草、剪定の時期と回数をお伺いします。

○議長（寺田公一君） 土木課長。

○土木課長（澤田英典君） 土木課長、堀議員の一般質問にお答えします。

市道の樹木の剪定及び除草の実施時期と、回数についてお答えします。

除草・剪定の1回目の実施時期につきましては、原則として6月から7月頃を想定しております。

ちなみに、今年度につきましては、6月に既に一部着手しているところもあります。

また、2回目を行う場合の実施時期につきましては、10月頃を想定しております。

実施回数につきましては、通行車両の視距を確保することによる安全確保の観点から、交通量が多い場所については2回、その他の場所については、1回を基本として実施しております。

以上です。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 大体、1回から2回、県の状況と同じような感じです。

続いてイの質問ですが、何年か前に業者の方

が、除草・剪定の入札を落としたが、7月、8月の大変暑い時期に作業も非常にきつく、従業員の負担も大きいと話をされてきました。

今年度は、除草・剪定業務の契約状況がどうなっているのかをお聞きします。

○議長（寺田公一君） 土木課長。

○土木課長（澤田英典君） 土木課長、堀議員の一般質問にお答えします。

今年度の除草・剪定業務の契約状況についてですが、入札不調の業務もありましたが、再入札などにより、現時点で予定しておりました全ての業務が契約済みとなっております。

以上です。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 何とか入札が成立したようで、安心しましたが、作業は暑いので大変そうだと思います。

できれば、5月の連休前に一度作業を行い、観光客に気持ちよく来ていただいて、8月に入ってからもう一度、除草・剪定を行うのが一番よいようには、私は思いますが、道路愛護デーとかクリーンデーのような市民参加の草引きや、大がかりなボランティアの参加がなければ美しいまちづくりは難しいかもしれません。

ただ、市民の負担も大きくなってはいけないのですが、よりよい方法があれば、また検討していただければと思います。

次の、ウの落下物について。

去る5月2日の出来事です。5月2日といえ、新庁舎移転の日になりますが、地区の年配の方が、今、道路で碎石が落ちていて、こけそうになって怖かった。たくさん落ちていたけど、どこに連絡したらよいか、と相談がありました。

場所は新田2号線で、新しくフジで紙や、段ボールのごみステーションができた、前の道路を新田側に行ったTの字の交差点で、当日は咸陽島へ高校生の遠足があり、バイクも通るから、

危険だとも言われていましたので、私は現場へ状況を提供してくれた方と一緒にいき、状況を確認しました。

道路片側を中心に、10メートル四方に碎石が落下していて、自分たちで拾い上げれるならと思い、ほうきとちり取りを用意して行っただけですが、車の量も多く難しい状況でした。

本来なら、落下させた業者のほうが対応されるのが当然なのでしょうが、気づかなかったようです。

このように、車両への貨物の積載状況により、土砂や建設資材等が市道上に落下する場合などがあると思われま

す。このような状況を発見した場合、どのように対応したらいいのか、市民の方は把握されていなかったのではないかと

思われま

す。

落下物発見時の対応を、どのようにすればいいのか、お尋ねします。

○議長（寺田公一君） 土木課長。

○土木課長（澤田英典君） 土木課長、堀議員の一般質問にお答えします。

市道上の落下物につきましては、市民の皆様により発見され、第一報を市民の皆様

の御協力により、いただくケースも多いと思われま

す。

以上です。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 私たちは、市役所土木課と警察へ連絡して、あとをお任せしましたが、迅速な対応で事故が起きなかった

ので、安堵したことでした。

次に、3のプラスチックごみについて、移ります。

プラスチックごみについて、私が一番懸念しているのは、海洋プラスチック問題です。

以前、神奈川県

の相模湾の水深750メートルの海底に、多数のプラスチックごみが分解されず、長時間にわたって残る。このままでは、1000年先にも残るかもと話す研究者の記事が、新聞に掲載されていま

す。

先日、沖の島へ帰省していた際、島民や学校の先生方、児童生徒、市の職員なども加わって、たくさんの方々が海沿いを中心とした清掃活動を

をされていました。

大きな発泡スチロールの浮きがトラックに積まれているのを見ましたが、プラスチックごみも海に捨てられた物が海岸へ打ち上げられたものもあり、数多くプラスチックごみも回収できたよう

ている物が、今朝もたくさんありました。

ペットボトルの収集は、容器の大きさの制限もあるようで、出し方を理解できてない市民がおられるようですので、まず、ペットボトルのごみステーションへの出し方をきちんと教えていただければと思います。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） 環境課長、まず、地区長の皆様におかれましては、日頃から地区のごみステーションの維持管理に御尽力いただき、感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

堀議員から言われた、ペットボトルですけれども、宿毛市ではペットボトルに限らず、午前8時までには、ステーションにごみを出していただくようお願いしております、堀議員の言われる、回収されずに残っているペットボトルの多くは、様々な理由はあるかと思えますけれども、大部分が時間外に出されている、いわゆる後出しであったり、それから収集日以外、かごですので、出されたまま置いていかれるというペットボトルではないかというふうに、担当課としては推察しているところでございます。

次に、ペットボトルの出し方としましては、中身を空にした後に、内側を水洗いしていただきまして、キャップを外したまま、潰さずに収集日当日の午前7時から8時の間に、ごみステーションに出していただくようになります。

また、容量が112ミリリットル以下の小型の物であったり、5.5リットルを超える大型のものにつきましては、ペットボトルではなくて普通ごみの扱いになりますので、御注意いただきたいと思えます。

ペットボトルに限らず、ルール違反のごみにつきましては、今後も回収できませんので、ごみ出しの際に御注意いただきますよう、お願いいたします。

以上です。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） ペットボトルについては、月に2回、収集。収集日はそれぞれ、地区が異なると思いますが、月に2回、自分も出すようにしております。

では、次のペットボトルのリサイクルの流れについてですが、先ほどの収集されたペットボトルが、きちんとその後、どのようにリサイクルされて環境への取組とつながっているのか、わかる範囲で構いませんが、お聞きします。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） 環境課長、お答えいたします。

各ステーションに出されたペットボトルにつきましては、市が委託している清掃公社と拓進運輸の2業者が回収を行い、全量を幡多クリーンセンターに持ち込んでおります。

持ち込まれたペットボトルにつきましては、センター内のリサイクル棟におきまして、プレス処理を行い、一定期間保管した後、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会を通じまして、大阪市や北九州市のリサイクル業者に引き取られることになります。

リサイクル業者は、ペットボトルを原料といたしまして、マイバッグを製造するための繊維であったり、生卵のパックを製造するためのフィルム、洗剤用のボトル、それからプラスチック製の植木鉢などの商品に形を変え、再利用されているというふうにお聞きしております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） いろいろな形でリサイクルされているようですね。自分たちの出したペットボトルが、どのようにリサイクルされているのかを、少しでも分かれば、例えばポイ捨てなども減ってくるのではないかと思います。

市として、プラスチックごみを減らす施策について、何か考えがあれば、お聞かせください。

○議長（寺田公一君） 環境課長。

○環境課長（谷本和哉君） 環境課長、お答えいたします。

本市におきましては、プラスチックごみに限らず、環境汚染のもととなるごみの減量、不法投棄を減らすため、啓発看板の設置や環境指導員による巡回パトロール、エコバッグの利用促進によるレジ袋の減量等に取り組んでおります。

また、本年4月1日には、プラスチック資源循環法が施行されましたので、プラスチックごみの分別方法に関しまして、幡多6市町村で協議を行っているところでございます。

以上です。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） いろいろな施策をしていただいて、少しでもプラスチックごみを減らせるようにできればと思います。

次に、2のスポーツ振興についての、宿毛運動公園（宿毛市野球場）についてに移ります。

先日、自宅から宿毛市野球場まで散歩をし、ゆっくりと球場周辺を見て回りました。

宿毛市野球場は、1971年に建てられてから50年以上が経過していますが、近年はナイター設備を完備したり、外野フェンス、バックスクリーンを修理したりと、全体的に修繕されていますが、雨天練習場に足を運んでみますと、老朽化が激しく、ひび割れた箇所が何か所もあり、雨漏りなどがあると聞きます。

そこで、現時点での建て替えの予定があるのかをお聞きします。

○議長（寺田公一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長兼宿毛文教センター所長（中平成也君） 生涯学習課長、お答えいたします。

宿毛運動公園内にございます雨天練習場につきましては、野球やソフトボールの雨天時での

練習や、プロ野球等のキャンプのときなどに利用されておりますが、建築後50年が経過していることもあり、議員おっしゃられるように、施設全体が老朽化している状況となっております。

その都度、必要な修繕は行っておりますが、現時点で建て替えや大規模修繕につきましては、具体的な計画策定には至っておりません。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 現時点では、建て替えの計画がないということでしたが、ぜひ宿毛市として、雨天練習場の建て替えの検討をお願いして、次の補助グラウンドのほうに移ります。

補助グラウンドですが、以前は一般のソフトボールのチームがたくさんあり、私もナイターでよく試合もしました。

近年は、ジュニアのソフトボールのチームや、一般のチームがたまに練習したりしているのを見かけたりします。

グラウンドの外野に目をやれば、両開きの扉の入口は片方が腐食し、折れてのけられていました。ボールが出ないように、小さな持ち運びの防球フェンスが置かれていました。

片方の状態を見ると、もう片方の扉も同じようになるのは時間の問題のような気がします。

この入口の扉の修繕について考えているのか、お聞きします。

○議長（寺田公一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長兼宿毛文教センター所長（中平成也君） 生涯学習課長、お答えいたします。

補助グラウンドの西側に設置しています作業用のゲートにつきましては、高さ約1メートルの鉄柵で、観音扉式となっておりますが、昨年、扉を固定する片側の支柱が、腐食により根元から折れ、扉の片方が外れたため、安全を考慮し現時点で撤去しております。

現在は、応急的な対応として、先ほど議員おっしゃられたように、移動用の防球ネットを設置しまして、野球等のボールが外へ出ていかないように、対処しております。

本来なら、早急に修繕工事を行うところですが、高知県が実施する津波長期浸水対策の防潮堤整備工事に伴い、当公園南側が工事区間に係る計画となっており、当公園へアクセス道となっている市道志沢尾片島線に面する既存フェンスの位置に、本年度中に防潮堤が整備され、作業用ゲートを含む南側のフェンスにつきましても、北側にセットバックする形で新設される予定となっております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 近々、県の防潮堤工事関連で修繕されるということで、安心しました。

次に、補助グラウンドの奥には、以前は2面分のテニスコートがあり、中学生がよく部活で汗を流していましたが、現在、コートの支柱も取り外され、どのように使用されているのかわかりません。

使用方法、また今後どのような活用を考えているのか、お聞きします。

○議長（寺田公一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長兼宿毛文教センター所長（中平成也君） 生涯学習課長、お答えいたします。

宿毛運動公園内にごございますテニスコート跡地につきましては、長年、テニスコートの利用がなかったことから、令和2年度に有料公園施設から除外した上で、テニスコート内の支柱を撤去し、現在は都市公園施設の一部としておりますので、市民の皆様公園施設として御利用いただける形となっております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 公園ということで、自

由に使用できるということのようですが、目的を持った使用方法も考えられるように思います。

例えば、少し狭いかもかもしれませんが、金網の高さもあるし、ドッグランとして使用するか、スリー・オン・スリーの3人制バスケット場や、フットサルの練習場であつたりと、何かに利用できそうな気がします。

これもまた、検討をよろしくお願いします。

次に、3の観光推進対策についてに移ります。咸陽島公園についてです。

咸陽島公園については、以前からほかの議員も一般質問の中で、整備についての質問を何度かされていますが、今回、私も再度、質問させていただきたいと思うのは、宿毛市の観光振興を考える上で、一番最初に頭に浮かぶのが、この咸陽島公園だと思います。

冬場の天気の良い夕方、だるま夕日を見ようとスマホを片手に行ってみると、絶好のだるま夕日が撮影できる位置には人だかり。話を聞いてみると、九州や広島から、このだるま夕日を見るためにここに来たと、多数の県外客がシャッターチャンスを待っていました。

また、寒い時期にも関わらず、テントを張って夕日を眺めている人たちも数組いました。

そして、咸陽島といえば、大潮のとき、潮が引くと海が割れ大島との間に一本の道が現われ、歩いて行き来できるようになります。

5月の連休は大変な人出で、ちょうど大潮の時期と重なって、3時間以上も道が現われたままで、私も奥の咸陽島まで初めて渡り、隅々まで見て回りましたが、カヌーをこいだり、泳いだりしている人もいて、観光客の多さに驚きました。

5月4日に公園に行きましたが、天気も晴天で、車は100台以上もあつたかと思います。テントは60ぐらい。250人以上の人出だつたと思います。

それでも以前より少ないと、アイスクリームを売っているおじさんが言われていました。

その日、日平公園やサニーサイドパークにも行ってみましたが、それぞれ人の流れはありましたが、咸陽島公園の人の多さは飛び抜けていました。

このような大人気の咸陽島公園の整備計画と、今後の方針について伺います。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） 堀議員の一般質問にお答えをさせていただきます。

咸陽島公園は、春から初夏にかけては、トンボロ現象が見られ、冬にはだるま夕日を見ることができるなど、観光資源として多くの魅力を秘めている、そういった場所であると考えているところでございます。同じでございます。

また、近年のアウトドアブームもありまして、休日には多くのキャンプ利用客も訪れていただいているところでもございます。

そういった中で、これまでも随時、いろいろな整備はしてきたところでもございますが、近年では、令和3年度にトイレ棟のデッキ部分に流し台を設置するなど、アウトドアのレジャー施設として、魅力向上を図っているところでもございます。

現時点でお示しできる整備計画等は作成しておりませんが、咸陽島公園につきましては、引き続き、宿毛市の観光拠点といたしまして整備したいと、そのように考えているところでございます。

その際には、大島桜公園や、その中を走るサイクリングロード、また現在、ピアサーティンによって整備が進められているグランピング施設なども絡めながら、一体的に魅力あふれる、そういった観光拠点として、磨き上げをしていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 早期の計画をよろしくお願ひしたいと思います。

次の、咸陽島公園の道路整備については、現在、サンセットヒルの整地が進み、先ほど、市長も言われましたが、グランピングの施設が建設される予定地の下で、椰子の湯から公園へ下りる鋭角な急カーブは軽自動車でも一度で曲がり切ることが難しい、非常に難所の道路であります。

何とか道路幅を広げられないか、その計画はないか、お聞きします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

宿毛リゾート椰子の湯から、咸陽島公園に向かう途中にある市道咸陽島線と、市道大島北線の交差点箇所は、以前から、私たちが学生のころからなんです、議員が言われるとおりの、普通乗用車でも一度では回り切れない、そういった場所でありまして、切り返しが必要な交差点となっているところでございます。

本市としましては、宿毛リゾート椰子の湯や、グランピング施設を整備中のサンセットヒルから、咸陽島公園を最短ルートで結ぶ、観光面でも重要な路線と考えておりまして、今後、咸陽島公園の整備計画と共に、道路整備についても、検討をしていかなければならないというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 道路整備も進み、キャンプ、レジャー施設として計画が進めば、どこにも負けない観光地として、胸を張れるように思います。

それでは、次の質問に移ります。

次の、県道沖ノ島循環線についてであります。
県道沖ノ島循環線、弘瀬の舗装された道が途切れる場所から長浜の道が途切れる場所まで車で行き、この道がつながるのが島民の夢であると、弘瀬の亡くなった前区長が生前教えてくれたのを思い出しました。

以前から計画されていて、頓挫した道路だと思いますが、これまでどのように進められてきたのか、経過についてお聞きします。

○議長（寺田公一君） 土木課長。

○土木課長（澤田英典君） 土木課長、堀議員の一般質問にお答えします。

県道沖ノ島循環線のこれまでの事業経過について、説明をさせていただきます。

県道沖ノ島循環線は、沿線の集落と島内の公共施設が多くある母島地区を結ぶ唯一の路線であり、島内の日常生活を支える重要な路線であります。

これまでの事業経過について県に確認したところ、当初計画としましては、事業延長3.8キロメートル、事業期間は平成7年度から平成30年度までを予定していましたが、事業延長3.8キロメートルのうち、未開通区間の3.0キロメートルについては、平成27年から休止状態になっていると、県からお聞きしております。

その休止の主な原因としましては、土地の登記名義人の方の多くが亡くなっているため、相続者が多数となっており、所有権移転等の登記手続が困難な状況であること、また、島内に所有者や相続者がほとんど在住していないことから、用地取得に必要な土地の境界を確定することも困難な状態であるということ、県からお聞きしております。

以上です。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 用地取得が困難だった

ということのようですね。

土地の所有者が誰か、亡くなった方が多いと言われてましたが、そういった土地がたくさんあるのは承知しております。

実は、私の家族の土地も沖の島小中学校より長浜側へ少し走った北峯山に土地があるようです。

地番を調べてグーグルで探してみましたが、どの場所かわかりませんでした。唯一場所を知っていた母親も先月亡くなり、もう知るすべもありません。

昨日の高倉議員の一般質問の中で、不動産登記法の改正の話がありましたが、所有者不明の土地の利用が円滑化され、手続も簡素化されるとあり、令和5年、令和6年で法が整備されるということでありました。

循環線の整備も、もしかしたら進められるのではと期待してしまいます。

今後の整備計画について、お聞きします。

○議長（寺田公一君） 市長。

○市長（中平富宏君） お答えをさせていただきます。

今後の整備計画ということでございます。こちらは県道でございますので、県道沖ノ島循環線の今後につきまして、県に確認をしました。

県としては、先ほど説明しました問題を解決できる法の整備が整えば、改めて事業再開に向け検討を行っていく考えでありまして、現状としては、現道の日常の安全・安心を確保するために、適正な維持管理に努めていくといったお話でありました。

また、本市としましても、例年ですが、高知県知事や高知県議会へ事業の再開に向けた要望を行っているところでありまして、引き続き、県と連携しながら、事業推進に向けまして努めてまいりたいと考えておるところでございます。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番(堀 景君) 何とか沖ノ島循環線が開通できれば、新しい観光の仕方であったり、サイクリングの大会の開催にもつなげられるのではないかと思います。ぜひ、県のほうへ、引き続き前向きな要望をお願いしたいと思います。

続きまして、4の防災対策について。

津波避難タワーについて、お聞きします。

宿毛駅周辺へ車を走らせると、高くそびえたつ避難タワーが見え、駅前公園津波避難タワーの文字が大きく映し出されます。

同じく、市内中央の旧武道館跡に、三浦公園津波避難タワーが建設されました。

念願の2基の津波避難タワーですが、今議会の議案の中でも、宿毛市津波避難タワーの設置及び管理に関する条例として提出されていますが、タワーについての質問をさせていただきます。

まずは、完成・落成した後、どのような使用方法となるのか、内容が違うようであれば、2基それぞれお答えをお願いします。

○議長(寺田公一君) 市長。

○市長(中平富宏君) お答えをさせていただきます。

現在、建設中の三浦公園、駅前公園の2基の津波避難タワーにつきましては、8月1日から運用開始を予定をしているところでございます。

使用につきましては、津波災害時の避難はもちろんのこと、平時の避難訓練での活用や、また公園の一部として御利用をいただけるものと、そのようにしているところでございます。

まず、三浦公園タワーにつきましては、地上部分にベンチとトイレを設置しておりまして、散歩の休憩所として、また地域の方々の憩いの場として、利用をしていただきたいということで、整備を進めさせていただきました。

地上11.5メートルと14.4メートルにある平場の避難階は、周囲が住宅地であるため、

プライバシーに配慮して開放いたしません、地域の避難訓練や防災学習等の際には、申請をいただくことで、使用可能としたいというふうに考えております。

なお、緊急時には、扉の一部を壊すことで、鍵を開け避難階に上がることができるといった仕組みとなっております。

駅前公園タワーにつきましては、地上11メートルと14メートルの平場の避難階を平時から開放をいたしまして、14メートルの避難階である屋上にはベンチを設置し、展望台として機能をいたします。

また、地上部分には、遊具を設置いたしまして、お子様連れの御家族にも楽しんでいただける、そういった施設として整備を進めてこさせていただきました。

いずれのタワーも、津波から命を守る施設であるとともに、公園機能を向上させ、市民の憩いの場となることをコンセプトとしておりますので、ぜひ多くの市民の皆様を活用といたしますか、御利用していただけたらというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長(寺田公一君) 2番堀 景君。

○2番(堀 景君) 2基の活用の仕方が違うようですので、開放できるようになれば広報などでお知らせいただければと思います。

次に、このタワー本体は、国の設計基準に基づいて整備され、津波で倒壊しない強度が確保されていると思いますが、階段やスロープなどが、津波や漂流物の影響で流される危険性があるタワーも、高知県に設置されていると聞いたことがあります。

津波の浸水が解消した後、高齢者を速やかに救出することのできるものなのか、津波の力に耐えられる耐浪性があるのか、お聞きします。

○議長(寺田公一君) 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

本市の津波避難タワーは、鉄骨造でございます。先ほど、議員がおっしゃいましたように、タワー本体は国の示す津波や強度の規準を満たすよう、設計されております。

しかしながら、附属する階段やスロープにつきましては基準がなく、津波に流される可能性があります。

そのため、県が示す津波避難タワーが有しておくべき、必要な機能の整備方針に基づきまして、避難者自身の重さで緩やかに地上に降下することができる緩降機、それから地上まで降ろした袋の中を、らせん状に滑っていく垂直救助袋を設置して対応させていただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 市民が安全に、安心して避難できることを願います。

最後の質問になりますが、それぞれのタワーの避難人数、備蓄品は確保されているのかをお聞きします。

○議長（寺田公一君） 危機管理課長。

○危機管理課長（有田巧史君） 危機管理課長、お答えいたします。

避難人数と備蓄量についてでございますけれども、三浦公園タワーにつきましては、既存市街地の道路が狭く住宅も密集していること、また築年数の長い建物も多いことから、地震後の避難の際には、建物倒壊による道路閉塞の危険性が、避難路点検により確認をされております。

そのため、周辺地域で高台までの避難が遅れる可能性のある人口を算定しまして、収容人数を220人といたしております。

また、もう一つの駅前公園タワーにつきましては、避難行動要支援者の避難を想定した場合

に、駅前公園より南側の沿岸地域に、避難困難地域が認められたため、高台への避難を目指す途上にあります駅前の公園内に設置するものであります。

収容人数は、避難困難地域内の住民、それから商業施設の滞在者のうち、避難が遅れる可能性のある人口を算定し、330人といたしております。

また、備蓄量についてでございますけれども、備蓄量につきましては、高知県備蓄方針に基づきまして、本市では避難者数の1日分の水、食料、毛布、簡易トイレなどの備蓄整備を進めておりまして、収容人数の1日分を想定いたしております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 2番堀 景君。

○2番（堀 景君） 市民に愛され、命を守る、そんな避難タワーになることを期待しまして、今回の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（寺田公一君） これにて一般質問を終結いたします。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。本日はこれにて散会いたします。

午後 5時36分 散会

令和4年
第2回宿毛市議会定例会会議録第4号

1 議事日程

第9日（令和4年6月15日 火曜日）

午前10時 開議

第1 議案第1号から議案第11号まで

----- . . . ----- . . . -----

2 本日の会議に付した事件

日程第1 議案第1号から議案第11号まで

----- . . . ----- . . . -----

3 出席議員（13名）

1番 今 城 隆 君	2番 堀 景 君
3番 三 木 健 正 君	4番 川 田 栄 子 君
5番 川 村 三 千 代 君	7番 高 倉 真 弓 君
8番 山 上 庄 一 君	9番 山 戸 寛 君
10番 岡 崎 利 久 君	11番 野々下 昌 文 君
12番 松 浦 英 夫 君	13番 寺 田 公 一 君
14番 濱 田 陸 紀 君	

----- . . . ----- . . . -----

4 欠席議員

な し

----- . . . ----- . . . -----

5 事務局職員出席者

事務局 長	黒 田 厚 君
次長兼庶務係長 兼調査係長	奈 良 和 美 君
議事係長	桑 原 美 穂 君

----- . . . ----- . . . -----

6 出席要求による出席者

市 長	中 平 富 宏 君
副 市 長	岩 本 昌 彦 君
企 画 課 長	上 村 秀 生 君
総 務 課 長 兼 選挙管理委員会事務局長	桑 原 一 君
危 機 管 理 課 長	有 田 巧 史 君
市 民 課 長	岡 本 武 君
税 務 課 長	山 岡 敏 樹 君

会計管理者兼 会計課長	佐藤 恵介 君
健康推進課長	松田 まなみ 君
長寿政策課長	谷本 裕子 君
環境課長	谷本 和哉 君
人権推進課長	川村 志保 君
産業振興課長	岩本 敬二 君
商工観光課長	長山 敏昭 君
土木課長	澤田 英典 君
都市建設課長	小島 裕史 君
福祉事務所長	朝比奈 淳司 君
水道課長	川島 義之 君
教育長	鎌田 勇人 君
教育次長兼 学校教育課長	和田 克哉 君
生涯学習課長 兼 宿毛文教 センター所長	中平 成也 君
学校給食 センター所長	平井 建一 君

----- . . . ----- . . . -----

午前10時01分 開議

○議長（寺田公一君） これより本日の会議を開きます。

日程第1「議案第1号から議案第11号までの11議案を一括議題といたします。

これより、質疑に入ります。

質疑の通告がありますので、順次発言を許します。

5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） 皆さん、おはようございます。5番、川村三千代、質疑を行います。

まず、皆さんに事前に申し上げますけれども、昨日まで一般質問が行われておりました。私が質疑に取り上げる内容につきましては、担当課長の答弁が、昨日の一般質問と重なる部分もあるかと思っておりますけれども、なかなか一般質問では事業の内容等がきちんと詳細に、市民の皆さんに伝わったかという懸念もございまして、一般質問と重なる答弁になりますこと、あらかじめお許しください。

そしてまた、議案についてですけれども、ページ数について、申し訳ありません、紙ベースの議案書で申し上げますので、タブレットで議案を御覧の皆様には、誤差が生じますけれども、あらかじめ御了承、よろしくお願いをいたします。

それでは、議案の番号順に従いまして、質疑をさせていただきます。

まず初めに、議案第1号から議案第4号の4つの議案について、一括で質問をさせていただきます。

議案第1号は、固定資産評価審査委員会委員の選任について、そして、2号、3号、4号につきましては、人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて、1号から4号までは、いずれも人事案件でございます。

これまでこういった人事案件につきましては、その方の御住所、そして氏名、生年月日、また参考資料として最終学歴やこれまでの職歴というようなものが明記されておりましたが、今回、住所の欄が、市内在住、そして生年月日が、月日がございまして、生まれた年のみとなっております。

このことにつきまして、理由をお示しいただきたいと存じます。

担当課長、よろしく願いいたします。

○議長（寺田公一君） 総務課長。

○総務課長（桑原一君） 総務課長、川村議員の質疑にお答えいたします。

議案第1号から第4号につきましての表記、住所と生年月日についての変更点についてという御質疑だと思います。それについて、お答えをさせていただきます。

社会情勢の変化などから、個人情報保護に関する法律等でも、個人情報保護が強化される中ではありますが、議案書における個人情報の取扱については、地方自治法においても明記されたものがなく、全国的に議論がなされている状況でございます。

その議論の中では、情報化が著しく進展している昨今、議案審議に必要な個人情報についても、最大限の配慮を行うことが望ましいと判断をされている自治体もございます。

そういった中で、本市におきましても、個人情報を最大限に配慮するため、まず和解の相手方については、市内在住者との表記で、議会へ報告とさせていただいております。

また、人事案件につきましては、令和4年第1回定例会におきまして、名誉市民及び教育委員会委員の議案から、住所については市内の方は市内在住、県外の方につきましては、その居住される都道府県名を、それから生年月日につきましては、年齢が分かるために、それは必要

だということで、生まれた年についての表記のみとさせていただいております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） 個人情報保護の観点からということで、そういった御配慮の中で住所については市内在住と、また、年齢が分かればということで、生年だけの表記になったということ、理解できました。

ただ、これまで人事案件、例えば今回の人権擁護委員候補者3名の方、あげられておりますけれども、こういったときに、地域性というものも、我々、ある程度、判断材料の一つとしてあったわけです。つまり、同じ地域に委員さんが固まらないようにというか、同一の地域ではなくて、市内、できるだけばらつきがあるように、委員が選定されているのかということも、議員にとって一つの議案審査のときの材料だったんですけども。

今回、人権擁護委員3名あげられておりますけれども、地域性というようなものは考慮されているのでしょうか。そちらについて御質問させていただきます。

○議長（寺田公一君） 人権推進課長。

○人権推進課長（川村志保君） 人権推進課長、5番、川村議員の再質疑にお答えいたします。

人権擁護委員候補者の選任において、地域的なバランスについて加味しているかとの再質疑であったかと思いますが、人権擁護委員の方には、人格識見が高く、広く社会の実情に通じ、人権擁護について深い理解のある人であることが求められ、地域への人権啓発や人権相談、人権侵害の被害者救済等の活動をしていただいているところです。

今日の人権擁護活動は、社会生活と私的生活の両面で対応していただく必要があり、社会生活の中で発生する人権侵害については、関係法

令の整理等、解決に向けた体制が徐々に整いつつある一方、私的生活の中で発生する人権侵害については、行政では容易に発見できない状況があります。

この見えにくい人権侵害を発見していただくため、また人権相談活動等においても、住民に最も近いところで活動していただく存在の重要性等からも、宿毛市内の様々なエリアから、できるだけ均等になっていただけるよう、推薦者の選出をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） 地域性についても、ある程度、考慮がなされて、こういった方々が推薦されているという御説明、ありがとうございました。

なお、今後もこういった人事案件等出てくると思いますけれども、議案上はこのように、市内在住という表記であっても、例えば議会中に議員に、何らかの地域性というようなものを御説明いただける機会や場を設けることは可能なのでしょうか。その辺を、再々質問、お願いいたします。

○議長（寺田公一君） 総務課長。

○総務課長（桑原 一君） 総務課長、川村議員の再質疑にお答えいたします。

議案の表記につきましては、個人情報の関係で、御説明をさせていただいたとおりの表現をさせていただいておりますが、審議いただくための説明というのは、今後も必要だと思っておりますので、適時説明をさせていただきたいと思っております。

よろしく申し上げます。

○議長（寺田公一君） 5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） どうも御説明ありがとうございました。

議案第1号から議案第4号につきましては、

以上といたします。

それでは、続けて質疑をいたしますけれども、次からは、全てこの議案第5号別冊、令和4年度宿毛市一般会計補正予算（第2号）から、質疑をさせていただきます。

ページ数に沿って、質問をさせていただきます。

まず、13ページ。

第3款民生費、第1項社会福祉費、3目老人福祉費。こちらの12節委託料、17節備品購入費、どちらも動画撮影・編集業務委託料、並びに備品購入費としては、動画撮影・編集用機器購入費とありますけれども、これは一体どういう動画が撮影されるのでしょうか、この内容と目的について、御説明をお願いいたします。

○議長（寺田公一君） 長寿政策課長。

○長寿政策課長（谷本裕子君） 長寿政策課長、5番、川村議員の質疑にお答えいたします。

議案第5号別冊、令和4年度宿毛市一般会計補正予算（第2号）、13ページ。

第3款民生費、第1項社会福祉費、3目老人福祉費、12節委託料の動画撮影・編集業務委託料37万4,000円、並びに17節備品購入費、動画撮影・編集用機器購入費33万9,000円について、事業の目的と内容について、御説明いたします。

この事業は、新規事業等調査票で高齢福祉事業周知動画作成事業として御提案しております。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、外出控え等により心身が虚弱に陥りやすい状態にある高齢者と、その御家族に向け、スマートフォンやタブレット等で介護保険や介護予防事業に関する情報を手軽に収集、実施できるような動画を作成し、視聴していただくことを目的としております。

制作する動画の内容は、100歳体操などの介護予防体操や、地域支援事業、高齢者福祉事

業の紹介、介護保険サービス利用に係る申請の仕方などを予定しております。

また、高齢化が進展する中、介護保険サービスを円滑に提供するためには、継続的な介護従事者の人材確保も課題となっておりますので、介護事業の魅力発信動画も制作する予定です。

基本的には、職員が撮影や編集を行うものとし、その際に必要となるカメラやパソコン等、合わせて備品購入費として33万9,000円を計上しております。

また、専門的な編集技術が必要な動画につきましては、コンセプトの打ち合わせに始まり、動画の撮影、編集作業、成果物の制作までを事業者へ委託できるよう、委託料37万4,000円を計上させていただきました。

内訳は、動画1本当たり18万7,000円とし、2本の制作を想定しております。

なお、これらの経費につきましては、財源として新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用を考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） よりスピーディーに、そして分かりやすく情報発信をする一つのツールとしての動画であるというふうに理解できましたが、どんなにすばらしい、分かりやすい動画ができて、その動画の存在を周知、アピールすることも必要だと思いますけれども、市民の皆様には、その辺はどのようにアピールしていくのか、それを再質問させていただきます。

○議長（寺田公一君） 長寿政策課長。

○長寿政策課長（谷本裕子君） 長寿政策課長、川村議員の再質疑にお答えいたします。

制作した動画の周知方法につきましては、市公式ユーチューブ「みてや！SUKUMO!!」に掲載した後に、公式ホームページやフェイスブック、ライン等のSNSにより、周知いたし

ます。

また、紙媒体での周知といたしましては、市広報紙「広報すくも」掲載を想定しておりますが、本議会で御審議いただきますガイドブック作成業務委託料が議決されましたら、こちらでも周知してまいりたいと考えております。

なお、ガイドブックにつきましては、同じく議案第5号別冊、令和4年度宿毛市一般会計補正予算（第2号）、13ページの第3款民生費、第1項社会福祉費、6目介護保険費の12節委託料として計上しております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） 動画の有効な活用を望んでおります。

それでは、次の質疑に移ります。

その次のページの14ページに移ります。

第3款民生費、第5項人権政策費、3目児童館費、14節工事請負費、正和児童館図書室エアコン設置工事費41万3,000円。同じく、正和児童館遊戯室エアコン設置工事費116万2,000円、こちらの内容と目的について、御説明をお願いいたします。

○議長（寺田公一君） 人権推進課長。

○人権推進課長（川村志保君） 人権推進課長、5番、川村議員の質疑にお答えいたします。

同じく議案第5号別冊、令和4年度宿毛市一般会計補正予算（第2号）、14ページ。

第3款民生費、第5項人権政策費、3目児童館費、14節工事請負費、正和児童館図書室エアコン設置工事費41万3,000円、及び正和児童館遊戯室エアコン設置工事費116万2,000円の増額補正につきましては、現在、正和児童館の2室には、エアコンが設置されておらず、夏場及び冬場の利用に際し、苦慮していることから増額補正をするものです。

児童館では、児童生徒が人権学習や交流学習

等を行う子ども会活動をはじめ、キッズスペースをつくり、幼児から利用できるような工夫をしたり、そのほかにも、障害のある子供と家族の居場所づくり事業の「しげちゃんち」等、様々な事業を活用しているところですが、夏場は扇風機の利用のみではとても暑く、冬場においても、感染症対策のため開放をしておいた実施となっており、来館者数についても、過ごしやすい季節と比べ減少し、利用者の健康面も心配される場所です。

つきましては、正和児童館の図書室及び遊戯室に、空気清浄機能のついたエアコンの設置工事をし、今まで以上に安全安心に、広く有効活用される施設にするために、上程をさせていただいたところです。

なお、こちらの事業の財源につきましては、令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用する予定となっております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） 正和児童館が快適に使えるようにという、エアコンの設置というふうに理解できましたが、これからますます暑くなってまいりまして、エアコンの需要も増えてまいります。そうすると、毎年、懸念されることですが、どうしても需要と供給のバランスが崩れて、なかなかエアコンの機器自体が用意できない。また、取付工事者が大変多忙になりまして、なかなか工事が思うように進まないというような実態が、毎年報告される場所ではありますが、この予算が通った場合、取付工事の進行については、どのようにお考えでしょうか。

○議長（寺田公一君） 人権推進課長。

○人権推進課長（川村志保君） 人権推進課長、5番、川村議員の再質疑にお答えいたします。

設置工事の進行予定は、とのことですが、川村議員の御心配のとおり、新型コロナウイルスの影響もあり、エアコンの納品等の遅れは懸念材料の一つとなっております。

今議会で議決をいただきますと、直ちに施工伺い等の作業に着手し、取り組んでまいりたいと考えておりますが、今夏の設置には至らないケースも出てくる可能性はあると考えています。

その場合につきましても、冬につきましても苦慮している状況にありますので、夏については、隣保館のスペースの利用等の工夫をし、今年の年末までには、設置完了できるよう、迅速に取り組んでまいりたいと考えているところです。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） どうも御説明ありがとうございました。

正和児童館に関するエアコンの設置については、以上となります。

次の質疑に移ります。

同じ14ページになります。

その下の段になりますが、第4款衛生費、第1項保健衛生費、2目予防費としまして、7節報償費、11節役務費、12節委託料でございますが、こちら見た限り、新型コロナウイルスワクチン接種の4回目の事業に係る予算と思われましても、改めましてこの4回目の新型コロナウイルスワクチン接種事業について、詳細をお示しください。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、5番、川村議員の質疑にお答えいたします。

議案第5号別冊、令和4年度宿毛市一般会計補正予算（第2号）、14ページ。

第4款衛生費、第1項保健衛生費、2目予防費1,967万円のうち、新型コロナウイルス

ワクチン接種事業に係る1,957万円について、御説明いたします。

まず、4回目接種の概要につきましては、昨日の一般質問の答弁と重複することがございますが、対象者やスケジュールと、御説明させていただきます。

対象者につきましては、4回目接種は重症化予防を目的として実施することとなっていることから、60歳以上の方と18歳以上60歳未満の基礎疾患を有する方、及びその他重症化リスクが高いと医師が認める方に対して、実施いたします。

対象者数といたしましては、5月27日現在、60歳以上で3回目接種が終了した方が7,750名、18歳以上60歳未満につきましては、3回目接種を終了した方が5,325名おられますが、そのうち基礎疾患等を有する方のみが対象となります。

今後のスケジュールとしましては、4回目接種の接種時期は3回目接種後5カ月以上経過することになっておりますので、5カ月以上経過する6月下旬から、高齢者施設や沖の島地区の巡回接種を開始いたします。

一般の住民接種は、7月上旬から実施していく予定となっております。

また、接種方法や予約の方法につきましては、これまでと同様に、医療機関での個別接種と集団接種を併用して行い、予約につきましても、ライン、電話、窓口での予約ができるよう、現在、準備を進めているところでございます。

なお、ワクチンにつきましても、3回目接種と同様に、武田モデルナ社製及びファイザー社製のワクチンを使用して、実施いたします。

現時点での配分割合は、武田モデルナが全体の約6割、ファイザーが約4割で供給される予定となっております。

昨日も答弁いたしましたが、できる限り、御

本人の希望するワクチンを接種していただけるよう、努めてまいります。

次に、補正予算の内容につきまして、御説明いたします。

集団接種の実施に伴う医師及び看護師の報償費99万円、接種券等、発送費用などの役務費80万1,000円、接種券作成委託料440万円、健康管理システム改修委託料49万円、新型コロナウイルスワクチン接種委託料1,288万9,000円を計上しており、事業費につきましては、新型コロナウイルスワクチン接種対策費国庫負担金及び新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費国庫補助金として、全額交付されるものです。

なお、計上いたしました補正予算額は、当初予算で計上しております新型コロナウイルスワクチン接種事業関係予算と、4回目接種の実施に向けて必要な予算を精査した上で、不足見込となる金額を計上させていただいております。

引き続き、市民の皆様が安心して接種していただけますよう、正しい情報の提供と体制整備に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） 詳しい御説明、ありがとうございます。流言飛語に惑わされることのないよう、市民の皆様には的確な判断で、ワクチン接種に対応していただきたいと思えます。

さて、4回目となります今回の事業、これまでの3回の接種事業と何か異なる点がございましたら、御説明をいただきたいのですが、お願いいたします。

○議長（寺田公一君） 健康推進課長。

○健康推進課長（松田まなみ君） 健康推進課長、川村議員の再質疑にお答えいたします。

1回目から3回目と大きく異なる点といたし

ましては、2点ございます。

1点目としましては、先ほども御説明しましたとおり、4回目接種は新型コロナウイルスに感染した場合に、重症化を防ぐことを目的としておりますので、18歳以上60歳未満の方については、基礎疾患等のある方のみと接種対象者が限定されることがあります。

これまでは、対象となる方全てに接種券等を発送することができましたが、4回目接種では、基礎疾患等を有する方の把握ができないことから、対象となり得る3回目接種を終了した方に対し、4回目接種についてのお知らせと、接種券発行申請書を郵送し、基礎疾患等があり接種を希望する御本人の申請に基づき、改めて接種券を郵送する仕組みとなります。

2点目としましては、フジ宿毛店の空きテナントで実施しておりました集団接種につきまして、4回目からは、宿毛市役所新庁舎を会場として、実施する予定としております。

これまでとの変更点につきましては、市民の皆様がお間違いにならないように、丁寧に広報に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） どうも御説明ありがとうございます。

新型コロナウイルスワクチンの4回目の接種事業に関する質疑は、以上といたします。

それでは、最後の質疑に移りますが、17ページとなります。

第6款商工費、第1項商工費、2目商工業振興費、18節負担金補助及び交付金の地域振興券換金原資と、2目の商工業振興費について、御説明を求めます。

まず、地域振興券事業につきましては、これまでも何度か取り組んできた事業でありますけれども、これまでの地域振興券事業の換金率は

どのようなであったか、お示してください。

○議長（寺田公一君） 商工観光課長。

○商工観光課長（長山敏昭君） 商工観光課長、川村議員の質疑にお答えいたします。

議案第5号別冊、令和4年度宿毛市一般会計補正予算（第2号）、17ページでございます。

第6款商工費、第1項商工費、2目商工業振興費。2目トータルで1億1,311万9,000円の補正を計上させていただいております。

内容につきましては、宿毛市コロナ対策地域振興券事業となっております、質問の内容は、過去に実施をした地域振興券事業の換金率ということであったかと思えます。

過去に2回、マイナンバーカード普及促進を図るために、インセンティブ事業といたしまして、地域振興券事業を実施してまいりました。

令和2年度に実施をいたしました宿毛市マイナンバーカード普及率向上事業における地域振興券事業の換金率でございますが、発行額、1億3,075万円に対しまして、換金率は98.65%となっております。

また、令和3年度に実施をいたしました宿毛市マイナンバーカード交付率向上事業における地域振興券事業の換金率は、発行額6,863万円に対しまして、98.5%となっております。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） 2回の事業とも、高い換金率で、地域経済に大変大きな影響を及ぼす、いい事業だと思っておりますが、さて2回、これまで地域振興券事業を行ってまいりましたが、利用者、つまり市民の皆様からの御意見や御要望、また地域振興券の取扱店などの御感想とか、そういった意見が寄せられていることがありましたら、お聞かせをいただきたいのですが、お願いいたします。

○議長（寺田公一君） 商工観光課長。

○商工観光課長（長山敏昭君） 商工観光課長、再質疑にお答えをいたします。

これまで実施してまいりました地域振興券事業について、市民並びに取扱店舗の皆様の見解、要望等があったかという御質問だったかと思えます。

新型コロナウイルス感染症の影響は、事業者をはじめ、多くの市民の皆様にも及び、消費の低迷や収入の減少に苦しむ方が多数おられました。

このような厳しい状況下において、実施をいたしました地域振興券事業でございますが、地域振興券を受け取られた多くの方から、経済的にも非常に助かったというお声をいただいております。

また、消費の低迷により苦しむ事業者の皆様からも、売上が増加したとのお声や、またこの事業をきっかけとして、初めて来店して下さるお客さんもいたというふうな喜びの声も届いております。

おおむね好評であったものというふうに認識をしております。

また、改善してほしいという点につきましては、地域振興券のつづりについて、取扱店舗より、地域振興券の表紙と、地域振興券自体のデザインが似通っていたので、間違いやすいというふうな御意見もございましたので、この点につきましては、今回の地域振興券事業で改善を図りたいと考えています。

以上でございます。

○議長（寺田公一君） 5番川村三千代君。

○5番（川村三千代君） 課長、御説明ありがとうございました。

私の質疑は以上といたします。ありがとうございます。

○議長（寺田公一君） 以上で、通告による質

疑は終了いたしました。

ほかに質疑はありませんか。

(「なし」という声あり)

○議長(寺田公一君) ほかに質疑がありませんので、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案のうち、「議案第1号から議案第4号まで」の4議案については、会議規則第37条第3項の規定により、委員会の付託を省略いたしたいと思います。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(寺田公一君) 御異議なしと認めます。

よって、「議案第1号から議案第4号まで」の4議案は、委員会の付託を省略することに決しました。

ただいま議題となっております「議案第5号から議案第11号まで」の7議案は、お手元に配付してあります議案付託表のとおり、それぞれの所管の委員会に付託いたします。

お諮りいたします。

議案等審査のため、6月16日、6月17日及び6月20日、6月21日は休会いたしたいと思います。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(寺田公一君) 御異議なしと認めます。

よって、6月16日、6月17日、6月20日、6月21日は休会することに決しました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

6月16日から6月21日までの6日間休会し、6月22日午前10時より再開いたします。

本日は、これにて散会いたします。

午前10時33分 散会

議案付託表

令和4年第2回定例会

付託委員会	議案番号	件名
<p>予算決算 常任委員会 (4件)</p>	<p>議案第5号 議案第6号 議案第7号 議案第8号</p>	<p>令和4年度宿毛市一般会計補正予算について 令和4年度宿毛市国民健康保険事業特別会計補正予算について 令和4年度宿毛市特別養護老人ホーム特別会計補正予算について 令和4年度宿毛市学校給食事業特別会計補正予算について</p>
<p>総務文教 常任委員会 (2件)</p>	<p>議案第9号 議案第10号</p>	<p>宿毛市津波避難タワーの設置及び管理に関する条例の制定について 宿毛市国民健康保険税条例の一部を改正する条例について</p>
<p>産業厚生 常任委員会 (1件)</p>	<p>議案第11号</p>	<p>宿毛市介護保険条例の一部を改正する条例について</p>

令和4年
第2回宿毛市議会定例会会議録第5号

1 議事日程

第16日（令和4年6月22日 水曜日）

午前10時 開議

第1 議案第1号から議案第11号まで

（議案第1号から議案第4号まで、討論、表決）

（議案第5号から議案第11号まで、委員長報告、質疑、討論、表決）

第2 委員会調査について

2 本日の会議に付した事件

日程第1 議案第1号から議案第11号まで

日程第2 委員会調査について

3 出席議員（13名）

1番 今城 隆 君	2番 堀 景 君
3番 三木 健正 君	4番 川田 栄子 君
5番 川村 三千代 君	7番 高倉 真弓 君
8番 山上 庄一 君	9番 山戸 寛 君
10番 岡崎 利久 君	11番 野々下 昌文 君
12番 松浦 英夫 君	13番 寺田 公一 君
14番 濱田 陸紀 君	

4 欠席議員

なし

5 事務局職員出席者

事務局 長	黒田 厚 君
次長兼庶務係長	奈良 和美 君
兼調査係長	
議事係長	桑原 美穂 君

6 出席要求による出席者

市 長	中平 富宏 君
副市長	岩本 昌彦 君
企画課長	上村 秀生 君

総務課長兼 選挙管理委員会事務局長	桑原	一	君
危機管理課長	有田	巧史	君
市民課長	岡本	武	君
税務課長	山岡	敏樹	君
会計管理者兼 会計課長	佐藤	恵介	君
健康推進課長	松田	まなみ	君
長寿政策課長補佐	田中	博幸	君
環境課長	谷本	和哉	君
人権推進課長	川村	志保	君
産業振興課長	岩本	敬二	君
商工観光課長	長山	敏昭	君
土木課長	澤田	英典	君
都市建設課長	小島	裕史	君
福祉事務所長	朝比奈	淳司	君
水道課長	川島	義之	君
教育長	鎌田	勇人	君
教育次長兼 学校教育課長	和田	克哉	君
生涯学習課長 兼宿毛文教 センター所長	中平	成也	君
学校給食 センター所長	平井	建一	君

----- . . . ----- . . . -----

午前10時01分 開議

○議長（寺田公一君） これより本日の会議を開きます。

この際、議長より報告いたします。

地方自治法第180条第2項の規定による市長の専決処分事項の報告につきましては、お手元に配付しているとおりであります。

日程第1「議案第1号から議案第11号まで」の11議案を一括議題といたします。

これより、議案第1号「固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて」、討論に入ります。

討論はありませんか。

（「なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 討論がありませんので、これにて討論を終結いたします。

お諮りいたします。

「議案第1号」は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 御異議なしと認めます。

よって、「議案第1号」は、これに同意することに決しました。

これより、議案第2号「人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて」討論に入ります。

討論はありませんか。

（「なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 討論がありませんので、これにて討論を終結いたします。

お諮りいたします。

「議案第2号」は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 御異議なしと認めます。

よって、「議案第2号」は、これに同意する

ことに決しました。

これより、議案第3号「人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて」討論に入ります。

討論はありませんか。

（「なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 討論がありませんので、これにて討論を終結いたします。

お諮りいたします。

「議案第3号」は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 御異議なしと認めます。

よって、「議案第3号」は、これに同意することに決しました。

これより、議案第4号「人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて」討論に入ります。

討論はありませんか。

（「なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 討論がありませんので、これにて討論を終結いたします。

お諮りいたします。

「議案第4号」は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 御異議なしと認めます。

よって、「議案第4号」は、これに同意することに決しました。

これより「議案第5号から議案第11号まで」の7議案について、委員長の報告を求めます。

予算決算常任委員長。

○予算決算常任委員長（川村三千代君）

おはようございます。予算決算常任委員長。ただいまから、本委員会に付託されました「議案第5号から議案第8号まで」の4議案について、審査の概要とその結果を御報告いたします。

議案の審査に当たりましては、効率的な審議を行うため、本委員会を2つの分科会に分け、6月16日、17日の2日間にわたり審議を行いました。

その後、6月21日に意見調整のための全体委員会を開催し、各分科会の主査の審議結果の報告と質疑を経て、意見調整を行った結果、本委員会に付託されました議案4件につきましては、原案を適当と認め、可決すべきものと決しました。

以下、分科会における主な審査概要について、御報告いたします。

まず、第1分科会主査より、次のような審査概要の報告がありました。

議案第5号別冊、令和4年度宿毛市一般会計補正予算（第2号）の12ページ。

第2款総務費、第1項総務管理費、15目防災対策費、12節委託料、津波避難タワー工損事後調査委託料774万4,000円についてであります。

本件は、避難タワーの建設工事に伴う地盤変動により生じた建物等の損傷に関する調査となっており、工事前に調査したタワー周辺の25棟の建物について、工事に伴い影響があると申し出があった世帯を対象に、工事前との変化を調査し、公平に判断するものであります。

なお、調査対象となっている25棟のうち、9棟から申出を受けております。

本件に対し、委員からは、申出のあった建物では、どのような被害が出ているのか、との質問があり、執行部からは、被害が確定しているものではなく、今後、事前の調査と比較して、どのような変化があるのか、公平に判断するため専門業者へ委託し、調査を行おうとするものである、との回答がありました。

続きまして、同じく12ページ、第2款総務費、第1項総務管理費、27目デジタル田園都

市国家構想推進交付金事業費、12節委託料のスーパーアプリ導入業務委託料649万円、及びデジタル支援活動等委託料、729万円についてであります。

本件は、岩手県紫波郡紫波町で既に運用されているスーパーアプリをモデルとして、宿毛市版スーパーアプリを導入しようとするものであります。

宿毛市版スーパーアプリは、市民が受けられるデジタルサービスを一括で掲載するものであり、既存の宿毛市防災アプリや、本事業で新たに実装する健康アプリや、オンライン診療、マイナンバーカードを用いてオンライン手続を可能にするマイナポータルなど、様々な行政のデジタルサービスを集約して、ナビゲートするものとなっております。

なお、本事業は、デジタル田園都市国家構想推進交付金や、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などを充当し、実質的に市の負担はないものとする予定となっております。

本件に対し、委員からは、事業期間は令和4年7月からとなっており、市民が活用する場合の支援を委託するとあるが、サポートの窓口はどこになるのか、との質問があり、執行部からは、企画課が窓口となり対応を行う、との回答がありました。

また、委員からは、オンラインで医療情報を共有することは、情報漏えいの可能性があると思うが、何らかの対応を考えているのか、との質問があり、執行部からは、個人情報データ上でやりとりされることになるため、はたまるねつとの改修と併せて、セキュリティー部分はしっかり指導していきたいと考えている、との回答がありました。

本件に関し、委員から、アプリ等の導入に当たっては、情報漏えいなど問題が起こる場合があるので、関係者が確かなセキュリティー対策

を意識した上で、業務に当たっていくよう努めてほしい。

また、新しい事業で手探りのところもあると思うが、広く様々な事例を見ながら、宿毛市にとって一番いい状況で運用していただけるように工夫すると共に、市民が十分活用できるように支援を行っていただきたい、との意見がありました。

続きまして、議案第6号別冊、令和4年度宿毛市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）の8ページ。

第2款保険給付費、第6項傷病手当金、1目傷病手当金、18節負担金補助及び交付金、傷病手当金50万円についてであります。

本件は、国保被保険者の中で、被用者、つまり給与の支払いを受けている者に限り、新型コロナウイルス感染症に感染した、もしくは、発熱等の症状があり、感染が疑われたことにより、労務に服することができない者を対象とし、支給するものであります。

本件に対し、委員からは、対象人数はどれくらいを想定しているのか、との質問があり、執行部からは、想定は難しいが、昨年度までの実績は2件となっており、金額は約6万8,000円である、との回答がありました。

また、委員からは、利用が少ないと感じるが、周知しているのかとの質問があり、執行部からは、改めて来月号の広報において、本制度を周知する予定である、との回答がありました。

次に、第2分科会主査より、次のような審査概要の報告がありました。

議案第5号別冊、令和4年度宿毛市一般会計補正予算（第2号）の13ページ。

第2款総務費、第1項総務管理費、27目デジタル田園都市国家構想推進交付金事業費、18節負担金補助及び交付金、宿毛市地方デジタル基盤整備事業補助金7,785万円について、

御報告いたします。

本件は、第1分科会の報告にも含まれておりましたが、岩手県紫波郡紫波町で既に運用されているスーパーアプリをモデルとして、宿毛市版スーパーアプリを導入するものであります。

宿毛市版スーパーアプリは、市民が受けられるデジタルサービスを一括掲載するものとなっており、様々な行政デジタルサービスを集約して、ナビゲートするものとなっております。

スーパーアプリで新たに実装する健康アプリについては、幡多地域で既に運用がされている医療・介護情報連携システム、はたまるねっとと連携をすることにより、医療機関等の処方や、検査結果などの医療データを参照でき、また処方や検査データは一定期間の履歴がアプリ内に保存されるため、大規模災害時に起こり得るオフライン環境下でも、参照が可能となっております。

この事業では、はたまるねっとの改修により、特別なアプリをダウンロードすることなく、オンライン診療を利用できる環境の構築を行う予定であります。

なお、本事業の財源として、デジタル田園都市国家構想推進交付金や、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などを活用し、実質的に市の負担はないと予定しております。

委員からは、このサービスを受けるに当たり、市民が行う作業としては何が必要になるのか、との質問があり、執行部からは、スーパーアプリをダウンロードすることで、既存の宿毛市防災アプリや健康アプリが一括掲載される。また健康アプリは、はたまるねっとの改修により、新たな機能が実装される予定である。はたまるねっとは、医療機関、介護施設などで情報連携のシステムが既に構築されており、書面で同意をもらう運用をしているため、はたまるねっとに加入していない方は、まず医療機関等ではた

まるねつとに登録、同意することが必要になってくる、との回答がありました。

また、委員からはマイナンバーカードを取得し、はたまるねつとに登録するののかとの質問に対し、執行部からは、マイナンバーカードの連携と、はたまるねつとに登録は別で、マイナンバーカードとはたまるねつとのひもづけは義務ではない。分かりづらいと思うので、できればスーパーアプリ、健康アプリ、マイナンバーカード等、一括で利用促進したいと考えている。

アプリをダウンロードしてもらうことを、市民に周知していく方向で考えている、との回答がありました。

これに対し、委員からは、スマホを持っていない方や、持っても機能を使いこなせていない方などもいる。スーパーアプリを実施しても、利用できる環境が必要だと考える。

また、このスーパーアプリの活用において、窓口を設けるなど、利便性を享受する体制を構築できるようにしていただきたい、との意見がありました。

続いて、13ページ。

第3款民生費、第1項社会福祉費、6目介護保険費、18節負担金補助及び交付金、介護人材定着支援金291万4,000円についてであります。

本予算は、新型コロナウイルスの感染拡大により、介護事業所においても、感染対策などの負担が非常に増大していることから、離職に至るケースも散見されており、介護事業所が継続して運営ができることを目的として、支援金を支給するものであります。

介護人材定着支援金の事業は、2種類あり、まず、1点目は、新たなヘルパー確保を行うために、常勤雇用に対しては10万円、非常勤雇用に対しては、5万円をそれぞれ支給するものです。

そして、2点目は、在宅介護のケアプランを作成するケアマネジャーに対しては、既に実施している就業時の支援金に加え、在籍するケアマネジャー1名につき、毎月9,000円を8カ月間支給するものであります。

委員からは、この支援金額で人材の定着が見込めるのか。もう少し手当が厚ければ、もっと定着につながるのではないかと、との意見があり、執行部からは、ケアマネジャーがこれで定着につながるかどうかと言われれば、なかなか厳しい面もあり、執行部内でも、類似の意見があった。介護職の離職対策や定着に向けて、この事業のみでは追いつかない部分もある。

今後は、県の補助金事業等を活用して、移住者の呼び込みや、メンタルヘルス等も含め、併せて検討していきたい、との答弁がありました。

続いて、14ページ。

第4款衛生費、第1項保健衛生費、2目予防費、1,957万円についてであります。

本予算は、新型コロナウイルスワクチンの4回目接種等の実施に伴う補正予算であります。

歳出の主な内容は、接種に係る報償費や委託料、システム改修費や接種券の発行委託料となっております。

なお、この事業の費用に関しては、国から全額補助される予定となっております。

委員からは、4回目のワクチン接種について、接種券を送付する際に、接種できる医療機関や場所を明記すると思うが、今回は、フジ宿毛店が会場ではないことを記載するなど、市民に分かりやすく周知していただきたい。

また、新庁舎が会場となるが、具体的にどの場所になるのか、との意見や質問があり、それに対し、執行部からは、市役所新庁舎1階にある市民ロビーで行うようにしている。高齢者が2階、3階に上がって接種するには、体にも負担がかかるため、ロビーを利用して、土日のみ

行う計画としている、との回答がありました。

続いて、20ページ。

第10款災害復旧費、第1項農林水産施設災害復旧費、3目過年度農業施設災害復旧費、21節補償補填及び賠償金、高石地区（橋梁）損害賠償金861万2,000円についてであります。

本予算は、令和3年7月18日の集中豪雨により、高石地区の災害復旧工事において、仮栈橋の損傷、及び覆工板流出や仮設ヤードの土砂流出により、被害が出たことによる損害賠償金であります。

18日に記録した時間最大77ミリの雨量は、既設護岸を越流して、低内地の農地全面が浸水に至るほどの集中豪雨であり、前後の雨量と比較しても、突発的な雨量であったことから、建設工事請負契約書第30条、不可抗力による損害を適用し、損害費用の一部を負担しようとするものであります。

委員からは、田畑に被害が起きたことによる補償なのか、との質問があり、執行部からは、橋梁自体は既に完成しており、その工事の途中で川を渡るための仮栈橋をつけていたが、7月18日の雨によって、仮栈橋の覆工板が流れたり、鋼橋に木材がぶつかって損傷したことは、業者の責ではないと判断した。

これらに対する費用についての損害補償は、業者に対して支払われるものである、との答弁がありました。

以上で、本委員会に付託されました4議案についての審査結果の報告を終わります。

○議長（寺田公一君） 総務文教常任委員長。

○総務文教常任委員長（岡崎利久君） 総務文教常任委員長、本委員会に付託されました2議案の審査結果の御報告をいたします。

議案第9号は、宿毛市津波避難タワーの設置及び管理に関する条例の制定についてござい

ます。

内容につきましては、三浦公園及び駅前公園に整備している2基の津波避難タワーの設置及び管理に関する条例を、地方自治法第244条の2第1項に基づき、制定しようとするものでございます。

なお、2基のタワーは、本年7月中に引き渡しとなり、8月から使用できる予定となっております。

本件に対し、委員からは、三浦公園の津波避難タワーは、平常時には施錠していると説明があったが、大きな揺れを感知したら自動的に開錠するというシステムは導入していないのかとの質問があり、執行部からは、非常時については、地震以外も想定できるため、階段とスロープ入口の一部を手で割り、そこから鍵を開けるというものにしている。

なお、タワーに設置する備蓄倉庫は、一定の振動を感知した場合、鍵が開くものとなっているとの答弁がありました。

また、委員からは、地域活性化のための行事等に使用する場合に限り、市長の許可を受けて使用することができるとの条文があるが、どういことを想定しているのかとの質問があり、執行部からは、四万十市では、津波避難タワーでイベントを実施している。また、地域の交流会のような形で使うことも想定されると考えている、との答弁がありました。

本件に対し、委員からは、避難を考えたときに、タワーを使い慣れていないと、いざ深夜に避難するとなっても、難しい可能性が高いので、市民の皆さんにはいろんな形で利用してもらい、上ることに慣れていただけるような方策を考えていただきたいとの意見がありました。

議案第10号は、宿毛市国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてでございます。

内容につきましては、昨年度に引き続き、新

型コロナウイルス感染症の影響により、一定程度、収入が減少した被保険者に対し、国民健康保険税の減免を行うために、本条例の一部を改正しようとするものです。

なお、減免の対象については、これまで令和2年2月1日から令和4年3月31日までの納期限を迎える国民健康保険税を対象としていましたが、これを1年間延長し、令和5年3月31日までの納期限を迎える国民健康保険税を新たに対象とするものでございます。

以上2議案につきましては、担当課から詳しい説明を受ける中で、慎重に審査した結果、いずれも原案を適当であると認め、全会一致で可決すべきものと決しました。

以上で、本委員会に付託されました議案2件についての御報告を終わります。

○議長（寺田公一君） 産業厚生常任委員長。

○産業厚生常任委員長（三木健正君） 産業厚生常任委員長、本委員会に付託されました議案1件について、審査結果を報告いたします。

議案第11号は、宿毛市介護保険条例の一部を改正する条例についてでございます。

内容につきましては、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、一定程度、収入が減少した被保険者に対して、介護保険料の減免を行うために、本条例の一部を改正しようとするものです。

以上の議案につきましては、担当課からの詳しい説明を受け、慎重に審査した結果、全会一致をもって可決すべきものと決しました。

以上、本委員会に付託されました議案1件についての報告を終わります。

○議長（寺田公一君） 以上で、委員長の報告は終わりました。

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

質疑はありますか。

（「なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 格別質疑がありませんので、これにて質疑を終結いたします。

これより「議案第5号」について、討論に入ります。

討論の通告がありますので、順次、発言を許します。

4番、川田栄子君。

○4番（川田栄子君） 私は、議案第5号別冊、令和4年度一般会計補正予算（第2号）、新型コロナウイルスワクチン接種関連の1、957万円の予算に対し、反対の立場で討論をいたします。

この予算は、新型コロナワクチン接種4回目が5月25日から開始となり、ワクチン接種に備える予算であります。

国は、接種による死亡者が出たら、約4,000万円の補償をする。2回接種すれば、マスクも外出も自由にできる、感染予防もできる。自分のため、大切な人のために接種を推奨してきましたが、感染は止まらないと4回目接種を推奨しています。

しかし、ワクチンを作っている現場の方は、ワクチンを繰り返し打つことは危険である、これは常識と言っています。

ワクチンが怖いのは、外に見えなくても、体の中で何が起きているか分かりません。そのとき、二、三年後に何が起きるか分からない。2009年の子宮頸がんワクチンの例からも分かります。

いまだにすさまじい不随反応に、本人はもちろん、家族の苦しみの日々を過ごしておられません。辛くて耐えられません。ワクチンさえ打たなかったら、こんなことにならなかったでしょう。

口から入れたものは、その後、排せつされますが、血中に入ったら出ることはありません。

コロナワクチンも同じです。

国は、6回目までワクチンを買っています。2020年12月に特例承認されて以来、厚生労働省、2022年5月11日発表では、接種回数、ファイザー、2億1,141万7,294回。モデルナ、6,322万3,453回。死亡者、1,711件、重篤者、6,300人となっています。

死亡者は接種当日、翌日、翌々日が七、八割に及ぶと、データが出ているにもかかわらず、ワクチンとの因果関係は1件も認められていません。これは異常です。

3回目接種で発熱して、二、三日動けなかった。体がずっとだるい。帯状疱疹が出た。足が痛むなど、これらの医師の診断情報から、全国的に増えている状況です。

帯状疱疹など、年に数人だったが、とても多いと言っています。接種による副反応で苦しむ方が後を絶ちません。

今回のワクチンは、治験中です。動物ではなく、人を使った人体実験です。治験中は安全性も有効性も毒性も分かりません。ワクチンが生殖機能に影響を与えるという明確な証拠が出ています。

精子の数を減少、自己免疫疾患は増加するなど、厚労省報告で、今、1,291種類があがっています。

がんのリスクを増加させる論文が、2022年2月25日、スウェーデン発表がありました。わずか6時間でヒト肝細胞の核に入る。そうなると、体はどうなるかです。

遺伝子を血中に入れると、B型肝炎の方は、要注意と言われています。体に入ったスパイクたんぱくは、毒スパイクを作り続け遺伝子を改変させるので、世代を超えて継続的に作られていきます。

子供たちの実態の危機管理を持ってすると、

接種について、必要かどうか分かります。

また、ファイザーは、12歳未満の臨床試験はしていないとあります。これは表記すべきです。自分の遺伝子が書き換えられるという、大きな局面であります。

毎年、大多数が罹患するインフルエンザワクチンで死亡している方は、2020年には3人の死亡者、副反応は277人。2019年は5人の死亡者、副反応は211人。2018年、3人の死亡者、副反応は250人。2017年、10人の死亡者、副反応、293人。2016年、6人の死亡者、副反応、244人。過去5年のインフルエンザワクチンの有害事象の状況であります。

コロナワクチン副反応は、インフルエンザワクチンの300倍、死亡者は400倍、コロナワクチン副反応リスクが高く、厚労省が発表した死亡者は、これだけいるのに全く報道されない、これも異様な状況です。

報告されてないものも、たくさんあると聞いています。真実が語られていない。特に子供は、接種を何とかとどまってくれと、全自治体に全国有志医師の会、1,000人を超える医師が訴えています。よほど気持ちがないと、こんなことはやらないでしょう。当市にも届いているはずです。国が言うからではなく、よく調べてください。

厚労省に公開質問状を出された方がいます。新型コロナウイルスは、本当に証明されているか。答えは、ウイルスの存在確認は証明されていません。47都道府県に公開質問状を出すと、47都道府県全て、ウイルスの存在は確認証明されていません、という同じ文書が返ってきます。

存在証明ができないものを、なぜワクチンが作られるか、と思うのがまず一番です。

存在確認ができないこと自体が、ワクチンを

つくる能力がありません。もともになる病原体のウイルスの特定がしっかりしていないと、何を標的にしているか、根本を問われかねない問題です。

では、今のワクチン、何でできているか。コンピューターで解析してつくられたmRNAという人工的な、病気治療的な拡散。ワクチンの中に酸化グラフェンがあると、事実が証明されています。

血中にある酸化グラフェンが血球を破壊するから、血液がどろどろになり、やがて血腫になると分かっています。

多くの理由が分かっているのに、なぜ打つでしょう。政府の目的はどこにあるのでしょうか。どうして何も無いのに、打てというのか。コビット19というウイルスはいない、だから存在証明できないというのに、PCR検査をするように脅かしてきました。

しかも、最も高い45サイクル値であります。WHOが奨励しているのは、25サイクルで、この45サイクルというのは、25サイクルの1万倍にも相当するという結果ですので、ほとんど擬陽性が出ています。

また、全国の医師のもとへ、インフルエンザのキットは使うなど、文書が来ています。全てPCR検査でやるということ。これも異常です。

ワクチン科学者が、コロナワクチンを打つなと叫びましたが、世の中は一切、無視しました。情報から全て消えました。

政府は、ワクチンを打つことを目標にした、ここに厚労省への質問と応答があります。

厚労省へ質問。健康な人が接種後、感染を予防するどころか、死んでいるのはなぜでしょう。なぜやめないか。

厚労省の応答は、ワクチン接種は感染を予防するものではない。接種は、情報を収集するもの、全国に配付した接種期限が、2022年2

月28日までであるので使える。

死亡や重篤者の情報収集に協力してもらう期限までやる。感染規模は明らかになっていないと、配付した接種券の説明書に記載がある。

厚労省は、接種された方は協力者という認識です、とあります。全くおかしいと、市民が気づく内容です。

さらに驚くのは、2019年9月18日、武漢で、その1カ月後、10月18日、ニューヨークで、世界経済フォーラム財団が世界各国の政府の厚労関係者、大手製薬会社を集めて、新型コロナウイルス感染症が来年はやるから、と今回の動きそっくりの経過報告とシミュレーションを行い、既に相談会で「コビット19」と名称がついていました。

世界で今の状態と全く同じ状況でやると、文書も残っています。

政府要人は、今、何が起きているか、全てを知っています。感染問題は、政治問題で別に大きな問題があるということでしょう。

安倍総理は退任する直前、4月27日、田原総一郎との対談で、第3次世界大戦は核戦争と思ったが、感染症との戦いで、今、第3次大戦中と、はっきり言っています。

菅総理は、3月23日、記者の質問、感染者の数について、どのように分析しているかについてお聞きいたしました。

菅総理は、きょうの数字は皆さん御承知と思うが、人口が減少している、そうした効果は出始めているのではないか。コロナ騒動の真の目的を思わずしゃべったのではないかと思われるます。

国会議員は、接種しなくてもよいと、法律が通過していますが、10%の方は接種したらしいと、話が入っています。

ロシア公共放送は、日本のNHKに当たりませんが、新型コロナワクチンは、人口削減に使用

するとしている、気をつけろ。ウクライナの生物兵器を出すよりも早く、ロシア公共放送は発表しています。

ブラジルの大統領も、同様の発信をしていることは確認されています。

日本はなぜそうならないのでしょうか。今、起きていることは、世界的犯罪であります。

今、何も起こっていないと思うでしょうが、ニュルンベルク裁判が始まろうとしています。戦後、東京裁判と同じ、ドイツで起こった、それが新しくなった裁判で、10万2,000人の弁護士、6,000人の研究者で証言をして、ワクチンを打った人、勧めた人、政治家、打った医師、看護師などに、裁判をしようとする可能性の動きが始まっているので、裁判が始まるのは時間の問題です。

厚労省によるデータ改ざん問題がありました。名古屋大学名誉教授、小島教授でしたか、海外との乖離があると指摘され、国会議員を通じて、国会でも審議された問題です。

接種日不明の接種者が未接種者に扱われ、未接種者が感染を増やしていると、恐怖と不安を与え、接種勧奨が勧められました。

個人で接種を判断していく大事な指標であります。しかし、指摘後、4月11日から未接種者のデータが逆転し、接種者は接種歴不明に分類されず接種している人に入れると、接種者がより感染しているとなり、海外で問題になっている状態と日本の評価がほぼ同じになったことに、トリックがあったのではないかと、現実が見受けられました。

接種が先行しているイスラエルは、4回目は接種、ほぼ終わっています。接種するほど感染爆発、死者が増加している状態です。ワクチンは何度も打つと感染爆発すると、世界が証明していることです。日本はそれを追いかけている状態なので、気をつけることです。

予防接種法第2条では、疾病の予防に有効であることが確認されたワクチンを、人体に接種することを予防接種法で認可しています。そういう意味では、予防に有効であるかないか、法律上、成立するか、大きな案件になっていきます。

基本的に、法律の規範という根底のみは、国がいうからする、予算がつくからやらなくてはならないではなく、基礎自治体は最後の砦です。一体、今、何が起きているか、これで本当に正しいか、しっかりチェックして、市民の命を守っていく、それが公僕の最も大切な姿と私は思います。

予防効果から重症化予防に、接種する目的を言い換えて、言い換えて、今日まできていると思います。本当によく考えていただきたい。

当初、ワクチンさえ接種すれば感染が予防される。その状況がどんどん崩れて、2回やっても3回やっても、今度は4回目に入って行く。一体どこまでやるんだと言いたくなる。その視点を持って、しっかり考えて、いま一度、市民の安全安心、命を優先させていく気持ちがなければならないと思います。

また、異物混入ということで死者を出しましたが止まりません。このワクチンは、何か変だと考えない自分がおかしい。自分自身の思いを疑うことが大事です。

コロナワクチン以外で、薬事承認後に有効期限が延長になることなど、今までにあったでしょうか。厚労省に問い合わせても、きちんとした回答はありません。あれば、すぐ回答はあるはずですが。めったにないことです。

製薬会社の言うことをうのみにして、有効期限を改変するなど、ちょっと調べただけでもありません。

2009年に(A/H1N1)豚インフルエンザでも、今と全く同じことが起こって、日本

は海外から輸入したワクチン214億円を期限切れで1本も打たず廃棄しました。

喫緊では、ナイジェリアは欧米からプレゼントされたワクチン、100万回分を2021年11月23日、全量廃棄いたしました。期限切れは基本、人間に打ってはいけないのが今までのセオリーでした。

ワクチン公衆衛生の中で、最も気をつけなければならないのは、被害があってはならない、人の体を傷つけてはならないという、細心の思いで進めていくことが本来の姿であると考えます。

超過死亡の人口動態統計、厚労省発表、3月分が出ました。

令和3年2月、1万9,490人の増加です。令和4年3月、1万5,992人の増加です。1カ月でこれだけです。2021年は全体の1年で6万7,745人の超過死亡で戦後最多でしたが、2022年はこれをさらに超えることは間違いなさそうです。

交接種の問題も、ファイザー、モデルナ添付書に他の物を接種した場合、有効性、安全性は確立されていないとあります。そこが規準です。つくってもない人たちが、安全だと言っているのは、おかしい。その結果、多くの犠牲者が出ました。死亡者もたくさん出て、若い方も亡くなっています。

公衆衛生行政では、健康な人を害してはならない、この基本に立ち返るべきです。

また、献血についても、ファイザー、モデルナは48時間後、アストラゼネカは6週間後から可能としていますが、献血もよく考えていけないといけません。

海外では、コロナの治療にこの献血を使っているといけません、赤十字では発表しています。今、臨床試験の継続中で、第3層試験中です。普通なら臨床試験の観察期間が終了するまでは、献

血など絶対駄目で、やったことはありません。なぜ危険なのか、詳細に書かれています。

ワクチン由来のスパイクたんぱくが、生成される中に抗体が含まれる。また、有害物質が見受けられるとあり、添付資料に、受血者に健康被害が危惧される。輸血はできませんと言っています。

血液製剤のリスクがある現状なので、気をつけなければなりません。気づかなければ郭清はしません。

子供については、親の責任があります。将来、子供たちから責められないように、未来の子供たちのために、後悔することのない人生のために、真実を知っていない人に気づかすことは、私たちの使命と考えます。

コロナウイルス感染に影響が少ない子供たちに、体に悪いワクチン接種を推奨する、マスクは感染予防するなら、その根拠、エビデンスを出してと、国立感染研究所、厚労省に問い合わせても、感染予防する根拠はないと回答。

感染対策があるといって、既に3年目になる子供たちに、マスクを強制させている教育は、子供たちのことを本当に考えていると言えますか。あくまでも任意であって、義務でもないのに、人権を無視した状況に多くの子供たち、父兄も悩んでいます。誰かが犠牲になれば終わりますか。このことが重要です。

ワクチンは体によくない、マスクで酸素濃度が下がって、体を弱らせる。アルコールは免疫を弱らせる。子供たちが不安なく、健やかに育つ環境づくりといえますか。

体内に取り込む毒、体内を弱らせる毒、情報という毒、この毒を解毒したら目覚めます。

未来の子供たちを守ってください。大人が気づかないと子供は守れません。

一定の選択をせざるを得ないなら、きちんとメリット、デメリットを出すべき。選択を誤ら

ないように、真実を伝えていくことが重要です。

このワクチンは、動物実験の経過観察もしていません。しかも、こんなに大量に、世界初です。何が起こるか分からない。接種された方は、自分の健康管理について、メモをしておいたほうがよいと思います。

4回目の接種ということですので、3回目の接種後の展開がどのような状況か、見て取れる状態です。市民にこれらの情報をお知らせし、市民の安心安全を提供し、命をどう守っていくか、そのことが接種を進めることより大切と考えます。

今していることは、本当に正しいでしょうか。こんなおかしいことはないほどおかしい。このまま4回接種を進めることはできません。

このほか、いろいろ問題点がありますが、主な点について申し上げまして、反対討論を終わります。

○議長（寺田公一君） 暫時休憩いたします。

午前10時47分 休憩

----- . . ----- . . -----

午前11時20分 再開

○議長（寺田公一君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

討論を続行いたします。

4番川田栄子君。

○4番（川田栄子君） ただいま、私の討論は、第5号議案に反対する立場で討論を行いました。

このことをつけ加えさせていただきます。

○議長（寺田公一君） 10番岡崎利久君。

○10番（岡崎利久君） 10番、私は議案第5号別冊、令和4年度宿毛市一般会計補正予算（第2号）に、賛成の立場から討論をいたしたいと思います。

本議案につきましては、本議会での質疑や予算決算常任委員会を通じて、慎重に審査をしてみたいと思います。

その結果、最近の物価高騰に苦しむ市民の負担軽減を図るためのコロナ対策、地域振興券事業や、学校給食費の負担軽減事業、さらには行政や医療のデジタル化を推進するためのデジタルヘルスケアによるまちづくり事業など、いずれも市政発展のために必要不可欠な事業であると考え、賛成すべきとの判断に至っております。

先ほどの反対討論にありましたコロナワクチン接種事業につきましては、ワクチンの速やかな接種を推進し、新型コロナから高齢者や基礎疾患を有する市民の健康を守り、一日も早い脱コロナ社会の実現を図る上で、非常に重要な事業であると考えております。

以上、同僚議員に対し、適切な御判断を求め、私の賛成討論を終わります。

○議長（寺田公一君） 以上で、通告による討論は終わりました。

ほかに討論はありませんか。

（「なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） ほかに討論がありませんので、これにて討論を終結いたします。

これより「議案第5号」について、電子表決により採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は、委員長の報告のとおり可決することについて、賛成または反対のボタンをお押し願います。

（電子表決）

○議長（寺田公一君） 表決漏れはありませんか。

（「なし」という声あり）

○議長（寺田公一君） 表決漏れなしと認め、確定いたします。

賛成11人、反対1人で、賛成多数であります。

よって「議案第5号」は、原案のとおり可決されました。

これより、「議案第6号から議案第11号まで」の6議案について、討論に入ります。

討論はありませんか。

(「なし」という声あり)

○議長(寺田公一君) 討論がありませんので、これにて討論を終結いたします。

これより、「議案第6号から議案第11号まで」の6議案を電子表決により一括採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は、委員長の報告のとおり可決することについて、賛成または反対のボタンをお押し願います。

(電子表決)

○議長(寺田公一君) 表決漏れはありませんか。

(「なし」という声あり)

○議長(寺田公一君) 表決漏れなしと認め、確定いたします。

全員賛成であります。

よって「議案第6号から議案第11号まで」の6議案は、原案のとおり可決されました。

日程第2「委員会調査について」を議題といたします。

各常任委員長及び議会運営委員長から、目下委員会において調査中の事件については、会議規則第111条の規定により、お手元に配付いたしました申出書のとおり、閉会中の継続調査の申出があります。

お諮りいたします。

委員長から申出のとおり、閉会中の継続調査に付することに御異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(寺田公一君) 御異議なしと認めます。

よって、委員長から申出のとおり、閉会中の継続調査に付することに決しました。

以上で、今期定例会の日程は全て議了いたし

ました。

閉会に当たり、市長から挨拶の申出がありますので、発言を許します。

市長。

○市長(中平富宏君) 閉会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

去る6月7日に開会をいたしました今期定例会は、本日までの16日間、議員の皆様におかれましては、連日、熱心に御審議いただき、御提案申し上げました11議案につきまして、原案のとおり御決定をいただき、誠にありがとうございました。

今議会を通じましてお寄せいただきました数々の貴重な御意見や御提言につきましては、今後さらに検討をいたしながら、市政の執行に反映させてまいりたいと考えております。

これから暑い季節を迎えますので、どうか健康に御留意されまして、より一層の御活躍をさりますことを御祈念申し上げまして、閉会の御挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

○議長(寺田公一君) 以上で、市長の挨拶は終わりました。

これにて、令和4年第2回宿毛市議会定例会を閉会いたします。

午前11時29分 閉会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

宿毛市議会議長 寺田公一

宿毛市議会副議長 高倉真弓

議員 三木健正

議員 川田栄子

令和4年6月21日

宿毛市議会議長 寺 田 公 一 殿

予算決算常任委員長 川 村 三千代

委員会審査報告書

本委員会に付託の事件は、審査の結果下記のとおり決定したので、会議規則第110条の規定により報告します。

記

事件の番号	件名	審査結果	理由
議案第 5号	令和4年度宿毛市一般会計補正予算について	原案可決	適 当
議案第 6号	令和4年度宿毛市国民健康保険事業特別会計補正予算について	原案可決	適 当
議案第 7号	令和4年度宿毛市特別養護老人ホーム特別会計補正予算について	原案可決	適 当
議案第 8号	令和4年度宿毛市学校給食事業特別会計補正予算について	原案可決	適 当

令和4年6月16日

宿毛市議会議長 寺 田 公 一 殿

総務文教常任委員長 岡 崎 利 久

委員会審査報告書

本委員会に付託の事件は、審査の結果下記のとおり決定したので、会議規則第110条の規定により報告します。

記

事件の番号	件名	審査結果	理由
議案第 9 号	宿毛市津波避難タワーの設置及び管理に関する条例の制定について	原案可決	適 当
議案第 10 号	宿毛市国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	原案可決	適 当

令和4年6月17日

宿毛市議会議長 寺 田 公 一 殿

産業厚生常任委員長 三 木 健 正

委員会審査報告書

本委員会に付託の事件は、審査の結果下記のとおり決定したので、会議規則第110条の規定により報告します。

記

事件の番号	件 名	審査結果	理 由
議案第11号	宿毛市介護保険条例の一部を改正する条例について	原案可決	適 当

令和4年6月16日

宿毛市議会議長 寺 田 公 一 殿

総務文教常任委員長 岡 崎 利 久

閉会中の継続調査申出書

本委員会は、下記により閉会中もなお継続調査を要するものと決定したので、会議規則第111条の規定により申し出ます。

記

- 1 事 件
 - (1) 総合計画の策定状況について
 - (2) 行政機構の状況について
 - (3) 財政の運営状況について
 - (4) 公有財産の管理状況について
 - (5) 市税等の徴収体制について
 - (6) 地域防災計画について
 - (7) 教育問題について
- 2 理 由 議案審査の参考とするため

令和4年6月17日

宿毛市議会議長 寺 田 公 一 殿

産業厚生常任委員長 三 木 健 正

閉会中の継続調査申出書

本委員会は、下記により閉会中もなお継続調査を要するものと決定したので、会議規則第111条の規定により申し出ます。

記

- 1 事 件
 - (1) 農林水産業の振興対策状況について
 - (2) 商工業の活性化対策状況について
 - (3) 観光産業の振興対策状況について
 - (4) 市道の管理状況について
 - (5) 環境、保健衛生の整備状況について
 - (6) 下水道事業の運営管理状況について
 - (7) 保育施設の管理状況について
 - (8) 介護保険制度について
- 2 理 由 議案審査の参考とするため

令和4年6月21日

宿毛市議会議長 寺 田 公 一 殿

議会運営委員長 野々下 昌 文

閉会中の継続調査申出書

本委員会は、下記により閉会中もなお継続調査を要するものと決定したので、会議規則第111条の規定により申し出ます。

記

- 1 事 件 (1) 議会の運営に関する事項
 (2) 議会の会議規則、委員会に関する条例等に関する事項
 (3) 議長の諮問に関する事項
- 2 理 由 議会運営を効率的かつ円滑に行うため

一 般 質 問 通 告 表

令和4年第2回定例会

質問 順位	質問議員	質 問 の 要 旨
1	12番 松浦英夫君	<p>1 中山間地域の対策について（市長）</p> <p>(1) 憲法25条についての認識について</p> <p>(2) 健康で文化的な最低限度の生活について</p> <p>(3) 集落实態調査について</p> <p>(4) 中間報告の内容と受け止めについて</p> <p>(5) 今後の行政施策について</p> <p>(6) 離島等のし尿処理対策について</p> <p>(7) 沖の島開発促進協議会の陳情について</p> <p>(8) 延長ホース作業の実態把握について</p> <p>(9) 対策会議の在り方について</p> <p>(10) 住民や収集業者対策について</p> <p>2 文化財の保護行政について（教育長）</p> <p>(1) 調査活動に参加しての感想について</p> <p>(2) 今後の取組について</p>
2	11番 野々下昌文君	<p>1 給食センター建設事業について（市長）</p> <p>(1) 資源・資材の高騰する中での現状認識と実施設計について</p> <p>2 原油価格・物価高騰など総合緊急対策について（市長）</p> <p>(1) 生活困窮者支援策について</p> <p>ア 低所得の子育て世帯に対する給付金の対象者数について</p> <p>イ 住民税非課税世帯等に対する給付金の未申請世帯への令和4年度課税情報を活用した給付金対象者数について</p> <p>(2) 地方創生臨時交付金の活用について（市長、教育長）</p> <p>ア コロナ対策地域振興券事業・給食材料費高騰対応分に充てた理由、事業内容について</p> <p>イ 給食費に充てる期間・物価高騰が続く場合の給食費について</p> <p>3 マイナポイント第2弾について（市長）</p> <p>(1) 事業内容とポイント取得の手続について</p> <p>(2) マイナンバーカード、マイナポイントの申請・申込期限について</p>

		<p>(3) 申請に対する高齢者へのサポートについて</p> <p>(4) 医療機関の取組状況と今後の見込みについて</p> <p>4 デジタル×ヘルスケアによるまちづくり事業について (市長)</p> <p>(1) 急激なデジタル化に対する高齢者対策について</p> <p>(2) 市内医療機関との連携について</p> <p>5 がん対策の取組について (市長)</p> <p>(1) アピアランスケアの支援について</p>
3	7番 高倉真弓君	<p>1 希望ヶ丘関連検証について (市長)</p> <p>(1) 県道からの進入道路について</p> <p>(2) 庁舎東側一般来客駐車場について</p> <p>(3) 庁舎内の不備がないかについて</p> <p>(4) きぼうが丘保育園の不備がないかについて</p> <p>(5) 隣接建築予定の国、県関連施設の現況と安全対策について</p> <p>2 名誉市民元豊ノ島関の顕彰について (市長)</p> <p>(1) 名誉市民並びに断髪式について</p> <p>(2) 井筒親方の今後の活動と豊ノ島杯について</p> <p>3 コロナにおけるイベント活動について (市長、教育長)</p> <p>(1) 産業祭、宿毛マラソンの状況について</p> <p>4 令和3年民法・不動産登記法改正について (市長)</p> <p>(1) 改正内容について</p>
4	3番 三木健正君	<p>1 宿毛市キッチンカー等導入支援事業補助金について (市長)</p> <p>(1) 支援金の申請状況について</p> <p>ア 制度の内容確認について</p> <p>イ 現在の申請及び申請予定件数について</p> <p>ウ 申請の内容について</p> <p>(2) 補助事業の今後について</p>

		<p>2 ポストコロナを見据えた市内事業者支援について（市長）</p> <p>(1) 市内事業者の現状について</p> <p>(2) 今後の支援策について</p> <p>3 地方創生テレワーク交付金活用による企業誘致と移住促進について（市長）</p> <p>(1) これまでの移住定住促進事業の実績について</p> <p>(2) 地方創生テレワーク交付金活用について</p> <p>ア テレワーク交付金に対する宿毛市の現況について</p> <p>イ 地方創生テレワーク推進のメリットについて</p> <p>ウ 地方創生テレワーク推進の課題について</p> <p>(3) 今後の活用に向けた取組について</p>
5	1 番 今城 隆君	<p>1 原子力災害への対応について（市長）</p> <p>(1) 予想しうる被害について</p> <p>(2) プルーム到達前の対応について</p> <p>(3) プルーム到達後の対応について</p> <p>(4) 核による破壊的結末を避けるために</p> <p>2 戦争遺跡の保存と活用について（教育長）</p> <p>(1) 県がピックアップした戦争遺跡の保存のあり方について</p> <p>(2) 戦争遺跡の活用と維持管理について</p> <p>3 市庁舎等の高台移転に伴い、寄せられた要望等について（市長）</p> <p>(1) 市に寄せられた要望等について</p> <p>(2) 託された要望について</p> <p>ア 交通手段を持ってない高齢者からの相談について</p> <p>イ 保育園の貯水池側のフェンスが低いことについて</p>
6	10 番 岡崎利久君	<p>1 移住対策について（市長）</p> <p>(1) コロナ禍の移住対策について</p> <p>(2) 令和2年度・令和3年度の移住者数について</p> <p>(3) 移住者向け補助金の実施状況について</p>

		<p>2 荒瀬山森林公園の整備について（市長）</p> <p>(1) 荒瀬山森林公園の整備について</p> <p>(2) 小学生と早稲田大学の連携について</p> <p>(3) 市民との連携について</p> <p>3 事前復興まちづくり計画について（市長）</p> <p>(1) 復興基本方針（案）作成の構成メンバーについて</p> <p>(2) 復興基本方針（案）作成の時期について</p> <p>(3) 検討会のメンバー構成並びに住民の参画する地区の選定について</p> <p>(4) いつまでに、宿毛市事前復興計画を作成するのかについて</p> <p>(5) UR都市機構との連携について</p>
7	4 番 川田栄子君	<p>1 新型コロナウイルスの真実と問題について（市長）</p> <p>(1) 新型コロナウイルスが証明されているかについて</p> <p>(2) PCR検査は正しく病原体を検出されているかについて</p> <p>(3) ワクチン接種後、副反応による事象事例について</p> <p>(4) 21年前後の人口動態の変化について</p> <p>(5) 新型コロナとインフルエンザの罹患比較について</p> <p>(6) 新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの有害事象の比較について</p> <p>2 ワクチンの真実と問題について（市長）</p> <p>(1) 3、4回目接種状況、5歳から11歳の接種状況について</p> <p>(2) 基礎疾患者のリスクの優先される基礎疾患について</p> <p>(3) 異物混入ワクチンについて</p> <p>(4) 予防接種法とオミクロン株の関係について</p> <p>(5) 予防接種法第2条について</p> <p>(6) 交接種について</p> <p>(7) ワクチンと地方創生交付金の関係について</p> <p>(8) 接種後の危機管理について</p> <p>3 マスクの真実と問題について（市長、教育長）</p> <p>(1) 医療マスクの網目の大きさとウイルス等の大きさの比較について</p> <p>(2) 子供のマスクの考査について</p> <p>ア マスクのメリット、デメリットについて</p>

		<p>イ 法的根拠について ウ マスク強要について エ マスクの感染予防について オ 体育時、登下校ほか子供のマスク着用の再考について (3) マスクの宣言書について</p> <p>4 土佐の匠の受賞について (市長)</p> <p>5 樺3号線の道路について (市長)</p> <p>6 道の駅サニーサイドパーク建設工事費について (市長)</p>
8	2番 堀 景君	<p>1 環境対策について (市長)</p> <p>(1) 「宿毛でお花おもてなし事業」について ア 事業に対する目的について イ 事業内容について ウ 活動団体の申込数について エ 今後の花のまちづくりについて</p> <p>(2) 市道について ア 木、雑草の除草・剪定時期と回数について イ 今年度の除草・剪定業務の契約状況について ウ 落下物について</p> <p>(3) プラスチックごみについて ア ペットボトルの回収について イ ペットボトルのリサイクルの流れについて ウ プラごみを減らす施策について</p> <p>2 スポーツ振興について (市長、教育長)</p> <p>(1) 宿毛運動公園 (宿毛市野球場) について ア 雨天練習場について イ 補助グラウンドについて ウ テニスコートについて</p> <p>3 観光推進対策について (市長)</p> <p>(1) 咸陽島公園について ア 整備計画と今後の方針について イ 道路整備について</p>

		<p>(2) 県道沖ノ島循環線について</p> <ul style="list-style-type: none">ア これまでの経過についてイ 今後の計画について <p>4 防災対策について（市長）</p> <p>(1) 津波避難タワーについて</p> <ul style="list-style-type: none">ア 使用方法についてイ 耐浪性の有無についてウ 避難人数、備蓄品の有無について
--	--	--

令和4年第2回宿毛市議会定例会議決結果一覧表

議 案

議案番号	件 名	議決月日	結 果
第 1 号	固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を 求めることについて	6月22日	同 意
第 2 号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めるこ とについて	6月22日	同 意
第 3 号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めるこ とについて	6月22日	同 意
第 4 号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めるこ とについて	6月22日	同 意
第 5 号	令和4年度宿毛市一般会計補正予算について	6月22日	原案可決
第 6 号	令和4年度宿毛市国民健康保険事業特別会計補正 予算について	6月22日	原案可決
第 7 号	令和4年度宿毛市特別養護老人ホーム特別会計補 正予算について	6月22日	原案可決
第 8 号	令和4年度宿毛市学校給食事業特別会計補正予算 について	6月22日	原案可決
第 9 号	宿毛市津波避難タワーの設置及び管理に関する条 例の制定について	6月22日	原案可決
第10号	宿毛市国民健康保険税条例の一部を改正する条例 について	6月22日	原案可決
第11号	宿毛市介護保険条例の一部を改正する条例につい て	6月22日	原案可決